

平成18年12月12日

1. 出席議員

議 長	杉 原 豊 喜
1 番	上 田 雄 一
3 番	山 口 裕 子
5 番	大河内 智
7 番	古 川 盛 義
9 番	山 口 良 広
11 番	山 崎 鉄 好
13 番	前 田 法 弘
15 番	石 橋 敏 伸
17 番	小 池 一 哉
19 番	山 口 昌 宏
21 番	吉 原 武 藤
23 番	江 原 一 雄
27 番	高 木 佐一郎
29 番	黒 岩 幸 生

副議長	牟 田 勝 浩
2 番	浦 泰 孝
4 番	松 尾 陽 輔
6 番	宮 本 栄 八
8 番	上 野 淑 子
10 番	吉 川 里 已
12 番	末 藤 正 幸
14 番	小 柳 義 和
16 番	樋 渡 博 徳
18 番	大 渡 幸 雄
20 番	松 尾 初 秋
22 番	平 野 邦 夫
26 番	川 原 千 秋
28 番	富 永 起 雄
30 番	谷 口 攝 久

2. 欠席議員

な し

3. 本会議に出席した事務局職員

事 務 局 長	緒 方 正 義
次長兼総務係長	黒 川 和 広
議 事 係 長	松 尾 和 久
議 事 係 員	森 正 文

4 . 地方自治法第121条により出席した者

市				長	樋	渡	啓	祐
副		市		長	古	賀		滋
副		市		長	大	田	芳	洋
教		育		長	庭	木	信	昌
総	務		部	長	大	庭	健	三
企	画		部	長	前	田	敏	美
市	民	環	境	部	藤	崎	勝	行
福	祉	保	健	部	中	原	正	敏
経	済		部	長	松	尾	茂	樹
建	設		部	長	大	石	隆	淳
山	内	支	所	長	田	代	裕	志
北	方	支	所	長	末	次	隆	裕
教	育		部	長	古	賀	堯	示
水	道		部	長	伊	藤	元	康
市	民	病	院	事	木	寺	甚	藏
総	務		課	長	古	賀	雅	章
財	政		課	長	森		基	治
企	画		課	長	宮	下	正	博

議 事 日 程

第 3 号

12月12日（火）9 時開議

日程第 1 市政事務に対する一般質問

平成18年12月武雄市議会定例会一般質問通告書

順 番	議 員 名	質 問 要 旨
6	6 宮 本 栄 八	1．市政運営の方針について 市民の行政ニーズ調査 市長と語る会の意見と対応 各種審議会等の人選と中間報告 2．環境問題について 旧ごみ袋の再販売 廃プラ収集・その他紙類の収集 下水道マップ見直しの手順 3．企業・特別会計事業について 競輪事業の今後の方針 市民病院の移転等の考え 工業用水の活用への方策 4．道路整備について 国道35号線 北方バイパス関係 区画整理関係 5．商工観光行政について 市街地活性化の駐車場整備 お祭りの今後の開催と補助金 市場化テストの制度づくり 6．教育行政について 総合的学力をつける授業 幼稚園の公平化 地産地消への取り組み
7	27 高 木 佐一郎	1．財政の基本方針について 夕張市の財政破綻の教訓は 武雄市の財政課題への対応は 2．新総合計画について 地域再生の戦略は何か
8	2 浦 泰 孝	1．道路行政について 財源について 安全面からの道路整備 観光、地域振興からの道路整備 2．商工業支援について 商工団体等との連携、支援状況、今後について

順番	議 員 名	質 問 要 旨
9	7 古 川 盛 義	1．少子高齢化による人口減に対する対策は
10	30 谷 口 攝 久	1．総務行政 市政に関する諸問題について 武雄市ではお年寄りが大切にされているか 夕張市問題を他山の石に 町おこしについて 2．福祉行政 こころの福祉とイジメについて 障害者・生保対策等について 3．教育行政 こころの教育とイジメについて 文化振興について

開 議 9 時

○議長（杉原豊喜君）

おはようございます。前日に引き続き本日の会議を開きます。

日程に基づきまして、市政事務に対する一般質問を続けます。

日程から見まして、本日は30番谷口議員の質問まで終わりたいと思います。

それでは、通告の順序に従いまして、6番宮本議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

おはようございます。これより宮本栄八の一般質問をさせていただきます。今回もまた、海か砂漠のように多くの質問を出してしまい、少し反省をしておりますが、よろしくお願いします。

私の意図は事前に質問を提出し、聞き取りの職員さんとも十分に話し、答弁書も既に作成され、市長のレクチャーも受けて、一定の決断を、最高責任者として出た答えがここ10分程度の議論をするからといって大きく変わるはずがないと、そういうふうな思いから、それなら広くより多くの課題を、市長の方針や決意を聞く方が得策と考えるからです。もちろん、私の選挙公約である提案型議員として、ほぼすべての質問には提案もしております。

また、私が以前、議員でなく一市民としてテレビのチャンネルをかえるときに、途中に市議会放映があっていて、ほかの番組も見なければならず、議員さんの質問や答えの前振りが長く、早く回答を聞きたかったという経験から、一般市民にもわかりやすく、Q & A方式にならないかとの考えから試みておりますので、趣旨を御理解の上、よろしくお願いします。

また、県議さんの議会だよりの中で、一般質問の批判を集めたような、その中で、はいは

いと、聞き過ぎというのは私のことかなと思って、ちょっと反省もしております。

ただ、先日の牟田議員と市長のやりとりの中で、市長が議論をしているうちに考えが変わったという発言もありましたので、市長が柔軟に考えを変えてもらえるようであれば、私も少し質問形式を今後再考しなければならないとも思っております。

以上、前振りが長くなりましたけど、まず第1番の質問として、市政運営の方針についてです。

これは、行政の優先順位をどう考えるかということですが、私は現在、武雄市長及び市が大きく人と時間と金をかけている「がばいばあちゃん」について、余り熱心とは言えません。もちろん、武雄市のPR活動に対して反対ではありません。賛助会費やTシャツも買って最低限の支援はしていますが、考えがあって着てはいません。その最大の理由は、市民が行政に本当にしてほしい優先度の高い政策は、観光のPRではないと思うからです。

そう思うのはなぜかというのは、合併のときに市民を交えているんな話があったと思うわけですね。その中で、1市2町になってからはちょっと時間がなく、1市3町の前例を引いて修正した形でできていると思うんですけれども、その1市3町のときに詳細に、6,000人やったですかね、今までになくたくさんのアンケートをとってありました。その中で出た生活満足度の答えが（資料を示す）パネルではないんですけれども、この黄色い線がゼロです。（「何も見えん」と呼ぶ者あり）見えんですね。

では、これを私が見て言いますと、やっぱり市長が公約で当選された雇用、企業誘致がもうほとんどで一番大きいです。その次が、下水道、上水道、公共交通機関と、ここにばっと出ているやつになっていますよね。観光というのはそうでもないです。半分ぐらいですよね。というところから考えて、そういう優先課題にもっと取り組んでももらえないかなという思いがあるからなんです。

また、観光について1市3町のときに住民とみんなで話し合った中のことは、そのときの九州西部のブランド都市ということで一つ構想してあるんですよ。そこには何て書いてあるかと言えば、地域の活性化に――もう途中抜きますけれども、結局はPRが先じゃなくて内発型の発展に取り組むと。そして、内部の充実、景観、農業、観光、連携を強力にした上で、その存在を広くアピールできるというふうな順番もですね、まず自分でいいものをぴしっとした後にPRしようということだったと思うんですよ。だから、それもちょうと逆ではないかなというふうな気持ちもあって、できればここで一回確認をしたいなと。

がばいばあちゃん、ある意味、政治に関心がなかった人が政治に関心を持って結構支援しているということもわかるわけですよ。私がここで考える観光というのは、九州ブランドぐらいの観光だったわけですよ。だから、今市長が言うような、富良野のような全国観光を目指すというところまでみんな考えて発想したかと言えば、そうでもないわけですよ。

ね。

私が今回提案しているのは、その辺を全国ブランドに持っていくんだと、それに力を注ぐんだと、そういうのが、今の下水道とかと比べてどの程度にあるのか私はわからないわけですよ。それが全国ブランドにある程度、我慢してもやっていこうということであれば、私はもう率先してTシャツ着て頑張ろうかなというふうに思っているわけなんですよね。だから、私はしたくないんじゃないくて、優先順位が高くないんじゃないかなという心がそういうふうにさせているんですよ。

だから、これを一回アンケートでもとって、本当にはっきりした形でしていただきたいということが今回の第1回目の問題なんです。前回は、市長は市長でやってください、私は私でやりますからということも、本当は市民からすれば、力を合わせられるところは合わせてやらんばいかんというのが本筋じゃないかなと、そのためには共通認識を市長も議員も市民も持たんといかんんじゃないかなと。そこで、大まかなアンケートじゃなくて、より具体的なアンケートというものをとって、市政の優先順位の共有化を図ったがよいはないかと思って、そのアンケート調査の実施についてお伺いをしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、悲しいなと思って今の質問を聞いておりました。というのも、私は別にがばいを観光だけにするつもりはなかわけですね。きのうの答弁でも言いましたけれども、それを一つのきっかけとして、上田議員の質問をかりれば、1番バッテリーとしての役割を果たすべく、ほんなごて、もう寝る間も惜しんでやってきたつもりであります。これを一つの起爆剤として、武雄の人たちが、まず武雄がどういうところかというのをきちんとわかってもらった上で、こがんよかとこ、その反面ここは足りんねというところを、きちんと把握するのと同時に、やっぱり外の人が武雄の存在ば知らんぎんたですね、それは私はまちづくりにはつながっていかんというふうに思うわけです。

その上で、私は、きのうの牟田議員の質問にもありました国道の話、あるいは下水道の話、本当に全面展開をしています。うちの職員も一生懸命頑張ってもらっています。ただ、私も一人の人間です。全部が、優先順位もさることながら、やっぱり目の届かん部分というとは私もあると思います。そういう意味で、決して市民ニーズの順番から外れたことを私はしているつもりはありません。その上でアンケート、私は実はあんまりアンケートって信頼しとらんとですね。なぜならば、項目一つとっても、文言が変わるだけで10%から20%変わるというのを私はいろんなところで経験をしております。したがって、それよりも私みずからが市長と語る会を開くなど、あるいは議員の皆さんたちが広範に有権者の意見を聞くなど、そういう生のアナログの声というのを私は大事にしたいというふうに思っております。そうい

う意味で、一つの一環として、子供たちと市長と語る会も開催をいたしますし、こういったところに市民の皆さんたちの悩みがあって、あるいは反面喜びがあって、それをどう市政に持っていくか、これが私に課せられた課題だというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

結論的には、アンケート調査は取り方によって違うから、アンケート調査よりも直接の話し合いがいいということになるわけですかね。

きのう、私はこの質問を出して、ずっと今まで思ってきたことが少し解消したのはあったんですよ。きのうの答弁の中で、35号線のトンネルの用地交渉というですかね、トンネルになるんですけど、用地交渉のそれが、がばいよりも何百倍も重要だと言われたところで、ぱっと今までのもやもやが払拭したところもあったはあったんですね。でも、質問は出さんといかんから質問しているということでございます。

そこで、次は市長と語る会の方に移っていくんですけども、市長と語る会でハイブリット車のハリアーですね、リッター17キロ走るのを、その話し合いでリッター五、六キロのガソリン車にかえたということで、大きな転換をさせた市民と語る会と思うんですけども、その中で、特に自分がこういうふうにせんといかんとか、方針に大きく考えを示唆される部分があったと思うわけですけども、その辺について特に気づいた点についてお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

市長と語る会で気づいたこと、その前に、公用車の件は市長と語る会でも意見は出しましたがけれども、総合的に判断を下した結果であって、市長と語る会が唯一無二の決断のきっかけになったというわけではありません。これはちょっと申し上げたいというふうに思います。

その上で、市長と語る会の位置づけは、あれはほんなごてよかとですね。ただ、私が今危惧しているのが、何かこう、内閣府のタウンミーティングじゃなかばってんが、どうもこいば続けていくぎんた、出来レースのごとなってしまうとですね、私はそいば一番心配しております。幸い、武雄はまだそういうあいはなかですね。だから、市民の皆さんたちにはぜひ御参加を願いたいというふうに思っております。その上で、本当の生の声を私も聞きたいと思っていますし、その声をすぐ、担当で言えば地域振興課、地域振興課から各課担当に速やかに浸透するようにしています。その上で、できることはすぐ実践をしております。例えば、バスの時刻表の話が山内町の市長と語る会で出ました。そのときも、やっぱり私気づかんやっただですね、バスにも乗ったことがありますけれども。それで、すぐお願いをして変更しても

らったところでもありますし、時間のかかるものについては地域審議会とか、いろんなところにまた御協力をいただきながら、改善すべきところは改善するようにはしているつもりであります。

したがって、私はそういうメリットが十分これはあるなというふうには思っています。デメリットといえば、今後これが形ばかりにならんごと、血の通ったきちんと意見が通るようなのに続けていきたいなというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

わかりました。改良を重ねてやっていっていただきたいと思います。

次に、市の最近の関心のあることを決定しているのが、意外と審議会というか、条例上の審議会じゃなくて、市長の諮問に基づく大楠を考える会とか、行革懇話会とか、また今度、がばい景観を考える会とかあると思うんですけども、議員はできるだけそういう会議に入らないで、また、議員は議員として別のところで話し合おうということを、ずっと、二、三年前から武雄市でやっているんですけども、ただ最近、市議会議員が知る前に新聞に出て、もう確定した話みたいになっているわけなんですよね。そしてまた、普通の35号線の報告も全然なかったし、何かこう、最近情報は自分で取らんと入ってこないなというふうな格好になっていると思うんですよ。

自民党だって、税制調査会とか中間報告、答申をして、一応それなりの議員の意向、いろんな意見を踏まえて最終答申でなると思うんですよ。だから、今の形でもうばって決められて、大楠も3本と、ああ3本なら若木の大楠を植えた嬉野のやつを1本ぐらい持ってきてもいいかなとか考えているけど、もう今度1本になっているということで、ちょっともう考えとったとが何かむだだったなというふうな感じになったりもしてですね。

そこで、その審議会に頼むというのは私はいいいことだと思うんですけども、その辺のメンバーの決定とか中間報告的なものができないかということについてお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私の、樋渡市政での基本的な方針は、市政にかかわる重要な案件は議会が決めるものだというふうに考えております。その上で、例えば大楠の話、景観の話、これについては、まず市民の皆さんたちに広範な議論をいただく、これが私は市政にとって大事なことはないかというふうに考えております。その上で、中間報告等々の話が出ましたけれども、これは物と事によりますね。それともう一つが、あたかも決まったようにというふうにあります

けれども、決めるときは必ず私は議会にきちんと言っています。35号線の話も、最初に私が申し上げたのもこの議会であります。そういう意味で、私は議会というのをある意味、僭越かもしれませんが、車の両輪だというふうに考えておりますので、その気持ちが揺らぐところはありません。その上でどういう議論があるか、ここは議員の皆さんたちも御議論いただきたいと思っておりますけれども、いろんな市民の懇話会等々には私は入ってきてほしいというふうに思っております。これは別に一議員、執行委員としてではなくて、有識者、やっぱり議員さんは情報ば持っとなさあです。また、私に比べても比較にならんぐらいのネットワークも持っとなさあです。そういう意味で、これは異論、反論はあるかもしれませんが、ぜひ議員各位におかれても、そういったところに私はどんどん入ってきてほしいというふうに思っています。例えば、そこで賛成して議会で反対するというのも私はあっていいと思います。

そういう意味で、そういう懇話会、あるいは審議会について、我々としてはいっぱい情報ば欲しかわけですね。いっぱい視察も行きよんさあです。そういったことで、例えば、この市はこういうことばしようですと、これは我々じゃとてもかなわんです。そういう意味での参加を私は願いたいというふうに思っておりますし、最後の答弁になりますけれども、一番重要なことは、やっぱり我々執行部と議会とよく相談して決めるというふうになろうかと思えます。

ただ、首長にも執行権というのがあります。それと予算というのがあります。それと条例というのがあります。その中で最大限できることは何かということは、お互いやっぱり考えなければいけないというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、議員は入ってそこで情報をということですね。ただ、あんまり議員がおると市民が自由に話せないかなという善意的な遠慮もあったかなと思います。ただ、議員はいいとして、一般の市民の人が決定する前に、こうだもの、ああだものと言いたいところもあるわけですね。だから、その中間報告についてはどう思われるか、お聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

中間報告も物と事によるというふうに先ほど答弁をしたとおりです。例えば、空き庁舎の活用方策、これについては中間報告をもう出したところでもあります。したがって、こういった市政を揺るがす、あるいは市政の重要項目については、私は中間報告をして、パブリッ

クコメントに付して、そして議会の皆さんたちにも全協とかで議論を賜るというのは、これは大事だというふうに思っております。何でもかんでも中間報告というのは、ちょっと私は考えにっかですね。中間報告をつくるために議論の時間がなくなるというのも間々あるわけです。だから、そういう意味で、それを補完するために、例えばケーブルテレビで放映をすとか、あるいは議事録をもう少し今より拡充した形で出すとか、私はそっちの方が現実的かつ具体的だというふうに認識をしております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

私は、何でもかんでも出すというふうなことではありませんので、重要な項目で決まった後しか我々には伝わらんものということにならないように、できるだけしたいということを考えておるわけです。よろしくお願いします。

次に、環境問題についてです。

1 番、旧ごみ袋の再販売についてです。これはこの間、市長の判断によって旧町のごみ袋というのを販売されて、ほぼ店頭から売れていると思うんですけども、私が今回問題で出しているのは、以前に名前を書けない袋が4万枚程度残っていると思うわけですよ。それについても、婦人会の人に名前を書いてくださいと徹底して、幾らか販売した過去の経緯があります。そこで、その以前の名前を記入できない袋について、再販売できないものかについてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

再販売についてお答えしたいと思います。

今「旧々ごみ袋」という言い方ばするしかですね、古いごみ袋のそのまた古かという意味で。で、これが実は5万枚しかもう残っとらんとですね。ちなみに、旧ごみ袋は40万枚近くあったわけです。だから、40万枚ぐらいあれば、ビジネスベースというか、売るというのには意味があると。それと、やっぱりですね、旧々ごみ袋はちょっとおろいかとです。名前のところのあたりとかですね。そういう意味ではもう商品価値がかなり減じていますので、今までどおり、ボランティア活動の皆さんにそれを優先的に渡すといった方が、ぬくもりのある元気な武雄市としては、私は望ましいんじゃないかというふうに思っておりますし、今のペースでいけば3年近くで、もうすべてこちらの手持ちがなくなるというふうになりますので、それはそういうボランティア活動を推進するという意味、あるいは婦人会、老人会、区長会もあるかもしれません。そういった支援という意味で、私は旧々ごみ袋は活用していきたいなということを柔軟に考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

よろしくお願いします。一応私のあれでは、部長がそのごみ袋をここに見せてくれるかなというふうに思っていたんですけども、市長、ありがとうございます。

次に、2 番目の廃プラ収集・その他紙類の収集ということです。

廃プラの収集については、前回、容り法のプラスチックと、普通のおもちゃとかプラスチックのいすとかですね、そういうのを分けた方が処理費が安いということを提案したと思いますが、市長はそれは検討するということで、そこまで私も立ち入って言いませんけれども、今度19年からするとしたら、やっぱり皆さん事前に集めんといかんと思うわけですよ。例えば、私が次の質問の紙箱類ですね、前回質問してから2カ月で、こういろいろ集めているんですけども、やっぱりそのとき出すといっても出せないんですよ。ずうっと丁寧に集めていかんと出せないわけだから。だから、19年の4月からするか、5月からするかはわかりませんが、やっぱり保存できるやつはみんな集めると思うんですよ、べたべたしたのじゃなくてですね。だから、そういうのはそうむちゃくちゃないと思うんですよ。ある程度その時期を言ってもらえばこちら準備ができて、第1回目の収集日もばあっとこう、たくさん集まるということになると思うんですけども、その辺の大体のめどを教えてくださいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎市民環境部長

○藤崎市民環境部長〔登壇〕

お答えいたします。

廃プラの分別収集の処理計画につきましては、19年度内の導入を前提に準備中であります。現時点では導入時期についてはまだ決定しておりませんが、決定し次第、導入スケジュールに沿って、できるだけ早く皆様への周知を図ってまいりたいと考えているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長の答弁に補足をします。

19年度は、4月から開始にしても3月31日まであるわけですね。今、私としては、さっきも副市長と相談しよったばってん、19年度当初はやっぱり難しかですね。だから、19年度も導入したとしてもかなり遅い時期になると思います。

それは2点あります。一つが、これをやることによってどうも15,000千円の増になるみた

いですね。収集に、今は全部こう突っ込みようわけです。それを、廃プラを分別することによってプラスアルファが15,000千円かかるといったこととか、さっき宮本議員からもありましたように、その周知の時間にやっぱりちょっと時間がかかるだろうと。それともう一つが、どういうシステムでやるのが一番効率的か、これはやっぱり合併直後でもありますので、時間がもう少しかかるかなというふうに考えております。これの拙速は私は避けたいというふうに考えておりますので、十分また議会とよく相談して詰めていきたいなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

容り法だけ集めれば、多分4千円、5千円ぐらいだからですね。ただ、その収集をどういうふうに考えるか、今までも持っていつているから、同じ収集の中で収集業者にさせれば安くなるわけですね、もうけるわけですよ。ただ、別途手数料というのですか、そういうのをつけて集めればあれだから、それはまあ考え方、やり方だと思います。別に急げというんじゃないで、するなら早目に言っとかんと集まらんですよということでですね。そういうことを言いたいと思います。

そして、そのプラスチックが遅くなるなら、多分そのプラスチックよりもこの紙箱が多分重みがあるんじゃないかなと思うわけですよ。だから、クリーンセンターへの持ち込みとしては、こっちの方が重くはないかなというふうに考えているんですけども、この紙箱も資源回収のときに私が受付担当であるんですよ。でも、例えば武雄区で500世帯あるんですけども、この紙箱を持ってくる人は8人ぐらいですかね。結局、そういうふうな状況ですよ。プラスチックはお金かけて集めるというのはあれですけども、今これの場合には、持ってくれば逆にお金をもらえますよね、有償なんですよ。だから、もっとこっちも宣伝して、持ってきてもらうようにちょっとPRを、まずこっちをした方がよくないだろうかというふうに思いますけれども。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎市民環境部長

○藤崎市民環境部長〔登壇〕

確かに議員おっしゃるとおり、紙箱、紙類というのは、なかなか資源物の収集日には少なく排出されているかと思います。このことにつきましては、もう資源物として私たちも皆さんの家庭に配布しております「武雄市の家庭のごみ、資源物の分け方、出し方」の中で、資源ごみの中にちゃんと「その他の包装類、紙箱」ということで記載はしておりますけれども、市民の皆様にはまだなかなか徹底していないところがございますので、こちら辺につきましても、先ほど申されました紙箱、紙類についても、今後十分広報してまいりたいと思っております。

ます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

よろしくお願いします。多分知らない人も多いと思うですよ。知っている人はもうずっと出しているんですよね。それで、私が以前、これを1年間、四つぐらいためとったとですよ。その集積場に持っていったら、冬だったからたき火にされたんですよね。そのくらい皆さん知らないんですよ。受け取る方もよく知らないというか。それでもう、ちょっと怒ってですね、物産まつりの警備をしている環境課の人をその場に連れてきて、いろいろ話をしたら、「いや、地元の方で決定されていますから」とかなんか、感じで言われてですね、こういったこともありましたので、集める方も出す方もよく理解していないというところもありますので、よろしくお願いします。

そして、できればケーブルテレビに出て、こうして箱を破って入れるとか、これはこうする、プルタブ取るとか、そういうのを、冊子を見てここに書いてありますじゃなくて、もうちょっとその辺の広報もお願いしたいと思います。

続いて、環境の3番目、下水道マップの見直しについてです。

先日も質問に出ておりましたように、武雄市の場合には下水道が他市に比べて大きくおくれしております。それはまあ、高架・区画整理とか、そういう8万都市でしかできないのを3万都市でしたということで、それはもう議会も賛成して選択したことだからやむを得ないと。学校整備もおくれると言いよったけれども、国が最後の方に残ったお金を教育費に回してずっとつけてくれたから、学校はずっとできてきたというラッキーな面もあったと思います。

ただ、その下水道については自分でせんといかんと、特例債を利用すればいいかなというふうに思っているんですけども、その中で、結局、今の計画で言えば旧武雄市を全部するのに100年かかるわけですよ、今の計画をずうっと当てはめていけば。それは大変なことだと。そしたら、1工区が30年ぐらいで終わるならば、市町村設置型の合併浄化槽を入れれば、その下水道のできる30年で浄化槽も設置して、30年で全部できるんじゃないかなということを提案をしたわけなんですけれども、それも、阿南市に行政視察に行って、そこが下水道をしているのに、議会からは市町村設置型をせろせろというふうな話が出ているというのを、議会全員で出す議会だよりというですかね、その中で見つけたわけですよ。そこから法律が変わったということではいっているんですけど、もう16、17、18と3年も、前の市長さんは速やかに取り組むということだったんですけども、計画がずれずれになってですね。何でできんかという、計画がずれずれなんですよ。それは市民との対話の中じゃなくて、原課が計画をつくる中でずれずれになっておりますよね。だから今回も、今年度実施て言い

よったけど今年度につくると、今年度つくるが今年度は末から話し合はんばいかんとか、全然この計画がはっきりせんわけなんですよ。

それで、その計画についても、砺波市という同じような計画を変更したところに行ったんですよ。そこでも計画変更についてのお話を聞きました。そしたら、その下水道マップの変更スケジュールというのを、もうぴしゃっと最初につくってあるんですよ。そして、その検討の中には、市役所の中の検討会議、そして住民を集めた下水道検討委員会、そして議員を集めた下水道対策特別委員会、そして市議会、そして富山県と、そこでの説明を一覧表に書いてあるわけなんですよ。そして、議会なんかも、まず基本計画見直し作業の手順についての説明をするて、もう一番最初にこういうふうにコンサルに出して、こうこうこうこう、こうやっていっていきますよということを議会に最初に説明してスタートしているんですよ。今の武雄のあり方は、まずコンサルに出して、出てきてみてからというふうな、そういうふうな格好になっているんじゃないかなと。

それで、庁内でも2回、住民では3回、議会の特別委員会でも2回、市議会でも3回の中間報告と手続をしてあるんですよ。だから、武雄市もそういうふうにぴしゃっとタイムスケジュールをつくって、皆さんが合意をできるような形にしてもらいたいと思うわけですよ。今までも下水道マップの見直しは何回かありましたけれども、それは結局もうできんとわかった上で、ただ、この地域に当てはめるのはどれを当てはめるということで、直接住民とは、その年数も関係なく、実施時期も関係なく作り直したマップだったんですよ。でも、今後は、きのうも話出しましたが、山内町は全部していると。それに、あと残りをどういうふうにするかというのは、絵にかいた計画じゃなくて本当の計画になると思うんですよ。だから、今までの計画とは全く違う計画になるんじゃないかなと。そこで、やはりタイムスケジュールをはっきりすることが、逆に言えば、しっかりした汚水処理計画ができるんじゃないかなと思って、まず、そういう計画のスケジュールを、これも前からやっていたんですよ。だから、こういうのと一緒じゃなくても、スケジュールを皆さんに提示していただきたいと思いますけれども、その辺についてのお考えをお聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

砺波市のやり方を今おっしゃっていただきました。私は、今の武雄市は砺波市に至るまだ3歩ぐらい手前だと思うんですよ。というのも、合併という不確定要素がまず今確定したばかりであると。それと財政状況です。やっぱり3年前の見通しの財政状況と今の置かれている状況というのは、もう激変しちゃうわけですね。そういったところでタイムスケジュールだけつくっても、先ほどおっしゃったような絵にかいたような計画に私はなっていると思います。その前に、まず責任行政を進める観点からどういうふうにしていくか、きのうも建設部長が

ら答弁しましたとおり、やっぱり使用料の問題とエリアの問題、あと各工法の問題というのは、もう少し事務的にしっかり検討すべきだというふうに思っています。この検討の中には私も当然入っております。その上で、こういうふうにしていこうという行政の中での腹づもりができた段階で、タイムスケジュールですかね、ロードマップというんですかね、下水道マップというんですかね、そういうふうに展開をしていくべきだろうというふうに思っております。やっぱり行政の中でしっかり固めて、これはやるべき問題だと。下水道百年の計を考えた場合には、私はそういうふうにしっかりした土台、礎が必要ではないかというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

下水道マップと達成するロードマップとはまた違って、エリア地区をどう分けるかという計画の見直しをしているから、その見直し作業についてのスケジュールをはっきりしてくれということです。何もお金が絡むわけではないので、よろしくお願いします。

そこで、お金はお金でまた別の話ですればいいわけで、きのう、市町村設置型の合併浄化槽をして、その維持費もそっちが払うような話をしてありますけれども、全然そんな話じゃなかったと思うんですね。ただ、設置するときにしてもらおうということであったと思うわけですが、その辺を明確にするためにも、見直しのスケジュールということであって、実施のスケジュールじゃありませんので、できるだけつくって明確にさせていただくようお願いしたいと思います。

次に、企業・特別会計事業についてです。

これは、きのうもたくさん質問が出ておりましたけども、結局、夕張市が破綻に陥ったのも、本会計だけしていれば、税収は少なくとも、その市が生きていくだけの交付税措置はあるわけだから、絶対つぶれることはないシステムになっているわけですね。なぜそれがそういうふうになっているかというのは、余分にした分、普通の自治体を運営する以外にした分の食い込みを入れ込んで本体が崩れたということになっているわけだから、本体自体していれば何も問題はないわけですよ。それを当てはめると、武雄市も本体以外のことを少し対応して、本体を崩さんようにしとかんばいかんと。そういう思いはもう数年前からあって、私が特別委員会の方ばかり好んで、そちらの方に参加しているのは、そういう理由からなんですけれども。

本体の方は大丈夫だから、本体じゃない方をまずやらんといかんということで、第1番目に競輪事業の今後についてです。

私は、競輪事業も急にもうけるとか、そういうふうには思っていないんですけれども、ある程度考え方をしっかり持っていかなと、また本会計から一時借り入れして、一時借り入れ

が続いていって、返せない負債になって、あきらめみたいになるといかんからですね。だから、ある程度の時期に考えをしっかりとかんばいかんというふうに思うんですよ。それは私が考えたわけじゃなくて、武雄市が平成15年に出了された競輪経営改善計画の中の、いっばいあるんですけど、要点は1ページのこの半ページにある内容になるんですよ。それは、場外をつくっても本場が減っていった本場の赤字が膨らんでいけば、結局は成り立っていかないということなんですよ。これはちょっとどうかかわからんですけど、場外をたくさんつくって、その分をカバーすればいいだけという考え方もあるんです。

そして、もう1点、ここに最後に書いてあるのは、いろいろあっても見直しが必要と。これをやめるか続けるかの見直しということと思うですよ、ここ前は省略してあるようですけども。どのような形で競輪事業を見直すべきか。決断すべき適切な時期（見直しに伴う費用が最少であること）についても検討が必要であると。ある意味では、苦しくなった状況の中で、どう後処理をするかも考えておくべきではないだろうかということを書いて――これは書いてあるというか、武雄市からもらったわけですよ。

だから、私もこの間、新市長になったときに、どういうふうな売り上げ拡大か、経費節減の方針なのか、そして、これを今後どう続けていくのか、やめるとかの判断はどういうふうになるんですかと聞いたところ、売り上げ拡大は中国人を短期的に連れてきて場内をいっばいにしたらもうかるということですけども、そういうふうな話でそっちを獲得する。そして、こっちの精算とか、そっちの方の検討というですか、それについては、もうそれをやめよったらいろいろ金のかかって、何十億円かかると。だから、ちょっとそっちの方は考えられないというようなお話じゃなかったかなと思うわけですよ。

だから、やっぱり私は、もう本場が稼げんやったら場外、この間言いましたように、沖縄とか福岡県の周辺とかですね、もうどこもかしこもできんだから、そういうのに早う取り組んでもらいたいなということと、やめるに当たっては、いろんな、清香奨学会にもとどおり返すのが、どの状態がもとどおりなのか、そういうのの話し合いもせんといかんとかかなと。そして、前は選手に対して補償金を払わんといかんやった。この間の裁判では補償金は要らんとかなった。その辺の検討についてもやるべきじゃないかなと思うんですけども、そこについて聞きたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

平成14年度に競輪の健全化計画を策定いたしましたけれども、その時期と現在では、車券の発売状況とか、競輪を取り巻きます状況、環境が変わってきております。一つには、平成17年度には14年度に計画をしていなかったビッグレースのふるさとダービーが開催をできた

と。それから、今年度の記念競輪では計画以上の売り上げが達成できたということ。また、現在赤字を出しております本場開催の日数を1節、3日間ですけれども、減らすことができた。それから、場外発売日数を倍ほどふやすことができた。こういう状況が変わってきております。そういうことから、昨日も申し上げましたけれども、平成17年度決算では、ふるさとダービーが開催できたということで1億円を基金に積み立て、翌年度へ216,000千円程度の繰り越しを出すことができたということでございます。

それからまた、現在、日本自転車振興会交付金の還付金、この分の検討がなされております。それから、本場開催日数のさらなる削減、この制度も検討がなされております。あわせて、本市では新しいサテライト売り場の拡張、それから経費節減に努めているところでございまして、現段階では制度改正の中身とか売り上げの推移を見ながら事業の継続を図っていききたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今後の方針について私からお答えしたいと思います。

今のところの気持ちは、さきの議会で答弁したとおりであります。宮本議員から紹介があったとおりであります。その上で、私は一つ提案したいことがあります。

私も18年間、武雄を離れておってですね、競輪の位置づけです。少なくとも「たけお競輪」というのは、東京あるいは大阪からあんまり知られとらんわけですね。それともう一つが、市民の皆さんたちに、本当に自分たちの競輪だという認識があるかどうか。私は率直に言って非常に疑問に思っています。

そこで一つ提案があるのは、競輪場から競輪の選手たちが飛び出してほしかとですね。例えば、国東半島で毎年行われている、もう25回、28回でしたでしょうか、ツール・ド・国東です。あれの情報を知ったときに、私は一つときめきを覚えました。毎年1,438名平均して集まいよんさあです。それは別にプロ競輪の皆さんたちじゃなくて、全国からサイクリングですよ、ロードレース、その人たちが集まって、一番長かとは150キロぐらいです。一番少なかつても15キロぐらいで、それはもうレベルに応じて、体力とか年齢等に応じて、そういうことをしよんさあわけですね。そういう意味で、武雄でも競輪選手を含めた上で全国からいっぱい競技人口のあると思います。そういった方々と、ぜひ競輪を盛り立てるため、あるいは市民の皆さんたちに認知してもらうために、そういうロードレースができないか。フランスではツール・ド・フランスがあります。ベルギーでも同じような話があります。物すごく市民の皆さんたちに親しまれておるわけですね。そいぎ、例えばそこに宮本選手が走りよったと、黄色い帽子をかぶってですね、まあ色は何でもよかばってんですね。（発言する者あり）えっ。

〔 6 番「青い旗かなと思って」 〕

済みません、それは失礼しました。青い旗をね、帽子をかぶってね。そいぎ、格好よか走りねて、佐賀強かねて、逆境に強かねていうぎ、そこで、本場開催で走りよんさあ、その格好いい宮本選手を見に行こうとか、そういうふうにならないかなと。どうしても競輪場だけでしよったら、やっぱり市民との接点というのがなかわけですね。私は、一朝一夕ではなかなかこれはなかと思います、その競輪がわあっと盛り上がることは。しかし、時間はかかるかもしれませんが、競輪に関心を持つ市民であるとか県民の皆さん、そういった方々をふやすために、どういったことが必要かというのが今求められると思います。幸いなことに、そういうロードレースを武雄でしませんかという申し出が私のところにも来ております。ナイスチャンスです。千載一遇の機会ととらえて、今後、行政としてもそれを積極的に検討していきたいと思いますし、議会の皆さんたちにも積極的な応援をお願いしたいというふうに考えております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○ 6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

まず 1 点目の、競輪選手にもっと皆さんの中に出てきてほしいというのは、私も本当一緒に、その原課の方にも言ったことあるんですよ。武雄にもたくさんお住まいですし、私の子供も、同級生のお父さんが出ているときには、「ああ、この人、1 番よ」とかいう形で、ちょびっと覚えているというところもあると思うんですけども、それはよいとして、先ほど部長、いや、予想以上に売り上げが上がってと言うならですよ、でも 160,000 千円赤字なわけでしょう。それは自分の計画が低いからじゃないですか。落第する 60 点を目安にひとつ、70 点やったもんねと。そいばってん、80 点が合格ラインやったというごた話ば今されよつとじゃなかかなと。そいけん、まずそれを言うならば、80 点の合格ラインに目標を置いて、それに届くか届かんかは知らんけど、もう最初から落第するとわかっていて、落第する点数の幾らを言ったって、ちょっとあんまりこう、私が最初から言う、これはもうからんでよかですよ。ただ、言いようごと、夕張市のごと本会計からぼこっと持っていけば、この間の固定資産税の 1.55 の 0.05 で 50,000 千円なんですよ。

だから、それぐらいはもうやったと思えばよか、前からそれは言いようですけれどもね。もう言いわけなんですよ。だから、そこは、できんことをせろては言わんすけれども、そういうふうにして低い目標で達成したという感覚であられたら困るかなというふうに思いますので、協力はしますけれども、早く場外をですね、鹿児島施設の設置者の小原さんですかね、あの人が頑張って鹿児島中央部にでかいやつをつくってくれるのかなと期待しとったわけですよ。しかし、やっぱりいろいろ諸事情があって、小さい窓口販売になったから、そ

うちの方も大きくつくることは期待できんなら、もうそういうほかの人に頼まんで、本体自身が、副市長でもそういうのに動いていただければなというふうに思います。以上で競輪の方を終わります。

次、病院についてです。

病院については、平成11年ですかね、12年からになるんですけれども、もうすぐ10年になります。そのときに、病院を引き受けるけど、今採算ラインに乗っているのは200床ぐらいからしか乗ってないと。100床ぐらいじゃ、もうはなからだめばいと。そいけん、結核の方もしながら病床をふやそうというふうな感じでやっていたと思うわけですよ。そして、その10年前にも、大きくするのか、そこにおるのかという議論を私がしていたら、いや、もうあそこは移譲したときに縛りがあって、10年間、病院以外は使えないということであるならば、10年間はここで病院を続けんといかんと。だから、そういう発展的なことは考えられねと、10年間ここで我慢せんばいかんということだったと思うわけですよ。しかし、それがいいよもうすぐ10年を迎えるわけなんですよ。

だから、ここで、もともとと言っていた東部地区も、商業地区の横は福祉医療ゾーンなんですよね、武雄市が決めた、そこに誘致していくということで、どちらかと言えば武雄市が率先して、市民病院をそこに大体は移さんばいかんわけなんですよ、その計画からいけば。だから、ここで今みたいな形でやっていくのか、健康診断から何からいろいろできる、市長が言う広域的な、小児科も診れるようなものをつくっていくのか、今すぐじゃないけれども、縛りがとれるというのがわかってきた時点で、ある程度考えをめぐらしていかなばいかんとやなかかなと。そこで、計画書をだれかにつくらせて黒字でいきますよと。建物がきれいになる分、佐大からもたくさん先生が来てくれると、それで売り上げが上がると、そしてもうかっていくというふうな形も考えられるんじゃないかなと。それで、私も、まあほかの人も考えているかもしれませんが、広域的にやるなら大町の60床も一緒に、あそこも古くなっているから、合わせて広域的に200床近くにして運営した方がいいんじゃないかなという考えもあるかなというふうに思うんですけれども、その辺の市民病院の将来像について市長はどういうふうにお考えか、お聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

大田副市長

○大田副市長〔登壇〕

今議会初めての登壇で緊張しておりますが、病院についてでございますけれども、きのうの吉川議員の質問に古賀副市長が答弁しましたように、非常に厳しい状況にあると思っております。累積赤字が533,000千円、非常に高い数字がありますので、厳しい環境にあると思っております。非常に危惧しております。きのうの古賀副市長の答弁にありましたように、現在、17年度、18年度、2カ年にかけて経営診断をしております。まずはその中身を見ても

たいと思っております。

それから、移転についての質問もありましたけれども、現時点では考えておりません。まずは診断書に沿って、病院長をトップに経営改善に努力していただくのが先決だと考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

私は絶対大きくせろということじゃなくて、そのときにそういう議論もあつとったと。200床以下でしたってずうっと苦しいですよ。私たちがどこか視察に行ったところも、四国の、こっちの半島の方ですけども、行ったところでも（「大洲市」と呼ぶ者あり）大洲市やったかな、そこも結局、旧療養施設だったんですかね。もともと療養施設で行きにくいところを移譲を受けているんですよ。もともと隔離というんですかね、そういう形のところをしているから、もともと行きにくいのは当たり前になっているんですよ。だから、行きにくいところじゃなくて行きやすいところに移ったということで、経営のことですけども、病院も赤字と言いますけれども、減価償却費をとっての赤字なんですよ。減価償却費というのは、普通は銀行に本体を返すお金になるんですよ。だから、減価償却費をして赤字ということは、減価償却費が払えないから、元金が払えないのかなと思ったわけですよ。そして、公立病院は何か違って、本体の償却費は国の補助金になるとですかね。そこで、決算書を見ていたら払えているんですよ。だから、医業を運営する分と本体を償却する分が別になっているから、大きくつくっても、そこがそれに見合った交付税が来れば、その本体分はただだから、中の機能だけを黒字化すればいいんだから、全然できんことじゃなかなかなと思ったわけなんですよ。だから、この本体まで全部上から払わんといかんなら難しいと思うわけですよ。でも、今の決算書で見たところでは、いや、本体の分は補助金で適用される正規の補助金で払えているから、そういうのができるんじゃないかなと思いますけれども、それは、その報告書を見てからまた話したいと思います。

次に、工業用水の活用の方策です。

工業用水については、50,000千円、本体からずっと払っているわけなんですよ。その50,000千円というのは、先ほど言う固定資産税を0.05%下げたお金に当たるんですよ、だったと思いますけれども。だから、これを売ってゼロにすれば自動的に0.05%下げられるんですよ。だから、その辺で工業用水の活用について、牟田議員の方からきのう提案してもらったけれども、そういう部分もありますけれども、まずはその50,000千円分を使わんといかんということで、前は発光ダイオードの方でほとんど使うからいいということだったんですけども、今度の決算委員会で聞いたら、今度の新しい残り区画に予定の企業を入れても1,000トン余るということですので、もう半分は余るということなんですよ。だから、そ

の辺についての、1,000トン余ということがわかった上での今後の考え方についてお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

武雄市内の工業用水につきましては、今、県営の武雄工業団地の方に給水をするということとやっておりますが、現在、武雄の工業団地があと1区画ということで、2ヘクタール残っておりということで、恐らく全部を使い切ることについては、いかないということとを考えております。そういうことはありながら、現在は工水を使う企業をとにかく呼んでくるということで誘致の活動をしております。

それから、先ほど質問がありましたように、ことしの9月の議会で予算をお願いしました適地の調査も現在行っておりますので、余裕が出れば、その分については新規の工業団地に回していくということとを考えておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

新規の工業団地に回すということですね。そしたら、新規の工業団地の方を急いで頑張っていたきたいと思います。

次、4番目の道路整備についてです。

国道35号線については、きのうのですね、踊瀬付近の立入調査の許可についてです。これは、前回市長はまだ行かないというふうなことだったので、市長に行ってほしいということが質問の趣旨だったんですけれども、聞き取りのとき、市長が行く前にもう解決しているということだったので、一応それを取り下げてという部長の説明でしたので、もうそれは出さないということで、かわりに、498号線の今度若木にできる道路の件で、私は今まで498号線の会議は何回も出ましたけれども、ルートをはっきりいつも言ってくれないわけですね。それで、今度498号線がはっきりしたということで、最近聞いたら、今市長が盛んに一生懸命されている大楠というのは、大楠本体というよりも、大楠から向こうの田園とか山の立林公園じゃないですけれども、借景を利用してあの木が生きているわけなんですよね。そのちょうど木と借景の間に盛り土がぶわっとできて、準高速が走るというわけでしょう。だから、本当にこの3,000年、4,000年の歴史という楠のですよ、その目の前を通過して、上から楠を眺めるような格好になって、本当にそれでいいのかなと。もう一回、県に再考をですね（「もう地元説明会は終わったでしょう」と呼ぶ者あり）終わっとうけん、それでほんなごてよかとかなというようなことを思うんですけれども、市長はどうお考えですかね。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は全く心配はしておりません。というのも、大楠を見たときに、議員も見たことあると思いますけれども、借景はなかですね。

〔6番「あるある」〕

いや、なかですよ。見てください、大楠を見たときに、どこのアングルから見るかといったときに、国道498号線の方から見た場合には、あの大楠で隠れてしまって、基本的に私はその借景はないというふうに思っております。仮にあったにしても、そこから100メートル以上離れるわけですね。だから、そういう意味で、私は景観は阻害しないというふうに認識をしておりますし、私は悲しかです。地元説明会を一生懸命した上で、なおかつ、そこで地元の皆さんたちが、これでよかたいと、涙をのんでしてきよんさあ部分があるわけですね。そこを、――〔発言取消〕――その場面で言うということに関して言うと、私はある意味で、それだったらもう少し議論の途中で、議論の中で私はおっしゃってしかるべきだと。このタイミングでおっしゃるといのは、若木の皆さんたちがどのように思われるかといったことを考えると、私は甚だ残念であります。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

いや、何年も何回も出てきたですよ、498号線の。そして、ルートを明かせ、ルートを明かせと何回も言ってきたですよ。でも、ずうっと明かさなかったですよ。待ってくれ、待ってくれ。だから、私が知らないというよりも、そういうのは一言ぐらい、そこで臨時に498号線の総会、今度は呼ばれてなかったのかな。（「11月あった」と呼ぶ者あり）そいけん、そこに呼ばれてなかった、今度は呼んでなかったのかもしれんですけど、市長は借景は利用してないと、それが全然関係ないと言われるならいいんですけども、その大楠にですね、上田正樹さんと夫婦でオカリナを吹いていた人が……

○議長（杉原豊喜君）

私語は慎んでください。

○6番（宮本栄八君）（続）

インタビューで言っていたですよ。その大楠もいいけれども、大楠の周辺もいいから、ここは全体がいいんですよ。だから、これだけじゃないんですよということを言われたのが耳にあるわけなんですよ。以前も、あそこに家か何かできたら困るけん、市であの辺も買った方がよかじゃなからうかという話も前聞いたこともあるわけなんですよ。ただ、市長が全然構わないと言われるなら、これ以上、私も言う必要はありませんので、そういうこ

とで、私はちょっとおかしいなというふうに、武雄区の楠も公民館のために切ろうかなと、いや、公民館ばうっかががさんばいかんという話になったりも、よくよく考えるとあるわけなんですよ。それは武雄区の大楠です。

○議長（杉原豊喜君）

ここで暫時休憩をいたします。

休	憩	10時 8 分
再	開	10時 9 分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

先ほど市長の答弁の中で、－〔発言取消〕－という言葉が発されましたけれども、この件につきましては、市長から削除の申し出がありましたので、これを許可したいと思います。（「自分の口で言わにゃいかん」「何も言うもんされんごたですよ。申し入れあったとですか」と呼ぶ者あり）

暫時休憩をいたします。10時20分まで。

休	憩	10時10分
再	開	10時24分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

市長より発言の申し出がっておりますので、これを許可します。樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど議長に申し入れをいたしましたが、私の発言に不適切な部分がありましたので、発言を取り消させていただきます。議会の皆さん、お待たせして申しわけございませんでした。

○議長（杉原豊喜君）

次に、大石建設部長より発言の申し出がっておりますので、これを許可します。大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

国道35号線のS字カーブの件につきまして、宮本議員の方から、市長が行く前にというふうな話がちょっとございましたけれども、12月4日に市長が地権者の方を訪問して、その後、地権者の方からオーケーだという連絡ございましたので、市長が訪問して初めて了解を得ましたので、ここで改めて宮本議員の発言に対しまして、返答させていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

私もちょっと言いたいことはたくさんあるんですけども、ほかのあれもありますので、ま

たそこは日時をきちっと精査して、また発言したいと思います。

次に、2番の北方バイパス関係についてです。

これは私も合併したら、武雄と北方の間を行くときに、大崎付近でいつも停滞していると。これが合併すれば解決するんじゃないかなというふうに思っておりましたけれども、市民の方もそういうふうに思われた方多いんじゃないかなと思います。そこで、私は北方バイパスがもっと話が進んでいるのかなというふうにちょっと今まで誤解していたんですけども、この間聞いたところでは、今から国会議員さんに要望したりということだったので、これは合併してこの10年間の間にできんやなかかなというふうな気持ちを持ったわけです。でも、あそこに関しては、もう速やかにでも工事をしてもらいたいと思うわけですよ。そこで、今回の提案というのは、本来の北方国道のバイパスじゃなくて、県が合併するときに約束した道路整備の優先順位、合併する周辺市町村、合併する市、そして合併しないところというふうな優先順位をつけて道路予算をつけるということを言われていたと思います。そして本庁につながる幹線については最優先にしてくれるということだったと思いますので、この県道バイパスでまずはしておいて、その498号線も最初は県道だったですね。県道を国道に昇格した。だから、そういう形で県に合併のお約束でつくってもらって、将来的に国道に昇格させるという方法を考えんと、いつまでたってもこの行き来がスムーズにいかないんじゃないかと思いますけれども、その辺で、県に合併のお約束である幹線道路整備に絡んで、このバイパス的なものを要求できないかについて、お聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

この国道34号線のバイパスにつきましては、以前よりその推進に努力をすべく要請をいたしているところでございますけれども、この地域はJR佐世保線、六角川が接近をしておりますし、非常に軟弱地盤であるというふうなことから、非常に道路選定、路線選定、そういったものにまだ至っていないのが状況でございます。しかし、国によって既に用地の一部が買収をされておりますし、現在もその計画が継続して進められている状況でございます。この段階でございますので、県で合併支援道路整備事業として、県道のバイパスというふうなことは重複するというふうなことから、現実的には非常に難しいというふうに考えております。市としては国の整備を後押しをし、要請をしていきたいというふうに考えておるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

軟弱地盤とか道路の選定とか、この武雄市の管内道路図のはじっこの北方の部分のその大体の道路の方は点線で示してあるんですよ、ここに示してあるんですよ。だから、そう選定には時間がかからないんじゃないかなと。まだこれについては次回も詳しく調べてやりますので、よろしくお願いします。

次に、区画整理関係です。

区画整理の道路に関しても、地元の方から新しく建物を建てるけども、建てた場合に、後ろの出入り口の通路がとれないと。そしたらまた、昔のように表の方からごみ出ししたり、別通路をつくってせんといかんということで、後ろに通路をつくってほしいという希望が出ておりますけれども、それについて、いやもうそういうのはできないというふうに言われていますけれども、後ろから勝手口が出れないようなお店というのが、今からそういうのが存在するのか、なかなか疑問に思うわけですよ。だから、そこは知恵を使って、後ろからもごみなり搬入をできるように、従業員の交代ができるように考慮すべきだと思いますけれども、その辺についてのお考えをお聞きします。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

議員の皆様方には、議長の許可を得まして説明資料としてお渡しをいたしておりますが、市民の皆様にもわかるように、パネルを上げたいと思いますので、よろしくお願いしますと思います。（パネルを示す）言葉そのものが非常にわかりづらいところがございます。背割線と言われておりますけれども、その背割線というのが、どういうものかといいますと、皆さん方のお手元に、これと同じものを差し上げておると思いますので、それを見ていただきたいと思いますが、ここの赤で示しているのが背割線でございます。それがどういった形になるかといいますと、上の方の横断面のところを見ていただくとわかりますように、川端通りの建物がございまして、その先、松原通りの建物がこちら側に配置をされます。そうすると、線路が今ここのところにあるわけですが、そのこのところで、どうしても段差ができます。これは現在の地形を見ていただくとわかりますとおり、どうしても段差をつけないければ、うまくできませんので、向こうの方が落とすわけいきませんので、どうしても段差ができます。そうすると、そこに段差ができるところに背割線で道路というのが非常にこういう形になりますので、片方はここの人は何とか使える可能性もあると思いますが、この人は、ここを通るときにのぞかれるような形、ちょっと極端なこと言えばなってくるわけですね。こういった形になるもんですから、これについては非常に難しいだろうと。ただ、ここのところに少し用地がありますので、人が出入りするのとは可能だと思いますが、背割線をつくって道路をというのは、非常に難しいというふうに考えているところでございます。

御質問の趣旨はわかりますけれども、この地形上、それからこの家を建てたときのことを考えますと、背割線は非常に難しいというふうに判断をいたしていると思います。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

背割線のところにわざわざぶつけるような計画をするからでしょう。背割線を中心に、背割線のためのまちづくりですか。そうしたら、もっと家の方を横長にしてですよ、間に入れてもいいんじゃないですか。背割線があるから、背割線のためのまちづくりをして、店が利用しにくいというのはおかしいでしょう。それは背割線の解消とか、それをもっとこっちの家の方までくっつけて、そこで背割線にして空間をあけてつくとか、いろいろあるとやないですかね。そいけん、ちょっと私はそういうふうに思います。つくるべきだと思います。つくらんで中途半端なのをつくっても意味がないと思います。

次に、区画整理関係では、高架の切りかえが20年に行われますけども、今度は考えが線路から道路の方に行きますよね、上がっていくから。すると、計画する大きな大交差点が4カ所、5カ所できると思うんですよ。でも、反対側の道は大きくなりから、計画は大きな交差点ですけども、実際の何十年間に変形交差点になると思うわけですよ。だから、その変形交差点の計画をつくって、市民にこういう変形で何十年やりますよという計画を示さんといかんと思いますけれども、その辺についての考えをお聞きます。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

区画整理区域内の主要交差点は、松原、西浦、それから駅舎横の永松、小楠の4カ所がございます。計画としましては、松原と永松の交差点は完成型ということで予定をしておりますが、西浦と小楠の交差点は、御質問のとおり、一部が暫定型にならざるを得ないというふうに考えております。現在、関係機関、公安委員会とか道路管理者の佐賀県とか、協議を行っておりまして、協議が調い次第、交通安全確保のために住民の皆様方に周知を図っていきたいというふうに思っております。ただ、この交差点は交通安全上、最も重要でありますので、信号機を設置した完成型に近づける必要がありますが、やむを得ず暫定になる場合は、そういったものを表示をしながら、事故防止に努めていきたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

変形型の交差点の計画はつくらずに、案内とかなんとかですっと対応していくということですね。それもあれですけども、その変形交差点が何十年も続いたら、ある程度皆さんに示して、角取りとかなんか、そういうことはしなくてはいけないんじゃないかなと思います。

続いて商工観光行政についてです。

またこれも市長と私考えが一緒なのは、商店街、温泉街を歩かせんといかんと。歩くためには駐車場が必要だということで、駐車場をさぎの森につくってもらえるということで期待しとったんですけども、この間はそうでもないようなお話をされたと思うんですけども、結果、どういうふうに今お考えなのかをお聞きしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

さぎの森の多目的広場については、私も駐車場がいいなと思って、各方面に投げかけはしました。有料を無料にするか、あるいは商店街の方々に管理をしていただくか。さまざまなことを考えて、一番ネックになるのが、これは3年ぐらいしたら、また道路の用地になるわけですね。だから、抜本的な駐車場の改修というのは費用対効果を考えた場合に、ちょっと厳しいのかなということで、今考えているのは、農業経営者の皆さんたちに広く呼びかけをして、サンデーファーマーズマーケット、日曜市を開催するなど、今まで使われやらなかったところをいかにして使ってもらえるかと、使うようにするかといったことで、今、観光協会等々に投げかけているところであります。そういったことで、歯切れは大分悪くなりますけれども、当初思っていたもくろみと今の現状というのは、私は認識に差があります。

○議長（杉原豊喜君）

6番宮本議員

○6番（宮本栄八君）〔登壇〕

そしたら、そこは3年後に道路用地になるかもしれないということですね。だから私が言い出したのも、3年後に道路用地になるならば、整備しないで、あのれんがが少し傷んでもあそこでできるんじゃないだろうかという、反対の発想から言ったわけですけども、そういうことです。そしたら、あそこをしないとすれば、どこを駐車場にしようと思ってあるんですかね。

〔市長「それは今か後か、場所」〕

あー、場所です、場所。

〔市長「それは今後ですか」〕

はい。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

町中広場を一時的な駐車場として考えていきたい。そして今、いろんなところで周辺部で、だんだん家を壊しよんさあですね。そういったところが一団の土地が確保できれば、そこを有料、無料にするかどうかは別にして、周辺部にドーナツのごと駐車場をつくりたいということが私の眼目であります。なるべく武雄温泉のところも含めて、車が入れないようにしたいというのが究極の私の理想であります。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

そういうふうなことであれば、私もそういう空き地の活用というですかね、そういうのもいいかなというふうに思います。要するにこういう市が出している中心市街地は、基本計画の中にも、まず50%を占めているのは、車をとめる場所がないということが59.4%になっておりますので、よろしくお願いします。

続いて次に行きます。お祭りの今後の開催と補助金についてです。

物産祭りについては統一されるということで、ボリュームアップでよそから人を寄せるといことなんでしょうけれども、余り冬にすると、寒くて困ったという今度話も聞いておりますので、開催時期も事前に考えるためには、来年、物産祭りというか、産業祭りをどこから開催第1回目をされようと市長は考えているのかが1点。

それと、別の意味で、お祭り一本化は、武雄市お祭り振興会の補助金を受けている部分と言われますけれども、ほかのところにも補助金をやっているところもあるし、若木の湖水まつりなんかもらわないでもやっているんじゃないかなと思うんですけども、その辺にも不均衡があるんですよ。だから新市を期に、その補助金のあり方についても目配りをするべきじゃないかなというふうに思いますけれども、その2点についてお伺いします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、ことしの物産祭りの報告をしたいと思います。まず最初に、開催された北方会場であります。これは8,000人、山内会場5,000人、武雄会場1万2,500人ということが報告として出てきております。私もこれは冬にすると、やっぱりきつかなと。冬になぜしよったかというのを調べてもらったら、やっぱり農産品が冬に一番出ると。しかし、ことしの3会場とも農産品の占める割合というのは、多分10%切ったと思います。したがって、私の個人的見解は、12月前後に余り固執する必要はないんじゃないかというふうに思っています。それとともに、会場を今回初めて図書館のところで行いましたけれども、やっぱり駐車場の問題とか出てきておったですね。だから、それを一たん運営委員会、総括会議が開催される

というふうに聞いております。その議論、今後どうしたいかということについては、この皆さんたちの意見をまず真摯に承ろうと思っております。その結果、やっぱりゴールデンウィークにしゅうさと、夏がよかさとかいうことに関して言うと、まずその意見を見守ろうと思っております。（「場所」と呼ぶ者あり）場所はそれも含めて。一回総括をしてもらった上で、私もその議論に加わっていこうというふうに思っております。だから、何が何でも一本化というのは、ちょっと今、もう一回ちょっと意見をきちんと聞きたいなというふうに、柔軟に思っております。

2点目の補助金のあり方であります。補助金のあり方については、物産祭り実行委員会、お祭り振興会、世界一の登り窯祭り実行委員会、四季の丘フェスタ実行委員会、黒髪のロマン祭り実行委員会に対し、補助金や負担金を交付しているところであります。

現在、物産祭り、お祭り振興会事業について、事業計画を見直しているところであります。2事業については、事業計画を今つくってもらっています。これができ次第、補助金等の額を決定したいというふうに思っております。今まではその交付基準が明らかじゃなかったわけですね。ですので、今後、補助金等を交付する祭りについては、観光客の集客、あるいは経済効果など費用対効果を見ながら、基準を設けて交付をしていきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

6 番宮本議員

○6 番（宮本栄八君）〔登壇〕

以上で私の質問を終わります。あと残った部分は、ちょっと年越しになりますけれども、3月の方にしますので、その答弁用紙をそのまま持っていていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（杉原豊喜君）

それでは、以上で6番宮本議員の質問を終了させていただきます。

次に、27番高木議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。27番高木議員

○27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

それでは、私の一般質問をさせていただきます。私が今回、通告をいたしておりましたのは、財政の基本方針について。2、総合計画についてということであります。

昨日から一般質問が始まりまして、財政問題というのが、今回大きく皆さん取り上げられておりまして、既に昨日でも牟田議員、吉川議員、そして松尾陽輔議員が取り上げられております。そういう面では、実は私も全く同様な考えのもとに質問を組み立てておりました。具体的に重複をいたしますので、この分については割愛をさせていただきたいと思います。

ただ、私も1点、市長の方にぜひお願いというか、要請をしておきたいのは、やはり一般会計、特に武雄市の財政というのは、全国の地方自治体の中でも大変小さな方の部類であり

ます。例えて言いますと、軽トラックですよ。大きな福岡市に比べると、同じ地方自治体、同じ財政の中でやっておりますけれども、例えば、福岡市と武雄市といったら、本当に大型のダンプカーと小さな軽トラックという規模であります。ですから、軽トラックでありますので、非常に荷物をどれだけでも運びたい。気持ち是一緒ですね、運びたい荷物は同じだと思います、福岡市も武雄市も。ただ、やっぱり能力というか、それがある。ですから、小さな軽トラックであります。無理をすると、大きな破綻につながってくるというふうに思うわけであります。ですから、荷物もそれなりに考えて、ぜひ運んでいかなければならないと思いますし、また私どもも市民もそのことを十分踏まえた上で、いろんな行政に対しての課題、要求を含めてやっていかなければならないというふうに思っております。

そういう面で、昨日市長が、取捨選択というのは議会サイドにあるんだ、市民サイドにあるんですよということを述べられました。そういう面では私ども議会も、あるいは市民サイドにとっても、十分先のことを考えて、全体的な状況を考えて、取り組みをしなければならないというふうに思っております。

一つ、夕張の問題を取り上げておりました。夕張市も昨日、いろんな意味で議論がされております。これは大変厳しい問題、ショッキングな事件でありました。一体何が原因で、なぜそういうふうになったのか。そういう面では、十分この武雄市もその教訓を学ぶべきであるというふうに思うわけであります。これは朝日新聞の社説に、夕張の破綻の問題を取り上げられております。11月27日付の新聞であります。夕張市の破綻と題しまして、あなたのまちは大丈夫かという、そういう問いかけであります。具体的な破綻に至った経過、内容を書かれた後に、こういうふうに書かれてあります。結局、原因の部分であります。「一昔前の大判振る舞いは異常なほどだった。6期務めた前市長は補助金や交付金を元手に、観光振興にひた走った。旧通産省が産炭地振興の名目で夕張市に渡した交付金は70億円に近い。住民には国の金が振りおりたように見えたことであろう」ということで、いろんな施設をどんどんつくられていった。結果的にその施設がすべて裏目に出て、赤字ということで、それが一般会計まで負担を及ぼしたということであります。

さらに、前市長の責任だけではなくて、もう一つ、こういうふうに書かれております。「巨額の借金を認めてきた責任は市議会にもある。町内会長を議員にして議会の日だけ日当を払えばいいという住民の批判は当然である。住民も主権者としての責めを負う、行政サービスの低下のほか、地価の下落による資産の減少も避けられまい」ということで、議会と市民の責任もまたそこで触れられているわけであります。

そういう面を考えると、北海道の産炭地という条件がありながら、やはり武雄市も同じような状況が出てくるのじゃないかというふうに考えられます。そういう面では、昨日の質問に答えられて、市長は一寸先は闇である。財政的な問題は、そういう答弁で自覚をされているようであります。大変頼もしく思っているところであります。

そういう中で、一つだけ、ぜひこれは市長に見解をお聞きしたいということがあるわけですが、実は総務省は、地方分権21世紀ビジョン懇談会というのを発足させ、ことしの7月3日にその懇談会報告書が提出をされました。これからの地方自治のあり方について、大きくその方向を指し示したのであります。大変私は実はこの21世紀ビジョンを読んでみて、非常にショックを受けた者であります。それは何かといいますと、実は破綻法制を検討することが載っております。いろんなキーワードは、自由、責任、自立ということでありまして、幾つかの項目、これから地方自治体としてしなければならない、考えなきゃいけない。例えば、新分権一括法を制定するとか、地方債の完全自由化であるとか、税源配分の見直しであるとか、いろいろな提言をされている中で、一つ、いわゆる再生型破綻法制の整備をしなければならん、それも3年以内だと。私はこれはどういう意味なんだろうかということとを考えて、わかりませんでした。既に地方自治体、夕張市の例を見てもわかるように、財政的に行き詰まっていく、破綻をしていけば、いわゆる再生法という国の管理のもとで再生を図っていく。そういう制度が既にあるわけですね。それを見直すというのは、どういふことなんだろうかというふうに思っておりましたら、一つだけわかったのが、実はこれも市長の先輩であります、鳥取の知事であります片山知事が、日経新聞の方に提言として出されている中で、実は自治体には債務不履行は現状ではない。しかし、今後はその債務不履行も考えていくということも考えなきゃいかんということを提起されておりました。どういふことかということ、財政的に行き詰まっても、借金は今返していつているわけですね。例えば、夕張は幾らでしたかね、360億円の赤字、これは民間ですと、倒産になってパアになるわけですね。ところが、地方自治体の場合、360億円の赤字を出したとしても、その分は何十年かの計画の中で返していくというふうになっていますが、しかし、地方自治体においても、そういう不履行になるということも考え、検討しなきゃならんというふうに言っているわけがあります。

具体的にどういふことかということ、民間の場合、会社が破綻をする、倒産をすれば、会社は責任を追及されます。ただ、ひどいときには、個人の資産まで全部投げ出せよというふうになるわけですね。ところが、地方自治体の場合、その破綻といっても債務不履行にならないということで、実は執行部も、それから議会も具体的な責任というのは問われてないんですよ。だから夕張の場合も、原因は6期務めた前の市長にあるんだということを指摘されておりますが、じゃあこの方に債務部分を私財をなげうって出せとかいうことはだれも言わない。議会は承認をしてきたけれども、その責任は道義的には問われているけれども、じゃあ議員で、例えば何百万円ずつ金を出せとか、そういう責任のとり方はなくていい。しかし、今回、いわゆる21世紀ビジョンに出されているのは、そういうことを今から地方自治体も問われてくるんですよということを言っているんじゃないかというふうに思ったわけです。そういう面では、これからの地方財政のあり方、地方財政というか、執行するあり方、ある

いはそれを審議する議会、それを受ける市民という、この三者については、従来以上にさらに財政の問題についてはシビアな見方をし、また一つ一つの事業の精査をしなければならないというふうに思うわけであります。

そういう面で、これまで合併をしましてスタートしました。いろんな意味で、各1市2町それぞれの経過がありますし、いろんな意味で慣例といいますか、そういうものがあるわけでもあります。しかし、今から私はすべてのものをゼロベースで見詰めて、再度検討しなければならないというふうに思っております。ぜひこのことを樋渡市長にお願いをしてみたいというふうに思っております。

財政、大変昨日の質問にも、一つ一つの問題が取り上げられました。一般会計から特別会計に繰り出し、特に農業集落というか、下水道事業についての繰り出しというのは、大変大きな問題であります。一般財源から2億円から名目的には4億円ですが、250,000千円ぐらい繰り出しをしていかなきゃいかん。さらに工業用水も出されております。毎年60,000千円の金が工業用水に繰り出していく。そういう面で、ぜひこの厳しい状況を考えた上で、今後の財政運営をしていただきたいというふうに思っております。

ということで、まずは夕張の問題、財政の問題含めて、市長がどのような考え、これからの10年。昨日の質問では10年間は我慢の時期だというふうにおっしゃいました。そういう面で、その具体的な考え方をぜひお聞きをしたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほど破綻法制の話が議員から紹介がありました。私、先般、東京に出張したときに、ある政府関係者と懇談する機会がありました。そのときに言われたことがショックですね、その日は夜も寝られんやっただですね。というのは、これから先の自治体は、市長、会社と一緒にいるべいと。今までの自治体は社会を扱いよったと。しかし、あなた方の市町村というのは、ある意味、会社になると。それどういうことですかと聞いたわけですね。この人は政府の中でも影響力のある人です。これから先、あなた方市長あるいは議会が、人口をふやしました、あるいはこういうふうに税収を上げました。そしたら給料は上がるでしょうね。しかし、破綻しました。破綻の一步手前です。これは市長、これは市役所の職員は関係なかかもしれません、わかりません、それは。議会と共同責任、そういう意味での私財の投げ出し等々はあるでしょう。そういう意味での意識をきちんと持ってくださいということを言われたわけですね。だから私はもう恐らくその方向に進むというふうに思っています。現に交付税の扱いが、新型交付税とあるように、面積と人口要件になっていくわけですね。これ道州制にも絡んでいると思います。面積をふやしていく、あるいは人口をふやし切らん自治体というのはつぶれなさいと。私はそういうふうに厳しく実は受けとめています。いいか悪いか

は別にしてですね。そういう意味で厳しさということに関して言うと、きょうの日経新聞にも載っておりました。財務省がもう交付税を減らすと。その一連の流れに議員がおっしゃったこと、私が申し上げておることがそこにあるもんだというふうに思っております。これ事態が好転するかといったら、決して好転はしない。しかし、頑張った自治体に対しては、安倍総理がおっしゃっているように、きちんと、それはごほうびを与えますと。だから、今まで頑張っても頑張らんでも一緒やったわけですね。自治体というのは、自主財源を幾ら上げても、その交付税は減らされよったわけですね。そいぎ頑張る気にならんですね。しかし、今厳しさを突きつけられておるわけですね。会社と同じで、うまくいくところについては、国も後押ししていきますと、だめなところはもう住民含めて責任をとりなさいと。それがタ張市の例ですもんね。だから、そういう意味でのこれからのまちづくり、自治体としての生き残りをかけて、本当に私は命をかけてやっていきたいというふうに思っています。その上で、議会並びに市民の皆さんたちに呼びかけたいのは、もう今財政というのが、ある意味じゃメタボリックシンドロームになっておるわけですね。これはどこの自治体でも一緒です。本来やるべきところに金の回ったらんという部分があります。だからこそ市民の皆さんの批判とか、議会でこういうふうにここをやるべきだということがあります。だから、議会の皆さんとか市民の皆さんたちには、行政、市全体のメタボリックシンドロームがどこにあるかというのをまず見つけてほしいと思いますね。その上で、これをすべきだ、あれをやりなさいということに関しては、私は真摯に耳を傾けようというふうに思っています。そういう意味で、10年間はその次の世代に武雄市を譲り渡すための私は我慢の時代、スリム化の時代だというふうに思っています。

その上で、私は一つ提案したいのは、ほかの自治体と同じことをしよると、もうつぶるっですね。私もつぶさに勉強をしてきました。今でも勉強しています。ほかの自治体の並びでしよったら、今はもうインターネットの時代です。即座にまねされるわけですね。だから、ほかの自治体がまねのできないようなこと、これはすなわちソフトになると思います。ハードは錢がかかるけんですね。ソフトで武雄の優位性をどういうふうに出すかと。そういう意味で私は議会の皆さんたちのおかげをもって、「がばいばあちゃん」がもうほぼ成功しつつあります。だから、ここに徹底して私はいろんな資源とか人的な能力とかというのをつぎ込むべきだというふうに思っています。それで、私は外から人に来てもらって、あるいは地域の皆さんたちが、ああ武雄でこがんマスコミに出よるとか、あるいはこういうふうにするばらしかと言われたと、そういう自己満足というのも私はいい意味で大事だと思います。そういう意味でのソフト的な施策の展開というのを絶対やっていかんばいかんというふうに思っております。その分に充てられる投資の枠、これは広い意味での投資的経費というかもしれません。それは十分私は確保すべきだというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

27番高木議員

○27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

ありがとうございます。私も全くそのとおりだというふうに思っております。私は私なりの、30分の1でありますけれども、またそういう面では努力を続けていきたいというふうに思っております。

続きまして、総合計画について、お尋ねをしたいというふうに思います。

まずちょっと苦言なんではありますが、実は新しい総合計画、今、策定中ということで、今年度いっぱいかかって策定をされるわけではありますが、苦言というのは、実はこの総合計画が実際今、策定をされているということの認識が、市民の中でどれくらいあるんだろうかということでもあります。

総合計画というのは、先ほど10年の計画というふうにおっしゃいましたけれども、まさにそういう面では、これからの武雄市の行政の背骨ですよね。そういう面では、この総合計画がいかにか市民の中に定着をするかという、知って、それを生かしていくのかということを考えなきゃいかんと思いますが、苦言というのは、実は市民意識調査、1,000人とられている。ところが回答は399、4割若干切っているということです。ここに今、市民の皆さんが総合計画あるいは行政に対しての一つの回答があるのではないかというふうに思うんです。まだまだ一生懸命、今いろんな意味で行政も市長初め先頭切っているような市民に対してのアクションを起こされていますが、そういう面では、まだまだなんだということを、ぜひ自覚をしていただきたいというふうに思います。最終的にもう一回くらい調査をされるかと思いますが、その分については、これが逆転をして6割以上、9割近くの方が関心を持っていただけ。そういうことに今後、総合計画については、策定段階において努力をしていただきたいというふうに思っております。

そういう中で、この総合計画について、私は幾つか資料を読んでおりました。冒頭に申したように、武雄市というのは大変小さなまちで、そういう面では九州の片田舎にあるまちであります。これがどうやって生き残っていくのか。そのことを考えたときに、やっぱり10年を考えた投資ということが必要である、私もそのように思っております。

これは私の例ですが、市長にぜひ紹介をしたいというのは、実は北海道の池田町、ここはワインの町で大変有名であります。市民の皆さんも池田ワインということはある程度知られている。どこにあるかというのは、実は僕もわかりませんでした。インターネットで調べて、地図を見て、名前は知っている。たまたまそのワインをスタートさせた町長のその文があるわけであります。これを読みました。実はずっと前に持っておったんですが、一度も目を通したことがなかったんですが、見ましたけれども、いろんな意味で困難、挫折含めてやっている。しかし、今、20数年たって、池田ワインというのは、まさにブランドになっております。そういう意味で、ぜひこういう取り組みもぜひ参考にさせていただきたいと思っています。

ころです。

そういう面で、やっぱり10年、20年、ブランドと簡単に言いますが、ぜひブランド化したいと、きのう市長もいろんな意味で考えていらっしゃると思いますが、そのブランドにするためには、いろんな意味で、10年、20年、期間を通して、いわゆる試練を通してそれができてくるものであるというふうに思うわけでありますので、ぜひ少々の失敗でもめげずにやっていただきたいというふうに思います。

それから、もう一つは、実は福岡県の飯塚市をぜひ僕は勉強したいなというふうに思っております。というのは、ここは御承知のとおり、飯塚といえば炭鉱のまちでありました。旧筑豊炭鉱の中心の都市であります。ですから、炭鉱が次々に閉山をしていく中で、飯塚というのは大変まちの力が衰えていって、もうそれこそ「東京タワー～オカンとボクと、時々、オトン」という小説が大ベストセラーになったですね。ああいう中に出てきているように、本当にすさんだ地域だったんです。ところが、今は非常にまた飯塚市というのが変わってきております。なぜ変わってきているのかということ、実は飯塚市は、昭和41年、炭鉱閉山の後、近畿大学九州工学部と短期大学を誘致をされています、産炭地の後。昭和61年に九州工業大学の情報工学部というのをまた誘致をされています。九州工業大学は北九州ですから、その情報工学部というのは、実はその分だけ飯塚に校舎が別にある。そういう意味では、ちょっと合併後ではありますけれども、合併後、人口13万3,000人の約4%、約5,000人が理工系学生及び研究者という人材の集積ができています。それをもとに、今、まちづくり、これからの産業展開ということをしてあるわけですね。

そういう面では、投資というのは非常に重要だというふうに思います。投資ですから、1年、2年で成果が出てくるものではありません。「がばいばあちゃん」という話がありました。これは今は確かに投資としては目に見えるものというのは、なかなかないと思いますよ。それで観光客がそろそろそろそろ歩くとか、温泉街にお客さんがあふれているとか、そういうことはないと思う。しかし、これが一つの芽なんですよね。だから、この芽をどうやって、どういう方向に育てていくのかというのが、また一つの力量の問われるところであるというふうに思います。

それから、前、市長がいらっしゃいました高槻市の隣の京都市。京都市というのをずっと調べておりました。僕は京都というイメージは、神社・仏閣といいますか、昔のお公家さんではなく、そういうまちだというふうにイメージとしてはありました。もちろんそういうまちづくりをされているということもありますが、しかし、実は京都はもう一つ別の顔がある。それは極めて先進的な物づくりのまちなんです。あそこを調べると、びっくりするように、もちろん物づくりのまち、最先端のナノテクノロジーとか、バイオテクノロジーという形でされている。それはもちろん、あそこに学研都市が京都大学をトップにいろんな意味で、知識というか、もとになる部分がある。しかし、それを生かしていく、そういう京都市の戦略

というのがそこにあるわけですね。だから、京都はあと100年もすれば、確かに神社・仏閣のまちというよりも、いわゆる最先端の工業の都市だというふうに、もしかしたら世界的には評価されるかもしれない。そういう戦略的な投資をされているということを紹介したいというふうに思います。

そういう面で、武雄市、大変小さなまちであります。何かからどう手をつけるのかというのは非常に難しいところがあるわけですね。そういう面では、定住というのは、人口をふやすというのはなかなか難しい。しかし、交流人口、市長がおっしゃいましたように、ソフトの部分でお客さん、交流をする人口を増やすということは、一つの大きな柱というか、まず何をもってそれをしなきゃならんことだというふうに思うわけであります。

そういう面で、これからの武雄市、どういう戦略、どういう方向を考えるのか。総合計画の中にも、ぜひそういう面の一端を将来的な武雄市の進むべく方向について盛り込んでいただきたいというふうに思うんですね。大変厳しい厳しい、もう本当にきょうも宮本議員の話しに、大変厳しい状況です。しかし、厳しい厳しいだけでやってはいけませんので、「がばいばあちゃん」のあったとき、きつか話は夜するな、昼間せろと。あれは本当にそうだと思います。ですから、きつか話は笑って話そうということで、将来的な話も先にぜひ市長はどういうふうに考えているのか。30代後半であります。ある面では人生の半分ですね。そういう中で、これからの武雄市の未来について、ぜひ戦略について語っていただければというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、2段ロケットを考えています。まず1段目は、武雄ということを知られんばいかんというふうに思っています。これは武雄市内の方あるいは外の方、いろいろ知られんばいかん。人はやっぱり特に日本人の場合は保守的やけんですね、例えば、同じ条件でいったときに、武雄と湯布院を並べたときは、仮に同じ条件だとしますよね。私も武雄の方がよかと思いますよね、湯布院よりは。歴史もある、湯布院はなか。どっちに行こうか。多分同じ条件だったら、100人に95人ぐらいはこっち行こうと。世の中いろんなあまの何とかさんもおんさあし、この出身の人もおんさるかもしれんけんが、5人ぐらいが私は武雄というふうに思うとですね。だから、同じ条件でしたときに、何が来てもらえるか、あるいは満足度をするかといったら、これはやっぱり知名度です。私はブランドブランドと言うて、何かブランド好きんごとっ思われておるばってん、そうじゃなかとです。ブランドというのは、まず最初に知名度です。知られんばいかん。私はそういう意味でブランド戦略というのは、武雄といったら、大体どこにあるね。それで知ってもらうところに私は最初の戦略を立てたい。これやっぱり私の樋渡市政の1期目、4年たったときに、私は先般、早稲田大学で講演をしまし

た。100人のうち、何人の方が武雄を知っとんさったか御存じでしょうか。1人。しかし、その武雄もカンボジアのタケオ県やったわけですね。これ私、笑い話としては聞けんやったですね。だから、私の目標は、4年たったときに、また同じところで講演しようと思っています。そのときに、やっぱり少なくとも20人から30人の方々が、ああ武雄てあそこねと。まず位置を九州のあそこ、何か元気なことをしよるところねというところをまず認識してもらいたい。実際、嬉野市は100人のうちにもう20人から30人知っとんさあとです。それだけやっぱり差のあるわけですね。だから、非常にそういう意味で、まず知られること、あるいはブランドとして発信することに私の仕事の第一があるというふうに心得ております。

その上で、私は第2段階として、私は夢と希望があります。武雄のことで新聞記者さんたちともよく話をします。そして私も外の目から見ます。まだ帰って1年もたっていません。そういう意味で、武雄市にはいっぱい埋もれた財産があるわけですね。一番強みは、武雄には歴史と文化があるということです。これはどこの温泉地で見ても、歴史と文化があるところというのはないです。名湯百選をひもといて見てもらっても。そういう意味で、その埋もれたとをいかに上げてきて、皆さんたちの誇りに思えるか。そしてそれをぜひビジネスチャンスにしたいわけですね。

だから、実は私、選挙期間中によく話をしましたけれども、群馬県の嬭恋村の話をよくしました。ここ、キャベツの農家の皆さんの平均所得は10,000千円超しておるそうですね。それだけキャベツがブランドになっておるわけです。しかし、嬭恋村の横の北軽井沢のキャベツ、私食べてみてわからんやったです、どっちがどっちじゃい。あるいは大豆もそうです。丹波の大豆と武雄の大豆と、私は武雄の大豆がおいしかと言うたです。しかし、値段は5倍から10倍で売れるわけですね。だから、そういう意味でのブランド力というのをきちんとつけて、いろんな戦略はありますけれども、武雄を総体として誇りに思ってもらえるような、また外から来てもらえるようなまちづくりにしていく。そこに武雄の活路があると私は思います。

総合計画には、そういった精神をきっちり私の方からも盛り込んでもらいたいと思いますし、なおかつ一つ話はずれますけれども、いろんな意味でのユニバーサルデザイン、これをぜひ取り入れていきたいと思います。ハードのユニバーサルデザイン、これバリアフリーもあればですね、武雄市というのは、ああわかりやすいね、元気なところね、あるいは親切ねというところも私は広い意味でのユニバーサルデザインというふうに思っています。受け入れられるという意味で。そういったことで私は総合計画の中に、そういった思想を盛り込んでいただければありがたいというふうに思っております。

一朝一夕ではいきませんけれども、10年たったときに、ああ武雄はよくなった、変わったというふうに思ってもらえるようなまちづくりを私自身が先頭に立って、議会の皆さんのお力をかりながら頑張っていきたいというふうに決意をしているところであります。

○議長（杉原豊喜君）

27番高木議員

○27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

ありがとうございます。本当に私も実は同じように考えます。若さが違いますので、行動力は若干かなり私も劣っておりますけれども、そういう面では、一生懸命またともに頑張りたいというふうに思うのであります。

具体的に私もそこで一つ、武雄をどうやって知名度を高めるかという話であります。実は私は福岡県生まれでして、実は20歳過ぎまで武雄市というのを知らなかったんですよ。何で知ったかという、実は大学時代、ユースホステルというサークルをしておりまして、そのサークルが実は武雄にユースホステルが新しくできた。じゃあそこに行ってみようということで、武雄温泉というのを初めて知ったということなんです。ですから、自分たちが思っているよりも、周りの人たちというのは、本当に今武雄というのを知らない。ただ、樋渡市政が誕生しまして、私はいろんな県内の市会議員の知り合いが、武雄は本当によく新聞に出るのと。おまえのところはよく頑張りよるのという、悪かところもちょっと出たりいろいろしてありましたけれども、そういう意味では、本当に新聞に必ず登場してくる。そのことが一つの芽なのかなというふうに思っております。ぜひそういう面では武雄市の知名度を上げていく。

具体的に私もそこで考えているのは、実は福岡市にアンテナショップをぜひ出したらどうかというふうなことを考えております。前のときに旧武雄市時代に、大阪や岡山、広島、福岡にアンテナショップを出したらどうかという提案をしたことがあります。そのときはいろんな意味で、ちょっと時期尚早ではないかという考えのもとで、この提案は取り上げられなかったんですが、今回はぜひ、とりあえず福岡市にはアンテナショップを出したらどうだろうかというふうに思うわけでありまして。もちろん、福岡市に出すというのは、一つは福岡市の人口100万人を超える人口、周辺を加えれば200万人に近い人口があるということと同時に、実は福岡市というのは今、いろんな全国各地から福岡に観光に来るとい、あるいは仕事に来ることが非常に多くなっております。ここに貨物・旅客地域流動の概要ということで、国土交通省の資料なんでありまして、これは北海道から九州までの全地域の流動をどのような目的、どういう機関を使って動いているのか。どういう目的で行っているのかという調査をした部分があるんです。その福岡というのを見たときに、福岡市にどういうところからお客さんが来るかということも非常に全国区、特に福岡県はそうなんですけれども、岡山からこっち九州側、それから一番驚いたのは熊本が非常に多いんですよ。この調査表で見ると、佐賀からが一番多いんですけれども、福岡市には、佐賀、唐津方面からが1日に2,300人。ところが、熊本からは1,000人を超える方、半分。

僕は先日、九州国立博物館に行きまして、実はたばこを吸っていたんですよ。入る前にと

ということでたばこを吸っておりました。やっぱり同じような方が、大変寒い中でしたので、震えながらたばこを吸っていたら、同病相哀れむじゃないですが、大変ですよという話をしたら、お客さんが、おたくはどちらですかという話で、いや僕は隣の県ですよと言ったら、実は私、長野県からですという話です。団体の若い方だったんですけども、長野のどちらですかと言ったら、松本ですという話で、私、毎年りんごを送ってもらっているんですよ。佐賀にもぜひ来てくださいという話をちょっとしたんですが、やっぱりそういう面では、福岡市というのは、人口だけでなく交流の拠点になっている。そういうところにぜひ情報発信を置くべきではないかというふうに思うわけです。今、じゃあアンテナショップつくって、何を出すのか。そこはいろいろな意味があるかと思うんですが、やっぱりそういう拠点があるかないかによって違ってくるのじゃないかというふうに思います。

前回のときは、佐賀県が出しておりますからということでありました。佐賀県が出してあるところを見に行きました。イムズビルの7階です。お客さんだれもおらんやったです、残念なことにですね。そういうこともあります。ですから、やっぱり単独でやらないと、見えないんじゃないだろうかというふうに思います。出すものは、それこそ日頃から市民の皆さんに協力を求めればかなりできるのじゃないかというふうに思います。

それから、もう一つ、商工観光課をぜひ町中に出していただきたいというふうに思うんです。庁舎にあるということも確かに一つの方法です。しかし、それは行政上のいろんな意味で、連絡かれこれが大変便利であるから庁舎にあるわけであります。そういう面では理解できるんですが、しかし、商工観光の場合、お客さんが外側にいらっしゃるわけでありますので、ぜひ商工観光課は町中に出していただきたいというふうに思います。空き店舗その他ということもあってありますが、ぜひやっぱり外から、だれでもそうなんですが、よくわからないところから来ると、一番先に考えるのは、僕もあちこち行ったときに、町中の観光センターをまず探すんですよね。そして地図を下さいと言うて地図をもらって、その観光の地図をもらって、それで回るということがありますので、やはり武雄のシンボルは温泉であり、その商店街でありますので、やっぱりそのシンボルの近くに商工観光課というか、拠点が無いというのは、ちょっとやっぱりおかしいのじゃないだろうかというふうに思っております。

それから、3点目、知名度アップで、スポーツの関係なんですけれども、武雄には公式試合をするところが実はそういうフィールドがないということは、きのう上田議員がおっしゃっていました。野球場をぜひということでありました。私も野球とまで言いませんが、パークゴルフとかやっておりますので、そういう面ではパークゴルフなんか非常に今最近盛んになってきて、県内の一大拠点は武雄市ですね。協会の会長も事務局も全部こちら、武雄市でやっておるんです。そういう面では、そういうパークゴルフの公式戦ができるような、そういう場所がやっぱり欲しいなというふうに思っております。これは大きな施設が要るわけで

もないわけです。要するに面積が確保できれば、協会その他でされるというふうに思うので、ぜひこの辺は検討していただきたいということと、もう一つは、実はちょっと大ぶろしきなんですが、2年後到北京オリンピックが開催されますね。私はその北京オリンピックのキャンプ地に武雄がぜひ名乗りを上げてもらったらどうだろうかというふうに思うんです。市長は前、沖縄でしたかね、プロのキャンプを誘致したという、そういうこともちょっと話をされていました。プロ野球とかサッカーといえ、とてもじゃないけど、ちょっと無理です。しかし、ちょっとマイナーな競技については、合宿とかキャンプというのでは、提案次第によっては来るのではないかとこのように思うんですよ。

宮本議員が自転車の話をされていました。ツールド何とかをぜひやりたいということで、市長もおっしゃっていました。姉妹都市であります北海道の雄武町、実際あそこはオホーツク海の沿線の自転車のツールド何とかというのをやっていますもんね。その期間についてはかなり来られます。そういう面では、自転車でもいいし、あるいはバドミントンの女子でもいいし、（発言する者あり）済みません、女子というのはただメダルを取れるということでは、男子よりも女子の方が非常に今、銅メダルを昨日取られましたので、そういう面ではキャッチアップができるのではなかろうかというふうに思うからであります。

そういう面では、いろんなことができるんだというふうに思うんですよ。保養村もあります、合宿をする施設はあるわけですよ。ですから、オリンピックといえ、日本みたいな国もあれば、派遣をするのがやっとなような国もあるんですよ、実際。そういう面では、ぜひ武雄がそれなりに対応いたしますよということであれば、またできるのではないかとこのように思います。やってもともと、やらなければゼロというふうには私は思います。これからのスポーツの合宿地として、学生とかいろんなところで武雄を売り出していくということも必要ではないかというふうに思います。施設はあるわけです。試合じゃありませんので、公式の部分は要らないわけでありますので、公式のフィールドは要らない。フィールドがあれば何とかなるわけでありますので、そういう面ではやって損はないなというふうに思うわけでありますが、こういうことは提案としておきたいというふうに思います。何か市長の方で考えがあれば回答をいただきたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず順番に答えたいと思います。アンテナショップに関しましては、私は議員と意見を異にしております。ただ、私もイムズのところに行ってみたですね。私が行ったときも、私以外だれもおんされんやったですね。ということで、これは補助金の見直し、武雄市負担金は662千円、大田副市長にまたよく相談して、これは見直す方向で考えていきたいと思います。やっぱり費用対効果のないところは、私はだめだというふうに思っております。そういう意

味で、私はこれを考えていきたいというふうに思っております。

その上で、皆さん御存じでしょうか。万葉の湯、私は入ったことなかくです。しかし、ＪＲの博多駅に太か看板のあるですね。万葉の湯と。きょうパネルを持ってきておりません。それで、そこに湯布院と書いてあって、武雄温泉と書いてあるですね。これ何億円の広告価値があるか。あれ見て、湯布院は込んだったけん、武雄温泉に来ましたという方を私は何人か、元湯のところで話を聞いたことがあります。ああ、なるほどと思いました。アンテナショップのようなハード戦略よりも、そういう広告であったりとか、そういうソフト戦略がこれからあるのかなと。幸いなことに、きのうも申し上げましたけれども、がばいのおかげで、武雄には注目が一点集まっております。新聞にも今載っております。そういう意味で、武雄ということが何年か前からすれば、ずっと入っていけるような状況下に少なくともあると思います。そういう意味でのソフト戦略を必死になって考えていきたいと思ひますし、その広告の予算は、ぜひ本年度の予算で計上したいというふうに考えています。これは独立して。これは議会の皆さんのお許しがなければなりません。そういう意味で、しっかり詰めていきたいというふうに考えております。

また私が注目しておるのは、物産展です。私びっくりしました。福岡大丸で山内の黒米であったりとか、黒大根であったりとか、飛ぶように売れたらしいですね。私はちょっとほかで用事があったので、済みません、行けませんでしたが、後でつぶさに報告を伺いました。なるほどと思いました。物産展というのは、いろんなところはまだ取り組みの甘かですね。一生懸命しよるとは沖縄と北海道ぐらいです。この物産展をうまくチンゲン菜であるとか、黒米であるとか、あるいはがばいであるとか、そういうブランドとブランドをひっつけて、そういう物産展を中心とした展開ができないか。これも経済部を中心に今後考えてもらいたいというふうに考えております。

もとより今のところは、アンテナショップについて、あるいは広告戦略について思うところは以上であります。

次の商工観光課です。私は商工観光課よりは、むしろ観光協会です。観光協会の方々にもっと表に出てほしいというふうに思っています。そういう意味で、私はもう観光協会と商工観光課が別々にあること自体が、私は腑に落ちんわけですね。どっちも限られた人員でしよんさあです。私はこれが1足す1は3とか5にして展開をすべきだというふうに思っていますし、新観光協会は、新駅の下のところにできると、観光総合センターですか、そういったところの前に、まず、ある意味での一緒に観光戦略を考えていけるように私はしていかなければいけないと思ひますし、今私はうれしいことがあります。商工観光課の皆さんが、「がばいばあちゃん」の黄緑か、どこから見てもあれわかるですもんね。あれを着て、まちじゅうをさるきよんさあです。私はこれは非常にうれしく思っています。そういう意味で、あの緑のジャンパーを見たら、これ青でもよかかもしれません、黄色でもよかかもしれませ

ん。そういうふうには歩きよんさあと。だから私は観光協会の方々とか観光課の皆さんが、もう背広で歩く時代じゃなかと思います。はっぴでもよかと思います。そういう意味で気軽に声をかけられるような、そして温泉通り、黒髪とか、そういったところに入っていったら、生のニーズを聞いてきてほしいというふうに思っております。そういう意味で、観光協会に期待をしております。

次のパークゴルフです。パークゴルフについては、今のところ整備計画は、済みません、ありません。今、保養村のふれあい広場であるとか、山内町に民間施設の山内パークゴルフがありますので、まずその活用を考えていただければありがたいというふうに思っております。

最後に、オリンピックの事前キャンプ地の話であります。よくよく考えてみれば、北京空港から2時間（「1時間」と呼ぶ者あり）1時間、北京空港まで。（「実質1時間。こう回したら東京とあんまり変わらん」と呼ぶ者あり）そうですね、コンパスで描けばですね。1時間から1時間半ぐらいかかるといったときに、恐らく各国の選手団が何を思うか。事前キャンプ地は3点セットと言っていいですもんね。一つが十分な練習の場所。もう一つが本体会場に近いかどうか。それともう一つが、地元の皆さんたちのもてなし力というとですね。武雄はナイスチャンスだと思っています。

そういう意味で、ひとつ武雄の優位性は競輪があると思います。今度、北京オリンピックを調べよったら、競輪というか、ツールド北京というんですかね、ああいったロードのレースも開催されるやに聞いておりますので、そういう意味で、実は今、某代理店に走り回ってもらっています。これは余り言うと、また新聞に載るけんですね、言われませんけれども、そういう意味で走り回って、それが相整った段階で私は事前キャンプ地の名乗りを正式に上げたいと。これはそうなる前に議会の皆さんたちに、十分また御負担をかけることになるかと思っておりますので、諮った上で名乗りを上げたいなというふうに考えております。武雄はそういう意味で、非常に優位性があるところだというふうに思っております。できれば、フランスチームとかベルギーチームに来てもらって、ボンジュールと言われたかですね。それで子供たちが武雄にオリンピックチームが来てくんさったと。これどれだけの財産になるか。私はそういう意味で、今後、皆さんのお許しをいただければ、トップセールスで動いてまいりたいと思っております。

以上です。

○議長（杉原豊喜君）

27番高木議員

○27番（高木佐一郎君）〔登壇〕

問題は武雄をいかにアピールするか、そのアピールの方法だというふうに思うんです。いろんなちょっとアンテナショップは副市長には逆にやぶ蛇で申しわけなかったんですが、や

っぱりする以上は効果的にしなければならんというふうに思うわけであります。やっぱりそういう面では、佐賀県のあの場所はまだ一遍考えていただいて、外れても私はいいと思うんですよ。もっと効果的に使えるような、そういうものを検討していただければ、市長も多分補助金を外すということは言わないだろうというふうに思うので、よろしく検討の方についていただきたいと思います。

最後にオリンピックの関係です。オリンピックは選手含めて大勢の方が北京に集結をしますけれども、選手の部分はその事前1カ月前ぐらいから既に事前の準備に入っている。北京と日本は、武雄市、福岡市、福岡空港、こう回すと東京と北京というのと余り変わらない距離ですよ。気候風土は多少の違いはあるかもしれませんが、しかし、ある面では前のサッカーのとき、ワールドカップ日本と韓国で共催したときのワールドカップの上津江村じゃないんですけれども、ある面では大変大きなPRにはなるというふうに思うし、ツール・ド・フランスのフランスチームとかドイツチームとか来れば、もっと大きなPRになるというふうに思うので、ぜひ御努力をお願いしまして、要請をしまして、私の一般質問を終わります。

○議長（杉原豊喜君）

以上で27番高木議員の質問を終了させていただきます。

次に、2番浦議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、通告に従い、2番議員の質問に入させていただきます。

先日より今、12月定例議会の一般質問が始まったわけですが、同僚議員のそれぞれの質問の中にあっても、共通して言えることは、やはり新武雄市の財政状況は本当に逼迫をしているということであります。きのう市長の答弁の中にもございましたが、本当にわかりやすい表現でございました。現在の武雄市の財政を家計に例えるならば、300千円の収入に対して、1,000千円の支出があり、足らない部分の700千円は国に当たる東京の息子からとか、仕送りで家計が成り立っているという現実。そしてその上に借金の総額は2,000万円ほど現存するということでした。たびたび重複しますが、再建団体となった北海道の夕張市ですが、こちらを同じように例えると、1,000千円の支出が3,000千円に相当するということで、決してこれは武雄市にとっても対岸の火事ではないということが現実でございます。

限られた財源の中で、いかに支出を精査し直し、抑えていくということが、あれもこれも両方をしていった事業を、あれかこれかに限定をし、しかもその上にきちんと裏づけされた財源の確保が必要になってきております。

また、その反面、未来、希望ある自治体として、独自性、自立性を持って生き延びていくために、新たな財源の確保のために、施策、投資も必要であり、樋渡新武雄市政の「がばいばあちゃん」の口ケ誘致はまさにこれに当たり、市民の皆様にも来年の1月4日に決定しま

した放映を目前に控え、経済効果はもちろん、ふるさと武雄に対する愛着と、これからの武雄を自分の手で盛り上げていくという自信を取り戻すきっかけになったことが最大の効果であると思います。

さて私の今回の質問ですが、その限られた財政の中で、精査し直し、本当に必要な事業の一つとして、その中での道路行政についてが大きく一つ。そして二つ目に、財源の確保やまちのにぎわい、がばいの施策にも密接に関係のある商工業関連について一つの、大きく二つの項目について、質問をさせていただきます。

小泉前首相の骨太の方針の中の目玉の一つでもありました、道路特定財源の一般財源化があります。これも皆さん御存じのように、昨今のテレビを大変にぎわわせております。道路特定財源というのは、簡単に申しまして、受益者負担の考えに基づいて、道路の整備費を自動車利用者に負担をしていただくというもので、国の道路特定財源を構成するものとして、ガソリン税、自動車重量税などがあり、地方の道路特定財源を構成する主なものとして、軽油引取税、自動車重量譲与税などがあると聞き及んでおります。現在のモータリゼーション、車社会の目覚ましい発展において、ふえればふえるほど、利用すれば利用するほど、勝手にというのは表現がおかしいかもしれませんが、際限なく入るこの財源の利用、見直しが論点、話題となっているのだと思われます。

一部もしくは全体という割合の議論もございますが、脆弱な国の財源の中で唯一財源消化が先行するほどの、この財源を一般財源化することによって、福祉や環境などに利用するという目的は、個人的には納得のいくところでございます。特に道路公害や温暖化など、環境に関する使途や道路整備に限らない生活交通維持のための利用は、今後最も必要ではないかと感じております。

武雄市も含めた地方の生活路線のバスの援助や、今回、機運も大変盛り上がっております西九州新幹線の事業整備の中でもネックとなっております在来線の経営分離問題なども、ほか地方にも現存するであろうローカル線の強化という視点からは、こちらに充当が今後可能ならばと思うところでございます。

ただ、一般財源化の弊害ではないですが、懸案事項、絶対に譲れない堅持すべき点が、特に地方の本当に必要な道路整備の財源に影響が及ぶのではないかとということです。一般財源化の問題は、今後も議論が交わされ、是非が問われることと思いますが、市長の豊かな国政経験の見地、視野から見た所見、特に今申し上げました地方の道路行政への影響を重点に所見の方をお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

道路行政について、私はこのように考えております。まず、武雄を地図ば広げて見た場合

に、新たに何か道路をつくる必要があるのか。あった方がよいかかもしれません。しかし、財源の問題があります。それよりも今ある道路が実はぼこぼこに結構なっているわけですね。私もこの前、車を走らせてはまりました。これどこかなと思ったら市道でした。だから、そういう意味でのせっかくつった道路、これの維持管理をする予算を重点的に私は振り向けるべきだというふうに思っております。だから、今ある道路を拡幅の前に、今道路が傷んでいます。大体一緒の時期に、昭和30年代か40年代につくった道路が、今一斉に傷んできています。そういう意味でのメンテナンスの費用にきっちり私は見るべきだと。それこそ物を大事にする、もったいない気持ちのあらわれだというふうに考えております。

第2段として、私は、きのう35号線あるいは498号線の答弁でいたしましたけれども、どうしてもこれがあることによって生命、財産が脅かされるところがあると。こういったところは、ほかの利便性を、せんばいかんところを犠牲にしても、こっちの方に予算あるいは人的な能力を振り向けるべきだというふうに考えております。武雄はこの箇所がまだたくさんあります。

3点目に、私は先ほど冒頭ちょっと否定的に申し上げましたけれども、道路の新設であったりとか、あるいはバイパスをこっちの方につくるとか、そういったことがあるんじゃないかなと。私は優先順位を、道路行政で言うならば、この優先順位というのは、恐らく市民の皆さんたちも納得していただけるんじゃないかなというふうに考えております。そういう意味で、私は道路の特定財源の一般財源化というのは、賛成か反対かとよく聞かれるですね。この前も国土交通省で言われたです。私は済みません、まだ決めとらんです。というのはですね、道路の特定財源を守るからといって、これが武雄の道路に振り向けられるかどうか、あるいは佐賀に振り向けられるかどうかと、よくわからんわけですね。この議論がなくして、賛成か反対かの踏み絵を踏ませること自体が、私は国交省さんの暴利暴論だというふうに考えています。ごっとい踏み絵を踏ませんさっです、国の人。いけないことだというふうに思っております。

その上で、きのう夜、「ビートたけしのTVタックル」ですか、あれを見よったです。そいぎ、道路の特定財源は、昭和30年代に車が70万台だったときにできた制度やったですね。今7,000万台です。まさかそのときつくった田中角栄さんも、当時つくった建設省の人たちも、まさかこがん進むとは思わんやっただと。それで、ことし余剰金が7,000億円出るそうですね。借金の償還も本四公団が終わった部分のあるけんですね。使い方を困りよんさるわけですね。だから、一般財源か特定財源かの前に、どこにどうやるんだという計画が私は先にやってしかるべきだと思います。道路の特定財源が一般財源化するというのは、目的じゃなくして、私は手段と思っております。より真に地方の道路がよくなるようにするための一つの手段と考えていますので、そういう意味ではなかなかちょっとここは答えづらいなというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2 番浦議員

○2 番（浦 泰孝君）〔登壇〕

市長の御答弁ございましたとおり、私も全く同感でございます。この一般財源化につきまして、今、是非を問う、結論を出す段階じゃないと思いますが、また先日、同僚の1 番議員のスポーツ施設などの整備の質問ございました。道路整備も含めたハード事業に対する市長の所見を聞いたわけですが、私も全く同感でございます。それで、必要な道路は、今後きちんと整備をしていかなければならないということでございます。

次の項目に上げております安全面からの道路整備の実例として、近隣の県道工事を説明してまいります。いろんな経緯の中、待望にして諸問題をクリアし、残すところ数百メートルとなった工事が、今までならば継続として、そのまま事業化されていたらと思うものが、現段階、今時世ではそうではないという問題にぶつかりました。国、市町村はもちろん、県もまた例外ではなく、財政状況は逼迫していることに変わりはなく、簡単な予算づけができないのは理解できますが、今後、仮に道路特定財源の一般財源化が進んだ場合、いろいろな条件が附帯したとしても、こういうことが地方では加速するのではないかと、先ほど質問の最後に申しましたが、感じております。

武雄市における旧山内町において、県道工事と呼べる箇所が計5 カ所ございます。三間坂駅前、大野・今山地区、鳥海地区、犬走地区、宮野地区でございます。小さい旧自治体単位の中で、これだけの箇所の県道整備工事が着工中というのは、大変珍しいケースかもしれません。予算の配分、取得に限られるのもうなずきはします。しかしながら、県道梅野有田線の宮野地区沿線は、昭和から平成に入り、有田地区や伊万里地区などを結ぶ産業の重要な道路として、特に大型車両などの交通量が顕著に増加してまいりました。平成5 年に整備促進期成会も地元区長を初め選出の議員などにより立ち上げていただき、平成11年に有田で開催された焔の博にあわせて完成すべく事業化が進められておりました。しかし、当時は、残念ながら一部地元の了解などの原因から頓挫した経緯がございます。しかしながら、学童、高齢者の方の安全を第一に考えた地元有志、とりわけ歴代区長、議員の尽力、そして何よりも地権者の方の理解と、県等執行部の協力体制が整い、現在に至っております。そもそも沿線には農地も隣接し、高齢者を中心に農作業のために往来も多い上、特に問題なのが朝夕のラッシュ時に小・中学生の通学が重なる点であります。具体的な場所になりますが、水尾の労住から県道へ出て、100数十メートルこちらには路側帯、いわゆる白線の外側の部分がほとんどございません。それどころか、県道の両サイドは高いところで2メートルから3メートルを超す高さで田んぼと差があり、歩行者の逃げ道がない状態でございます。もちろん、従来の道路設計でありますので、幅員は狭く、大型自動車の離合は通常でも困難な状態です。また、その先に住宅が建ち並ぶ道路沿いは塀と立木が迫り、同様に逃げ場がございません。

ここ数年、中学生が自転車通学時に接触する事故、小学生がはねられる事故、それとあと、幸い生命にかかわる重大事故にはないものの、骨折などを初めとする重傷の事故が頻発しております。こういった状況を含みまして、現段階の進捗状況も含め、今後の展望をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

お答え申し上げます。

県道梅野有田線につきましては、大野の方と、それから今質問者がおっしゃいました水尾の方と工事がなされております。大野の方は今のところ、一定進んだという形でとどまっておりますが、水尾の方は、今も現在、工事をしてもらっております。現在の工事が平成8年度から本線の改良に取り組まれまして、延長500メートルで、平成19年度、来年度完了予定でございます。その後、今おっしゃったところの未改良区間が500メートルほどございます。これにつきまして、実は引き続き事業化を図ってほしいということで、土木事務所等々と現在も話をしております。これにつきましては、さらに強力に要請をしまいたいというふうに思っておりますので、地元の皆様方と一体になって、来年度、今の工事が完了する前に、工事採択になるようお願いをしていきたいというふうに思っております。今の状況はそういう状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

2 番浦議員

○2 番（浦 泰孝君）〔登壇〕

本当に私も含め、そして地元の方、地権者、一丸となって今後も尽力、そしてまた努力をしていきたいと思っております。御協力の方、よろしくお願いします。

また、この県道梅野有田線においては、交通安全面から今申し上げてきましたとおり、危険という部分もございますが、同時に、ここ10数年、通学路として使用されていない部分もあります。これは現在まさに工事中の蜂の巣地区の河川改修工事と橋梁のかけかえ工事付近まで住宅の裏側にある農道を小学生は10数年通学をしております。住宅、県道から全くの死角になる部分は少ないものの、この農道は山に隣接しており、昨今の子供たちをめぐる凶悪な事件等を考えたとき、私だけの私見ではございますが、果たしてどちらがいいと言えませんし、教育委員会あるいは学校、PTAの協議の上になってくるかもしれませんが、私としましては、早く本来の県道の表通り、歩道を通学してほしいものと願っております。この点に関しまして、所見の方をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

今、議員の方からお聞きいたしまして、まだ私の方も実情を十分把握をしておりませんので、学校と話し合いをしながら、進めていきたいと思いをします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

私も現状を把握いたしておりますので、現地を見に行きたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2 番浦議員

○2 番（浦 泰孝君）〔登壇〕

先ほど申し上げました県道の実情、路側帯から歩道の部分がほとんどないという実情、これはもちろん建設部の方、随時山内町県道に限らず、パトロールをし、見ていただいております。それは十分になっております。また、車上から見るのと違って、実際に歩いてみますと、本当に危険でございます。トラックなどが通るときには立ちどまって小学生なども待っております。

それと含めまして、今出ましたとおり、迂回路として農道を歩いている現状、そちらの方の確認もよろしくお願いいたします。

人命、子供たちの安全は、何よりもかえがたい最重要項目の事業だと改めて認識するとともに、今後、地元、現場、地権者、一丸となって繰り返しますが、事業の継続を陳情していくことが必要だと思っております。市長を初めとする執行部の皆様、そして建設部の方に多大な協力をお願いするものでございます。

○議長（杉原豊喜君）

質問の途中ですが、議事の都合上、午後 1 時10分まで暫時休憩をいたします。

休	憩	11時58分
再	開	13時10分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

2 番議員質問を続けてください。2 番浦議員

○2 番（浦 泰孝君）〔登壇〕

続きまして、観光、地域振興からの道路整備について質問をさせていただきます。

武雄の楼門、御船山、そして黒髪山周辺と特定をされ、いよいよ策定に向けて、先日委員も決められた景観条例への展望でございます。市長は、先日の答弁の中でもめり張りのある

財政の支出を申されていました。そういった意味からも黒髪山、特に、今回私が提案地域に挙げさせていただいているところにある雄岩、雌岩、乳待坊周辺の道路整備の件ですが、そういった予定がございますか、お尋ねいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私はこういうふうを考えております。

1回、黒髪山周辺は道路を使って、青少年自然の家でしたっけ、いろんなところに行ってきました。私がびっくりしたのはごみの多さと、もう1個は周りの緑が枯れよったですね。それは、たまたま私が見たときに枯れよったかもしれません。

そこで思ったのは、果たしてここにどう車を通した方が、黒髪のその自然体系、あるいは観光行政にとってよいかどがんかというのは、私の目で見てみて、自分の耳で聞いてみて、そういうふうに思ったわけですね。道路を通すということは確かに便利になります。しかし、その分だけ環境に負荷もかかるわけですね。だから、そういう意味で私は、これから先提案をしたいと思います。

黒髪山を本当に道路を整備して、今大型車の離合もできんけんですね。そこに車を通すのがいいのか、周辺部に駐車場をつくって、それを歩道を中心にして整備をして歩いていく、私は一つのモデルが長野県の上高地と思います。上高地は途中まで車で行くと。マイカーでも行けます。その後は、ここはお金ば取んさるですね。大型のエコカー、余りブーブー出さんごたっですね、あれで行くと。それで、高齢者の方々とか、あるいは障害をお持ちの方はマイカーで行けると。そういう意味ではめり張りばつけとんさっですね。

これから黒髪を守る、あるいは後世に伝えていく、私はそういった観点での道路の整備の必要性はあるというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

市長の御答弁にございましたとおり、私も黒髪山自体、県立自然公園の黒髪山の御神体とも言える天童岩を望む本山の方には、そういう自然を守るべき、そして、車もある程度は制限すべき、自然保護の観点からの方が強いかと思います。

ただ、私がただいま挙げております乳待坊周辺におきましては、旧町内、山内町時代でございますが、展望台の整備も終わりました。また、上の方に駐車場もございます。また、下からといいますと結構距離もございます。決して道路を拡張してすべてをとということではございませんが、せめて大型車が離合できるスペースですとか、あるいは黒髪青少年自然の家自体も駐車場も狭く、その前の道も狭うございます。

またそれと、少し前までは紅葉が大変きれいで、また春には桜の開花に伴い、観光客、登山客もかなり訪れております。そういった意味でも、マイクロ等が入るだけの駐車場、または離合できるスペースはつくるべきだと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は沖縄にいたときに、山原の森の保全と観光を調和させてくれと。当時の鈴木宗男大臣から御下命を受けて、どういうふうにしようかというのを悩みながら、地元の人と相談しながら、やっぱり道の整備はやめましょうと。なぜかと言うぎんたですね、私も途中まで行かるとぎよかとやなかですかって大臣に言うたですね。そいばってんがですね、環境省の方々とか、本当の地元の皆さんが途中まで行くということは、もう全部体系を壊すことと一緒にすよ、係長さんというふうに言われたわけですね。だから、そういう意味では、私はエリアとして、もし本当に黒髪を後世の方々につないでいくということであれば、私は手前のところから制限をかけるべきだというふうに考えています。

ただ、観光にどうしてもそこを用いたいとか、あるいは高齢者の方とか障害をお持ちの方というのは、それはきちんと通行許可をした上で入っていくと。だから、私はそういう意味では、今の離合集散ができないとか、駐車場が狭いというのは、黒髪山の自然にとっては、これはよかことかもしれん。クロカミアゲハチョウは喜びよるかもしれんと、私はそういうふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

2 番浦議員

○2 番（浦 泰孝君）〔登壇〕

私も先日、市長のもとに、黒髪山を守る会、または野鳥の会を初めとする黒髪山関連の自然保護の団体の方と一緒に陳情に伺いました。それは9月議会でも申し上げた問題ではございませんが、黒髪温泉の開発に関して、ある程度の規制を設けていただきたい。乱開発をやめていただきたいという趣旨の陳情でございました。私もその場に立ち会った1人の地元議員として、黒髪山を、本当に自然を守っていただきたい。ただ、市長のお考えとリンクするように、黒髪山を武雄市の新しいー新しいというか、改めて財産として活用すべきところは活用していただきたいという点で、道路の整備を今申し上げた次第でございます。

高齢者の方や障害者の方、特にそういう方は不自由だということで、許可証などを持って、上まで車を通すという御提案もございました。私もそれは大変いいことだと思います。なかなか難しいところではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次に2番目の商工業の支援について質問をしてみたい。

商工業の支援に多大な貢献をしております武雄市内の団体として、武雄市の商工会議所、

そして山内、北方の商工会、市内の方に三つの団体がございます。こちらにつきまして、武雄市自体の自治体の合併に伴い、商工団体の合併も視野に入っていると思いますが、執行部、市長のお考えをまずお聞きいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

新市になるということは、行政区体で言うと、山内、北方、武雄が合併をし、婦人会、あるいは観光協会、だんだん一緒の方向になりよるわけですね。そういった観点から、私は商工会議所、商工会というのは一緒になるべきだというのが私の考えであります。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

財政的な効率からすると、それは至極当然なことであり、私も理解するところでございます。ただ、そもそもの成り立ちや商工会議所、商工会の法的なものから、その合併の可能性があるのか。現状のところで、法的なもので御説明をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

法的なことを言うと、商工会議所と商工会が1対1で合併するというのは、法的には認められておりません。その上で、合併をどうやってやるかということに関して言うと、一つの案として、商工会並びに商工会議所が一たん解散の手续をとると、ペーパーの上で。その上で、新たな商工会議所をつくるということが一つの案としてあります。

それともう一つの点は、ちょっとこれは法律が許してくれるかどうかというのは、精査は必要がありますけれども、県の補助金においては一たん、例えば山内の商工会にX円補助金が県から来ていたと。で、北方にはY円来ていたと。それが、今度、新武雄市の商工会議所になるといった場合は、一定期間は補助金はきちんと出しますというふうな県の補助金要綱もありますので、補助金のあり方と法的なことがどこでリンクするかは別にしても、私は決して乗り越えられない壁はないというふうに考えております。実際、そういった流れで全国的にももう動いておりますので、好ましいと。

なぜ私がそんなことを言うかということ、やっぱり新たな武雄になった場合に、どうしても情報が偏在するわけですね。それよりも、一つの拠点がやっぱりあって、そこに私は、例えば武雄支部、山内支部、北方支部というのはあってもいいと思います。したがって、そういう意味でのまとまりのある上部団体というのは、私は絶対必要不可欠だというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2 番浦議員

○2 番（浦 泰孝君）〔登壇〕

私も合併自体に反対とか、私が申し上げるところでもございませんが、ただ、やはり商工会は商工会の、商工会議所は商工会議所の成り立ちが違う、先ほど申し上げました。そして、県からの補助金の割合、そして旧山内町、またあるいは、武雄市でございますが、その自治体からの補助金の割合も全然違います。

商工会に限って申し上げますと、旧山内町、旧北方町でほぼ6,000千円から7,000千円ほどの補助金を出していたものと聞き及んでおります。その6,000千円、7,000千円相当の補助金の方は、ほとんどが事業費に当たっており、商工会の職員の人件費は県の方から捻出をしているようでございます。

武雄市の会議所の方では、自主財源として、駐車場の料金とかで財源をある程度確保して、武雄市の補助金は商工会とするとかなり少ないと聞き及んでおります。そういうもろもろの条件もございます。

また、山内町の商工会に限ったことを申し上げていきますが、山内の商工会のこれまでの貢献度と申しますか、事業の展開としまして、先ほど市長みずから御紹介いただきましたが、全国展開事業の中の一つということで、大丸の方で黒米製品を先日販売をされ、好評だったということ聞いております。

これは、国からの補助を受け、8,000千円程度の予算を取り、そして、その中でいろいろな事業をやって、1年間の限定でございますが、やってこられました。これは、新しい商工会に限らずですが、いろいろな団体のこれからの事業費の捻出や、行政に頼らない新しい考え方の行動として私は評価すべきだと思うんですが、この点に関して市長の所見をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

山内の商工会のお話をされましたので、今までの活動ぶりについては私も実は高く評価をし、ありがたいことだと思っています。

ここで、私が疑問点を投げかけたいのは、旧山内町からそれでも6,000千円行っているわけですね、6,000千円。それで私は、先ほどおっしゃったように、国から8,000千円というふうにおっしゃいました。私は、後段の部分はすごく頑張ってもらっている。ただし、今、その単体の商工会なり、商工会議所に6,000千円から7,000千円も補助できるような余裕財源が本市にあるか。ないですね。だから、そういう意味で言うと、私は商工会といえども自立をしていただきたいというふうに思っております。

それと、武雄の商工会議所がやられているように、例えば、駐車場であるとか、そういったことでやっぱり自主財源を持ってもらって、みずからそれをビジネスチャンスにとらえるぐらいの気概と迫力を持っていただければありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

2 番浦議員

○2 番（浦 泰孝君）〔登壇〕

自主財源とビジネスに関して、今市長の方から意見がございました。

ちょっと話はずれるかもしれませんが、さっきの質問でも出ました。ちょっと前にございました、青年会議所 J C のビジネスコラボの中で、市長と私も直接お話ししましたが、若手自営業者の中には、今回のがばいばあちゃんの施策に対しまして、ビジネスチャンスと認識を持って、どん欲にビジネスに向けて活動をしている人もございます。

商工会などの補助金のあり方、行政とのかかわり方を見直す、そして、自立する時期に来ているのは、私も十分認識はしているところでございます。

ただ、私が申し上げたいことは、武雄市が自治体として合併が完了しまして、それに伴い、商工団体にも限らず、効率化を求めた上での合併をしていくことは、至極当然だと思います。しかし、それはあくまで公平にということで、さきでも市長は申されました。補助金等は、きちんとした交付基準を設けて、その算定により決定していくということを申されました。

もちろん、商工会同士は合併でございますが、団体が違う商工会と商工会議所の合併もでございます。どちらが優位ということではなく客観的に、そして、申し上げたように、公平な立場で見て算定をしていただきたい。そして、合併を推進するならしていただきたいと思っております。

それでは、最後になりますが、さきに質問しました、繰り返しになりますが、県道梅野有田線の水尾地区部分につきまして継続して事業化を推進の方向で、県に協力、推進をしていただきたいというお願いですが、再度、市長の今後の考え方を答弁をお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

済みません、答弁に入る前に、先ほどの商工会議所と商工会のあり方でちょっと一言補足をさせていただければありがたいと思います。

私も、補助金ば全額撤廃するとか、そういう非情なことは考えておりませんので。ただ、ばらばらなって、それぞれが例えば、6,000千円であったり、7,000千円であったり、そうではなくて、1 回一たんまとまって、多分重複部分もあると思うとですね。その上できちんとした、先ほど議員がいみじくもおっしゃったような適正な補助金要綱にのっとって、補助金

を交付したいというふうに考えております。ゼロか100かの世界じゃなかけんですね、ぜひ議員の力強い政治力を発揮してもらって、合併に向かって力をお貸しいただければありがたいと思います。

その上で、先ほどの県道の整備の件についても、私も選挙期間中、あるいは山内の庁舎に移動中に何回かやっぱり危ないなと思うところを見たことがあります。私自身も、県には力強く働きかけていきたいというふうに思っております。もう50%終わっておりますので、残り50%に向けて、誠心誠意頑張ってまいります。

○議長（杉原豊喜君）

2番浦議員

○2番（浦 泰孝君）〔登壇〕

御答弁ありがとうございます。子供たちの命がかかっております。私も微力ではございます。そして、議員としての経歴も短くございますが、この事例に関しましては、私も議員生命をかけて、今後も活動をしていこうと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

これで、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

以上で、2番浦議員の質問を終了させていただきます。

次に、7番古川議員の質問を許可いたします。御登壇を求めます。7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

議長より登壇の許可をいただきましたので、一般質問を始めたいと思います。

私は今回、一番少ない1項目でございます。宮本議員の質問項目が上にべらっと書いてあるわけですが、寂しい限りでございます。負けないようにやりたいと思っております。

先日、新聞で古川知事が、暮らしの豊かさを実感できる県を目指すというようなことを言っておられました。当市の樋渡市長はぬくもりのある町をと、ぬくもりのある市をとということを言われます。どちらも共通したようなことであろうと思います。さて、私が今通告をいたしております少子・高齢化の問題で、まず少子化の問題でございます。

子供は国の宝と言われます。全国的に少子・高齢化、居住人口の減少、また大都市に集中をするというようなことがあらわれております。当市におきましても、その例に漏れず、減少傾向にあるということは紛れもない事実でございます。周辺地域では、武雄町内以上に少子・高齢化が急速に進んでおるわけでございます。

教育長は、長い間教壇に立って教鞭をとってこられたわけでございますが、教職員になられた当時と、教育長になられた現在を見ますと、子供の数が激減をしていると思います。子供の数が減ったことに対する教育長としての思い、心情をまずお聞かせ願いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

私が教壇に立たせていただいたのが昭和38年でございます。伊万里市の大川小学校というところに赴任をいたしました。そのときの1学級の定数は45名ということで学級編制がなされておりました。当時、大川小学校は1,570人ばかりおりました。現在は120人ちょっと(195ページで訂正)でございます。

私がやめました朝日小学校は、平成13年3月でございますが、そのときは1学級の定数が40人学級ということでございましたが、もう朝日はそのときは40人を切っている学級がほとんどでございます。

確かに、子供たちの数が減ったことは、私の37年間の現職生活の中で肌で感じるわけですが、45名の1学級の定数のころは確かに活気はありましたが、学級担任をする教職員にとっては、まず名前を覚えるのに一苦労。学年の子供たち、200名以上の子供たちの名前を覚えるのは一苦労でございます。よほど気をつけておかないというと、自分の担任する子供たちと1日1回の会話を抜かすときもあったことは、私が反省するところでございます。

しかし、現在、子供たちを見てみますと、多くても40名そこそこでございまして、少ないところは10何名ということで、この子供に接する時間というのは、非常にやりやすくなっただろうと思いますが、社会の環境等が大きく変化する中で、学級担任の心配りもまた大変だろうなと思っております。

しかし、学校の規模が大きかろうと小さかろうと、子供を思う教育をする立場の者は一つも変わりませんが、それぞれの地域での特色をどう生かすかということで、実践活動にはまっているのが教職員であろうと思います。しかし、子供たちの小さな命を育てていくのには、やはり社会性というものも育てていかなきゃなりませんので、小さい規模の学校になりますというと、そのあたりについても大変だろうなと。で、今は各現場におきまして、きのうも申し上げさせていただきましたが、縦集団活動の多様な展開等もして、何とか子供たちの社会性というものを身につけさせる努力もしているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

教育長が教壇に立たれた当時と今とすれば、教育環境は激変しているわけでございます。なぜ子供の数が減ったのかと私なりに考えてみました。日本の高度成長期、労働力の確保ということで、多数の女性の方が社会進出をされました。しかし、これ自体は決して悪いことでも何でもなく、大変喜ばしいことでございます。しかし、一方、受け入れる側、企業側に問題があったのではなかろうかと。時間外労働、産前産後の休暇、育児休暇などの整備をせ

ずに、企業利益への追求に走った結果ではなかろうかと思うわけでございます。

そこで、出生率の問題でございます。出生率が全国平均でいかほどあるのか。佐賀県武雄市ではどうなっているのか。また、今後どのようにになると予測をされるのかお尋ねをし、また企業で産前産後の休暇、育児休暇など取得状況がわかればお知らせをいただきたいと思えます。

○議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

○中原福祉保健部長〔登壇〕

お答えいたします。パネルを使って御説明申し上げます。

まず、出生率の推移でございます。

本年6月に、厚生労働省で人口動態統計の概数が発表されました。その資料でございます。

1947年、戦後4.0以上あったものが、一時期、第2次ベビーブームの段階で持ち直しましたが、戦後急速に落ち込みまして、現在は徐々に落ち込んでいるという状況でございます。

現在、厚生労働省の発表では、概数では1.25でございます。合計特殊出生率でございます。1人の女性が生涯に産む子供の数の推定値として使われております。

なお、人口を維持していくための数値としては、これが2.08というふうに言われているところでございます。かなり落ち込んでいるという状況です。

昨年、生まれた赤ちゃんの数は、日本全国で106万2,600人でございます。出生数から死亡数を引いた自然増加数は、マイナスの2万1,000人というふうに発表されております。これについては、統計をとり始めて以来、初の減少となったということが報告されております。政府の対策にかかわらず、少子化に歯どめがかかっていない状況でございます。

なお、佐賀県の合計特殊出生率については、1.44ということで発表されております。

なお、合計特殊出生率1.25と申しましたが、その後確定がされまして、1.26ということになっているところでございます。

なお、これとあわせて、結婚したカップルは前年より約6,000組減、それから晩婚化が進んでいるということで、あわせて報告がされているところでございます。武雄市の合計特殊出生率については、データとして調査しておりませんので、不明であるところでございます。

なお、自然増加数を見ますと、平成17年度の実績で出生数446人、死亡数579人で、マイナスの133人ございまして、今後、このような傾向は続くということで、武雄市においても、少子・高齢化が進んでいくものというふうに考えております。

育児休暇についてでございます。

これについても武雄市の調査はございませんで、平成17年度佐賀県労使関係実情調査がなされておりまして、その結果により報告をしたいと思えます。

県の調査対象が、常用者規模30人以上の民間企業より抽出した343事業所を対象として、

回収は211事業所、61.9%でございました。

育児休業の取得状況でございますが、平成17年度の割合を女性の取得率で見ますと84.2%でございます。全体の139人に対して117人が取得していると。未取得者が22人で15.8%になっているということです。

なお、あわせて、男性の取得状況も調査されておりますが、配偶者の出生に対して、男性の取得者は県全体で1名ということで、0.4%という状況が報告されているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

出生率、出生数においても、非常に厳しい状況にあるという報告でございました。

通常、夫婦に子供が2人いて、プラス・マイナス・ゼロと。今、2.08と言われましたが、3人いて初めて少しふえるということになるのかなと思います。佐賀県でも1.44ということで減る一方でございます。

以前、私がちょっと聞いたことあるんですが、産休とか育児休暇をとった場合に、終わって会社へ入社し、そのときに机があるだろうかと。前と同じような仕事ができるだろうかと、そういう状況にあるから、休暇はなるべくとらないというような話も聞いたことがあります。このようなことも一つの要因ではなかろうかと思います。

もう一方、高齢化の問題でございます。今から団塊の世代、私も含めてなんですが、多数退職をされると思います。全国平均の高齢化率並びに佐賀県武雄市の状況を教えてください。そして、これらに対して、高齢化になってまいりますので、それに対応した対策も必要になると思います。どのようにお考えなのか、お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

○中原福祉保健部長〔登壇〕

高齢化率について御説明申し上げます。

御質問の全国の高齢化率でございますが、総務省統計局推計人口月報で、平成18年7月時点の分でございますが、20.7%になっています。右から2番目の表でございます。

それから、佐賀県でございますが、佐賀県推計人口で10月時点でございます、23.1%となっております。

武雄市の状況でございます。10月時点の数字でございます、平均でいきまして24.02%となっています。中身について若干説明いたしますと、高齢化率30%を超えている地区については、若木町と武内町でございます。それから、武雄町については、19.81%ということで20%を切っているところです。全体を見まして、少子化と同様、高齢化が進行していると

いう状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

市長

○樋渡市長〔登壇〕

今後の高齢化対策、ちょっとこれは福祉の分野と切り離して申し述べたいことがあります。というのも、一つの参考になるのは、長寿の国沖縄の例であります。沖縄で今どがん展開ばしよんさっか、これをちょっと調べて行ってみたとですね。そいぎですね、例えば、古民家で沖縄そばを出したいとか、あとフーチバーといって、山内の黒米でつくんさっごたっませ御飯ば、本当は60円ででくつとば850円で売りたいよんさっわけですね。非常にもうかっておられます。ナイスチャンスです。

武雄の場合には、食ぶところのなかっていうとは結構あるわけですね。観光客の皆さんがこういうアンケートばとったら、多分一、二位になると思います。だから、そういう意味で、古川盛義議員のおひざ元である多々良のにきに、物すごくおいしかうどんが、鯨の dashi でとった、出すところもあんさっですね。ああいったところで、自分の家のところを出す、そういったのが今非常に喜ばれると思います。

その証拠に、今北方町のわらべってできたですね。うどんとそばを出しんさっところですね。あそこも、私、何回か行ってみました。もう入られんですね。特別扱いもしてくんされんです。そういう意味で、私は非常に喜んでおります。

だから、そういう意味で、何か建てるとかではなくて、もともと武雄の場合、古民家とか結構ありますね。そういったところで、そういうふううどんとかそばとか出す、そして、観光客の方を呼ぶ。あるいは、地元の人たちと、三夜待の延長になるかもしれませんけれども、そういうビジネスができないか。

これで最後にしますけれども、「佐賀のがばいばあちゃん」で、やっぱり観光客に聞きぎんた、食ぶところのなかてやっぱり言わすですね。そいけんが、例えば、淀姫神社の近くであったりとか、あるいは山内の水神さんの近くであったりとか、何かうどんとかそばとか出してくんさっぎ、私としても、市長としても非常にありがたく思っておりますし、それが、ひいてはおもてなし、そして働く場、そして、まあそがんいっぱいじゃなかかもしれませんけれども、所得の一つの方法になるんじゃないかなと熱く期待をしております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

市長の思いはわかりますが、出生率は低下し、高齢化率は上昇するということに変わりはないわけでございます。近い将来を考えると、恐ろしいような事態が待っておるということでございます。実際に労働力として生産活動を行う人口が減っていくという時代になります。

武雄市の基幹産業であります農業においても、そのことは深刻でございます。私の地区におきましても、現実として家すら存続できないと。後継ぎがおらんというところも出ております。将来、そういうところが多くなるであろうと思います。高齢者増における農業対策などどのように考えておられるのか、お聞かせください。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

少子・高齢化が進む中で、例に漏れず、農業に携わる人口につきましても現在減少が続いております。その結果として、耕作放棄地が発生をいたしております。

このような状況のもとで、地域の農業生産を中心に担う農業と、高齢者農家や兼業農家との役割分担について、合意形成を図りながら、担い手の農地利用集積を進めていくことが必要であるというふうに考えております。このため、現在、その担い手として、集落営農組織の設立を推進し、耕作放棄地の拡大を防止するということにいたしております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

先日、九州農政局農政事務所ですか、そこから集落営農組織が佐賀県に463あるということをお尋ねいたしました。この数字が多いのか少ないのかは私はよくわかりません。だけど、集落営農組織は、中山間地域では大変やりにくいと。集落人口の減少、高齢化は確実に進んでいる。農業は続けられない家も出てくる。このような状況の中、耕作放棄田を集落営農組織が一手に引き受けてやるというのも非常に難しいと。デスクワークはどんな人でもできるんですが、実際はそういうわけにはいかないと。そうなりますと、農業後継者の育成というのが急務になってくるわけでございます。その後継者問題をどのようにお考えでしょうか、お願いをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

松尾経済部長

○松尾経済部長〔登壇〕

お答えいたします。

農業経営の安定を図るために、担い手づくりとしまして、認定農業者や集落営農組織の設立の推進に現在至っているところでございますけれども、議員おっしゃるように、農地が狭く、散在をしております中山間地域につきましては、集落営農組織の設立が困難なところもございます。

このため、中山間地域等直接支払制度、こういうのがありますけれども、これを活用して

中山間地域の農地保全を図っているところでございますが、さらに平成19年度からは、新たに農地、水、環境保全向上対策制度が始まります。これらの制度を活用いたしまして、農村環境の形成を図りながら、農業従事者であります担い手を育成していきたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長の答弁に加えて、私はその担い手は無理してできるもんじゃなかなと思います。やっぱり職業につくとき、例えば、古川少年がいつか議員になりたいと、武雄市議会格好よかというふうになる。あるいは、古賀少年が、いつか自分は市の職員になるんだと、前向きな意味で。まあ私は、ひとしく職業はきつかもんだと思っています。しかし、担い手になろうという予備軍の人たちが、やっぱり農家ば継ぎたかとか、なりたかとか、前向きに思わん限り、どがん対策しても私は無理と思います。そういう意味で、ＪＡの皆さん、あるいはうちも経済部を抱えています。農業が本当に魅力ある職業なんだということを、あるいは農業経営者の皆さんもそうです。ぜひ、そればアピールばしてほしかと思います。

現に今、山内のチンゲン菜であったりとか、黒尾のスイートピーとか、あとはキュウリであるとか、私見よっても、何かライフスタイルとしてもこれ、つらかと思いますよ、しかし、何か格好いいと思わせるだけの力の出てきているところのあるわけですね。それをもう少し広げるようなことを、古川議員の力強い政治力で頑張ってもらいたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

大変きつい市長からのお言葉でございますが、これは私一人でできるものでもございませんし、またいろんなことをしながら農業発展、武雄の基幹産業でございますので、いろんなことを考えながら、いい方向に向かうようにしていきたいと思います。

その一方、交通手段の多様化、高速化に伴い、生活環境が以前と急変しております。今、どこに住もうかというときに、生活環境の整備が整ったところに住むわけでございます。住みたいと思うわけでございます。

武雄市は、上水道は市内全域に完備をされております。下水道が市内に完備をされた場合です。水道課にお尋ねいたしますが、配水管の対応などはどうなっておりますでしょうか。また、現在の配水量に対して、下水道が完備したときの排水量をどれくらい予想されておられますか。また、下水道が完備されたとして、雨がどれくらい降らなくて、何カ月間配水、断水をせずに対応ができるのか。まあ予測でございますが、水道部長お願いします。

○議長（杉原豊喜君）

伊藤水道部長

○伊藤水道部長〔登壇〕

それでは、お答えいたします。

まず、管路関係の決定根拠でございますけれども、管路関係の決定根拠につきましては、下水道用水を含めた生活用水、また営業用水は、今後の開発等を見込んだ上で、管径について決定をしているところであります。

また、武雄水道につきましては、その後の消火栓の設置や通水障害等も考えて、管路末端部については75ミリで整備をしておりますので、今後、進められるであろう下水道計画についても、十分対応できる管径となっているところであります。

次に、下水道を整備した場合にどれくらいになるかということでございます。

今現在でございますけれども、1日平均給水量が1万4,400トンでございますので、この分の約900トン程度、1日平均で伸びるんじゃないかということで1万5,300トンぐらいで見込みをしているところでございます。

次に、干ばつ時にどれくらいもつかということでございます。

干ばつ時に、貯水地でありますダム等の水位の問題があって、なかなかお答えをしにくいところもありますけれども、まずもって、これが満水状況にあるという前提で考えましたところ、今武雄市水道が保有する貯水地としましては、転用ダムも含めまして6水源持っているところであります。この貯水量、水道が持つ、水利権を持つ水道の貯水量としては207万トンございます。これを今の平均給水量で割り返しますと、下水道をしない状況であって約5カ月間、それから、下水道を完全に整備したとしても4.5カ月程度は断水をせずに耐えられるだけの、今水道部としての力はあるというふうに見込んでいるところでございます。

以上でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

水道部長から、水の問題は大丈夫だという力強い答弁をいただきました。水道部長、今まで水道料を下げろ、下げろということに対する答弁ばかりで、きょうは余り緊張せずにお答えいただいたようでよかったんですが、私、何で水のお話をするかと申し上げますと、42年の大渇水時のことが私、いつも頭に浮かぶわけでございます。42年の大渇水以降、いろんな人が苦労を重ねられて、水資源を開発していただいて、今の現状にあらうと深く感謝をするところでございます。

この大切な水を使う下水道の件でございます。公共下水道、農村集落排水、合併処理を合計して、整備率は全国で何%なのか、また佐賀県は何%ぐらいか、武雄市の状況、それから周辺地区の状況も踏まえてお尋ねをいたします。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

汚水処理人口の普及率についてお答えを申し上げたいと思います。

平成17年度末で全国平均が80.9%、佐賀県が61.1%で全国第40位となっております。新武雄市では41.7%ということになっております。

本市の旧市町別普及率でございますが、武雄が32.6%、山内が84.2%、北方は30.6%となっております。

ちなみに、隣の鹿島市が37.4%、それから嬉野市が38.4%、そのような状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

人口減を抑えて、居住人口を増加させるためには、生活環境の整備というのがどうしても必要になると思います。お隣の江北町では、下水道整備以降、多少人口が増加したという話を聞いております。このような状況の中で、居住環境のレベルアップがどうしても必要であると思います。下水道対策はどのように考えておられるのか、企画課、下水道課にお尋ねを申し上げます。

○議長（杉原豊喜君）

大石建設部長

○大石建設部長〔登壇〕

本市の下水道対策について申し上げたいと思います。

本市の下水道対策は、公共下水道、それから農業集落排水、それと浄化槽設置補助の3事業で行っております。

未着手地域の整備計画につきましては、現在作業中の下水道整備基本計画、これを策定した後、引き続き、下水道整備計画を策定する予定でございます。

なお、同時に、使用料の統一についても検討を行うことにしておりますので、その結果等を踏まえ、本市の財政状況に見合った事業の種類、規模、実施時期等について決定をしてみたいというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

江北町のはよくわからなかったんだと思いますが、江北自体は、企業誘致もここ数年ではなく、インフラ整備の効果であろうと推測をいたしております。生活環境の整備が人口増につながるということも言えるかと思っておりますので、早急な対策を御検討いただきたいと思います。

す。

次に、ことし、全国で大学受験者が119万人、全員合格の時代が来たと言われよるわけです。1992年に205万人やったと。85万人から90万人ぐらい受験者が減っておるわけです。このような人口減少の中で、合併協議会の資料で、2015年に人口が5万人を切るという予測をしておられました。

そこでです。新市の基本計画の人口推計というやつを見ますと、2015年に5万2,400人になると。現在より少し減る程度ですか、1,000人ぐらい減るんですかね、ような計画になっております。合併協議会の資料と新市の基本計画の差のこの3,000人というのは、どういう根拠なのか、御説明をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えをしたいと思います。

お尋ねの人口の推計でございますが、先ほど言われましたように、合併時の協議会どおりに出しております新市の建設計画がございますが、その推計については、平成12年の国調人口をもとにしまして、平成27年、いわゆる合併後10年先の見込みでございますけれども、これについては、コーホート要因法という方法で推計がされまして、その推計でいきますと4万9,435人となるということで、それに子育ての支援、あるいは企業誘致等で若年層が定住できる環境の整備をしていこうということで、それを約3,000人程度見込んでおります。そういうことで、10年後については5万2,400人ということで推定値を出しているということでございます。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

2005年から2010年までに、5年間で200人、5万2,600人ですか。それで、2010年から2015年までで200人の減と、5万2,400人となっておりますのでございます。

実際にこのようになれば一番いいんですが、現在、小学校6年生が628人でございます。2歳の子供が455名、1歳児、生まれたばかりですね、430人、ここで11年間で約200名、自然に子供が減っておるわけです。今、人口推定の400人の半分は子供が既に減っておるわけです。出生率がどんどん下がり、高齢化率も進んでいく。それで人口が400人しか減らないというような計画というのはどうかと思うわけです。

3,000人の差を埋めるために企業誘致をということでございますが、現在あります若木の工業団地、地元武雄市からどの程度勤務をされておるのか、お知らせをいただきたいところです。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

お尋ねの若木にあります武雄工業団地でございますが、現在９社が入っております、全体の従業員が、これはパートも含めてございますが、500人強ございます。そのうちに、市内の方が約40%、それから市外の方、これは伊万里、多久、それから有田、周辺の市町からの通勤者でございますが、市外の方が半分以上の６割を占めているという状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

７番古川議員

○７番（古川盛義君）〔登壇〕

４割近くの方が市内の方で、６割が市外から通勤をされておるということでございます。市長の言葉をかりて非常に悪いんですが、これはナイスチャンスです。ビッグチャンスでございます。

お隣の伊万里市にSUMCOが工場を増設します。人口増対策として、武雄に住んで、伊万里へ通勤するということも一つの政策としてやるべきではなかろうかと思います。その点、いかがでしょうか。

また、当市の企業誘致の状況、それから、工業団地の造成計画などをあわせて御答弁をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

まず、伊万里のSUMCOの件で、私から答弁をいたします。

今、SUMCOの件は、きのうも牟田議員から工業用水の話が出ましたが、現実課題として、もう進出は決定しております。それで、今SUMCOさんがどこに寮ば建ちゅうかなと、どこに社員マンションですか、建ちゅうかなということで物色ばしょんさっですね。ナイスチャンスです。今、大田副市長を中心として、企業が伊万里なら、住むところは武雄ばいということで、本当に一生懸命動いてもらっています。大田副市長、よろしくお願いいたします。

その上で、今の企業誘致の現状であります。年度内に、20人から30人規模の企業、半導体工場を誘致する方向で今最終段階に入っております。ただ、今詳細に申し上げられないのは、これはほかの県から引っ張ってくっけんですね、がばいばあちゃんと一緒に、今熾烈な争いを実はしております。これまた、大田副市長の力量が、まさに外政担当として問われるとこ

るにあります。そういう意味で、私もこれはトップですので、一生懸命やりますけれども、これは市を挙げて誘致に向けて今頑張っております。年度内にきちんと公表ができるように頑張っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

武雄に住んで、伊万里へ通勤するというようなことが、社員寮なり、マンションなりができて、そういうことが実現すれば非常に喜ばしいことだと思います。

そこで、少子化の問題に戻るわけですがーちょっと飛びまして、済みません。これは、居住人口がふえるということは、子供もふえるということでございます。少子化の原因ということは、先ほども答弁にありましたように、結婚する人が少なくなったということが第一の原因なんでございます。

これは武内の問題でございますが、現在700戸近くの家があります。その1割強が適齢期ちょっとぐらいの人と、お父さん、お母さん、ちょっと高齢の方との2人、または3人暮らしになっております。数年後、家もなくなるかもわかりません。農地も荒れるかもわかりません。財産の管理もできないような状態になるかもわかりません。このような状態は、武内だけの問題ではなく、武雄市内全域に言えることであろうと思います。人口減の対策として、結婚対策とか少子化対策をやっている市町村があったら、また、武雄市でそのようなことを取り組まれているような状況があれば教えてください。

○議長（杉原豊喜君）

前田企画部長

○前田企画部長〔登壇〕

お答えしたいと思います。

お尋ねの、結婚の場の提供ということでございますが、まず県の事業として、これについては平成12年度、それから13年度に出会いのプロデューサー活動支援事業というのが実施をされております。結果的には、結婚という成果は得られなかったということで、これについては13年度で廃止がされているということを聞いております。

それから、県内の他の市町等の実施状況でございますけれども、事例として、伊万里の方で、これは農業経営相談事業、この中でやっておるということです。

それから、玄海町の方で、これも農業関係と思いますが、後継者等育成相談事業というのがあるようでございます。

それから、ここの周辺においては杵藤広域圏管内、ここでドリームキャッチ12、これは12月に開催されますけれども、クリスマスパーティーが開催されております。これについては、既に募集が始まっておりまして、ことしが男女各40名の募集に対しまして、もう既に定員を

超えているという状況が出ているようです。

ただ、これについては、昨年も男女40名中17組のカップルはできたということですが、これは13年度からされておりまして、今までに結婚の事例は2組ということで聞いております。

以上が県内の状況でございます。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

部長の答弁に補足をします。先ほどの2組も、恐らく届けとらんともあると思います。もう少し実態はふえておるというふうに期待をしております。

その上で、私はこの前、あるテレビを見まして、もう随分前ですけども、どういうテレビかという、農家に、パーティー会場とかじゃなくて、農家に実際、都会の娘さんがそこに来て、そこで例えばレンコンば掘ったり、山芋ば掘ったり、あるいはスイートピーばつくったりとか、そういう実際働く姿を見せながら、そがんなぎんたですね、無口な私のごたっ男性も、働きよる場はやっぱり物すごく語るわけですね。これはこがん折らんばいかんとか、これはこっちにこうつまんばいかんとか。私はそういう体験型の出会いですかね、そういうったのがやっぱりよかかなというふうに実は思っています。

そして、泊まる場所も、当該の農家に泊まるのはちょっと問題があった場合には、その近くの、例えば、区長さんのおうちとか、私はそがんところで分離して、また次の日の朝は、朝から一緒に農作業をするとか、私、そういう、結構皆さん笑いは出よるばってんが、すごくよかなって思っています。その証拠に、私はバルーンフェスタのときに、ボランティアでカレー屋さんの手伝いに行きました。そのときに、福岡から手伝いに来とんさった女性が3人おんさったですね。私が言う前に、私は農家の人と結婚したいと、恐ろしゅうよか娘さんやったです。だから、そういうのを、ニーズもあるわけですね。そういう場を武内の多々良でつくってくれんでしょうか。

いや、実際、ここで議論すつともよかです。しかし、これは体ば動かさんぎんた、どうにもこうにも私はならんと思っています。そういう意味で、ほかのできんようなところ、武内は物すごくそういう意味で農業に、私はよかところと思います。風景もよかです。八幡岳も見えます。そういう意味で、ぜひ武内で先鞭をとっていただければありがたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

7番古川議員

○7番（古川盛義君）〔登壇〕

昔々を思い出しますと、がばいばあちゃんじゃないんですが、私の近所にも世話やきじいちゃん、世話やきばあちゃんがおられたわけでございます。その人たちが、あすけ息子のお

るばい、あすけ娘のおるばいというて、結婚をさせよんさったわけですね。その仲立ちをしてもらいよったわけです。しかし、そういうことが今はほとんどないと。交流も、隣近所の交流、地域間の交流も薄くなって、そのようになってきておるんだらうと思います。こういうことも高度成長の負の側面であらうと私は思うわけですが、そこで、地域と公民館とか、行政とが一体になって結婚を勧める運動とか、結婚して、子供が一人っ子のところにもう1人つくらんねというような運動をやってみたらどうだろうかと考えるわけでございます。

地域にできることは地域でやらにゃいけないと思っております。しかし、行政にしかできないこともあると思います。その分担をしながら進めていくということをひとつお考えをいただきまして、私の一般質問を終わらせていただきます。

○議長（杉原豊喜君）

ここで議事の都合上、2時45分まで暫時休憩をいたします。

休	憩	14時28分
再	開	14時44分

○議長（杉原豊喜君）

休憩前に引き続き再開をいたします。

一般質問を続けます。

次に、30番谷口議員の質問を許可します。御登壇を求めます。30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

本日最後の登壇でございます。精いっぱい頑張りたいと思います。

発想の転換ということが、やはり今後の課題の中にきちんと出てまいります。市長の施政方針の話の中にも、あるいはいろいろと熱っぽく訴えられる言葉の中にも、やはり武雄市の発展のためには、ある時期、発想の転換をし、思い切った行動をやらなきゃいかんということが随所に出てまいります。

私はまず最初に、発想の転換の中で、今までの論議を踏まえまして、例えば、伊万里の工業用水がああハイテクのいろんな企業を誘致したときに、どうしても水が足りないと。そういう中で、武雄の水をやれないかという話も論議の中に出てまいりましたし、また、前からもそう考えておりました。ところが、コストがどうかとか、あるいは水利権の問題とか、いろんな問題がございます。

そういう中で、本当言うと角度を変えて考えれば、これは大田副市長の領域になるかと思えますけれども、例えば、伊万里で企業誘致をして1,000人の社員がおりと。そういう中で、伊万里で採用されるのは大体65%ぐらいが地域の方である。あと35%といいますか、そこはいわゆる市外の人から従業員というのですかね、社員として雇用されると。じゃ、雇用問題として考えたときに、これは非常に思い切った発想の切りかえですけれども、工業用水のお金は

武雄でも実際には赤字を出しているわけですから、その分は同じならば、一銭も要りませんと。全部使ってください、無償で提供しましょう、そのかわり35%は武雄の人を採用してください。仮にそういう形が実現可能性としてあるとすれば、むしろ工業用水の水道料を今のコストで伊万里市なりからもらうよりも、雇用を拡大した方が武雄にとってプラスではないかと。そういういろんな角度の考え方があるんじゃないかという気がして、議会での答弁、あるいは質問を聞いておったわけでございます。

そういう場合に、雇用対策、いわゆる武雄市の働く人をふやす。また、若い人、お年寄りを含めまして本当に雇用を拡大することによって、財政的な問題についての一つの方向性を示していくということも非常に大事な問題ではなかろうかという気がいたします。

きのうから夕張の問題がたくさん出てまいっております。私も「朝ズバッ」を見ておりましたら、私たちはメロンのことがはっきりイメージにありました。北海道に行きましたら必ず夕張メロン、あるいはメロンが高いからメロンの味をしたチョコレートを買ってくると、そういうぐらいに夕張というのはイメージとしても、知名度も高かったわけです。武雄よりもはるかに夕張メロンの方が名前が高い、残念ながらそういう感じをしておりました。ところが、今や夕張はワーストワンといいますかね、財政破綻をしたまちで、どうしようもない状態で住民がみんな逃げ出しているんだという話が出てまいります。

その中で、私が考えましたのは、実はきのうの「朝ズバッ」でみのもんたさんがこう言っておりました。調査によると、今、夕張市にお年寄りは住めなくなっている。あるいは若い人もどんどん出ていってしまっていると。このままではゴーストタウン、死のまちになるんだと。そういう中で、実はもっと残念なことがあると。市の職員の75%は、できるだけ早くやめてよそに出たいと言っていると。こういうまちで本当に市全体が市民のための行政ができるんだろうかといったような意味の言外ににじませた発言があっておったわけです。船が沈もうとするときは、ネズミはどんどん先に出ていって逃げてしまうという言い伝えがございます。本当にそういう土壇場のときこそ、しっかり自分たちだけでも踏みとどまってまちをよくしていくんだという気概、そういうものがやはり市政を預かる者にも、あるいは市の職員として、あるいは行政の一員として頑張る者も、議会もともに頑張っていかにやいかんの、そういう状況だとすれば、夕張がああいう破綻を来したことは、そういうところからも来ているんじゃないかという気がしてならなかったわけでございます。

「他山の石もって玉を磨くべし」という言葉がございますけれども、私は一般質問の通告の中で、夕張の問題が他山の石として、私たちのいわゆる市政運営の中に、あるいは市のいろんなものの中に生かしていけないだろうかと。いわばそういうふうな体験の一つを逆に考えていけるんじゃないかという気がしてならなかったわけでございます。

そういうわびしい話はここに置きまして、楽しい話をまず冒頭持てきたいと思います。

それは市長も喜んでもらうと思いますけれども、既に御承知のように、実は18年10月13日

の新聞に県内の観光施設の満足度というのが出ておりました。その満足度は宇宙科学館が第1位だと。第2位は吉野ヶ里歴史公園であると。佐賀県に来た観光客といいますか、そういうふうなツアー客の満足度を調査した中で、とにかくファミリーツーリズムの運動の夏休み向け企画の中での調査でございますけれども、いずれにしても、夏休みに向けての企画は7月15日から8月31日まで県内24の観光施設で開催されていますけれども、その中で、とにかくナンバーワンは県立宇宙科学館だということが出てきたんですよ。武雄が1番になったのは久しぶりですよ。「がばいばあちゃん」で一生懸命、今、新聞に、いわゆるマスコミに登場するナンバーワンも武雄ですけれども、この宇宙科学館の施設が本当に来てよかったと、もう一度来たいということのナンバーワンになったことを皆さんの前に報告できる。これはともに宇宙科学館の誘致運動をやった者の一人として、とてもうれしいことですから、あえて冒頭にこの問題を申し上げたわけでございます。

実はもう一つ、この宇宙科学館と夕張市との関係があるわけですよ。どこであるかというのは、宇宙科学館の誘致運動をしましたときに、いつか申し上げたと思いますけれども、佐賀県立歴史資料館の運動から始まりました。その歴史資料館運動が、県は佐賀市につくりたい、だから、武雄市は余り運動をせんでほしいということを内々武雄のいろんな方に言ってあったのは事実でございます。しかし、私たちはこの機会を逃したらば、歴史と文化、先ほど市長も答弁をされましたけれども、まず大事なのは歴史性、文化、そういうものが脈々と続いてきているから同じ温泉でも値打ちが違うんですよと、いみじくも市長は申されました。それと同じように、歴史と文化を誇る武雄こそ、まさに県立歴史資料館、今は佐賀城本丸歴史館になっていますけれども、あれこそ武雄が一番ふさわしいということで運動をし、それと佐賀市がまさに激しいせめぎ合いをいたしました。そのときに武雄市民は一体となって、あっという間に全市民の署名が集まって、その大会を――市民推進運動大会だったわけですが、そのときに私はその推進委員長、実行委員長をやらせてもらっておりましたけれども、まず、私が最初やりましようと言ったのは、今、武雄市の図書館・歴史資料館にあります日本で最初に日本人の手でつくった大砲を佐賀の市役所に向けて、玄関に据えまして、できれば一発ぶっ放したかったわけですよ。そういうことまで、いわば気持ちを高めるためにやりましたけれども、「谷口さん、それだけは勘弁してください。もし壊れたら文化財が大変だから」という話でありましたけれども、それくらいにみんなの気持ちを高めていくと。

今回の「がばいばあちゃん」の問題についても、いろんな論議があります。いろんな批判もあります。しかし、私の考え方の中には、やると決めてやるなら、とことんやりなさいと。ツアーの募集が今あっておりますけれども、宇宙科学館を誘致するときは、これは距離的な問題もありますけれども、バス7台、婦人会から老人クラブからあらゆる団体にみんな参加してくださいとって、バスが足りないので次々にバスを発注して、そして、バス7台を連ねて県議会の議事堂を占拠するぐらいの人数で、廊下は全部武雄市民で埋め尽くしたぐらい

の運動を展開したわけです。だから、これは次元が違いますけれども、例えば、今度議会は22日ですけれども、21日は休みですから、できたら市長も先頭になって、それこそ東京まで行ってもらって、その日は休会ですから、議会中であろうが行ってもらって、どんどん運動してもらおうと、それくらいの気持ちで――例えばですよ。考え方としてはやってもらっていいと。ただ、問題は一つあるわけですよ。そういったような問題についても、やはり市民の方々に十分理解を求めて、よし、やりなさいと後押しをされるような段取りをして、これは執行部のほかの人の努力も必要としますけれども、やっていただきたい。そういう気持ちであれば、私はやりかかった以上はとことんやるということが大事じゃなかろうかと。要するに途中でやめたんでは効果が薄れるわけですよ。本当の効果は出ない。私はいろんな市民運動をともにやってきた中で、そういうことを感じております。

そういうふうな問題と同時に、この入館者数にいたしましても、本当に県立宇宙科学館は、もう一つ、今は指定管理者制度で、いわゆる今までのように県が直接じゃなくて、幸い宇宙科学館を最初設計企画したところが指定管理者になったために、いろんな催し物も積極的にやっていってもらっております。それを武雄市が大いに活用しなきゃいかんわけですよ。そういうふうな問題を含めまして、まず質問としては、そういうふうな武雄にある財産というものをどのようにして市の今後の発展に生かすかという問題を考えていただきたい。このところについての取り組みを聞きたいと思います。

同時に、武雄市は文化と歴史のまちでございます。その文化と歴史をどう生かしていくか。よそにないものがせっかくあるんだから、最高に生かしていくような政治の仕組みが大事ではないかという気がいたしますが、その点についての市長の考え方、あるいは関係する教育長の考え方も承りたいと思います。

ただ、私は思います。今までは武雄市の文化課がありました。今、文化課がないわけですよ。文化を誇るすばらしい武雄市に文化課がなくなっているわけですよ。文化係はあります。私が申し上げたいのは、生涯学習課というのは非常に大事ですけれども、生涯学習というのは一つの手段です。文化は基本です。ですから、子ども部をつくるとおっしゃるなら、文化課は要らんから文化部をつくってもらって、そして、本当に頑張るような立場で思い切った方向を示していくことも大事ではないかと思います。それについては、教育長の考え方を承りたいと思います。

きょうはいじめの問題を含めまして多くの問題があります。ですけれども、まず冒頭、その2点についてお尋ねをし、あとはじっくりと質問をしていきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私もじっくり答弁をしたいと思います。

まず、「がばいばあちゃん」の20日、21日の件であります。これについては、飛行機がとれんやっただすね。年末にかかわって、なかなか行けんということと、私も行きたかったんですけど、実はその日に子どもたちと語る会をセットしたいという私の意向で、そちらの方を私としては優先をしたいと。「がばいばあちゃん」よりも、そちらの方を優先するということで、私自身はちょっとそれは裏方に回っている次第であります。ただ、東京のあちこちに電話は私自身しておりますので、きっと盛り上がって、これは新聞、テレビにいっぱい出ると思います。皆さんもんぺで行かれますので、ぜひ注目をしていただければありがたいというふうに思っております。

もとより一生懸命PRをしております。その上で答弁に入りたいと思います。

武雄にあるものの取り組み、まず、私が一番驚いたとは、固有名詞は上げません。ある陶芸家の方で、私は大阪にいました。大阪で「この陶芸家の方は武雄です」と言ったら、「ああ、武雄ですか」と知っとんさるわけですね。しかし、武雄に戻ってきたときに同じような年齢層の人に聞いたら、だれも知らんやっただすね。だから、市内で全く知られておらん。逆に、大阪とか東京で知られている。こういった方々は一流の陶芸家の方です。あるいは染色家の方がいらっしゃいます。こういった方々がいっぱいおんさるわけですね。だから、そういった方々を、例えば、一つの案としては、エポカルで個展なり、二人展とか、若手展ができるようになればいいなど。しかも、私はそこでお金を取ってよかと思うとですよ。しかも、陶芸だったときには、それをちゃんと売ると。そういうふうな手だてができないかということで、今、教育委員会と実は協議をしております。

その上で、エポカルという名称です。調べてもらったら、あれは公募で決まったと。誤りだったら教えていただきたいんですけども、やっぱり横文字は浸透せんですね、キルンとかエポカルというのは。だから、そういう意味で、この際、名前を変えて、本当に市民に親しまれるような名前、これはいろいろあると思います。固有名詞をつけるなり、地名をつけるなり、そういう意味で、あそこを文化発信の拠点にしていきたいというふうに思っております。

それと、文化の件であります。文化部をつくったり、文化課をつくったり、文化係と、これは人の問題と私は思います。したがって、私は谷口議員のごたる文化人とともに、私自身が文化人にならんばいかんというふうに思っております。そういう意味での御指導、御鞭撻をお願いしたいというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

私も文化人と言われると、ちょっと面映ゆい感じがいたしますけれども、しかし、今のエ

ポカルの話については、私もちょっと考え方で、公募でいい名前はいただいたと。それはそれでいいですよ。ですけれども、その経過の中で、昔ですね、要するにエポカルという温泉センターみたいなのが既にありまして、それが先着のエポカルであったわけです。しかし、公募して本人が最初の発案だとおっしゃれば、それはそれとして。ところが、役所はまじめですから、どうしても、教育委員会は特にまじめなところですから、せっかく公募して予算を使った以上はエポカルを使わにやいかんという気持ちでおられたと、私はそういう理解をしているわけですよ。ですけれども、市長がそういうお考えであれば、やはりエポカルではなかなか情報発信がですね、エポックカルチャーというんですかね、そういうのじゃなくても、本当に素晴らしい歴史的なものを持っている武雄ですから、文化的な、例えば、オランダですから、武雄蘭学館という名前だけでも既に情報の発信ができるでしょう。特に、蘭学なんていうのは最高ですから、武雄にとっては本当に、武雄の次に蘭学について頑張ったのは福沢諭吉ですからね。福沢蘭学塾というのをつくって、慶応大学の前身になったぐらいですから、とにかく蘭学を武雄がきちんとやったということが歴史的に証明されるような、そういう観を全面に出してもいいんじゃないかという気がするわけです。

その点については、市長のお考えは十分わかりました。どうかひとつそういう線に沿って御検討、頑張ってくださいと思います。

文化の問題については、教育長もいろいろ考えがあると思いますけれども、その点については市長が申されましたので、文化部をつくるつくらないの問題については、これは答弁は結構でございます。

ただ、問題は、今から幾つか問題点を取り上げてまいりたいと思いますけれども、いわゆる文化課の活動の中で、図書館の問題がございます。しかし、その前にもう一つ、やはり武雄の歴史文化のストックというのをどう生かすかというのが大きな命題だということで、これは関係課にも資料としては提供いたして、私も資料を持って、執行部も持ってもらって、同じ視点でやりたいというのが私の持論ですから何でも差し上げておりますから。

そういう点で、ひとつ考え方でございますが、実は流鏝馬ですね。ことしの流鏝馬は3,000人近くの方がお見えになって、確かに特別観覧席もつくってもらって、臨場感のある行事として非常に好評でした。うれしゅうございました。流鏝馬の観覧席をつくることについては、やはり今までの流鏝馬を支えていただいたそれぞれの区の代表の方ですね、いわゆる20何区の代表の方々をお招きした。あるいはもう一つは、武雄の春秋会といいますか、県から、国から、いろんな地域から武雄に来てもらっている各省庁、団体の代表の方々等を、いわゆる文化財審議委員を含めまして、そういう方々をお招きする場所との関係があって、いろいろと調整の時間もありましたけれども、少なくとも臨場感にあふれた行事ができたということを感じています。

その中で、私もいろんな紹介をしながら言い忘れたことが一つあったわけですよ。ちょう

どタイミングの問題がありまして、一番大事なことを紹介できませんでしたが、流鏝馬の行事の中で本当に一番大変な役は、衣装を着て勅使になった方とか射手さん、そういう方々も大変でしょうけれども、もう一つ、本当にこの役だけは大事だというのが実はあるわけです。それが、資料によりますと後詰という仕事がございます。資料を皆さんもお持ちになっていると思いますけれども、要するに行列の一番最後に、今は軽トラックですけれども、軽トラックにスコップとほうきとバケツを持って乗っている方が何人かいらっしゃいますが、その方々が一番大事な役なんです。それはなぜかというと、馬は生き物ですから、おしっこをしたり、あるいはお漏らしをしたり、大きいのを落としたりします。そういうときに、それをぱっと行って拾って掃除をして、また車に、そういう清掃係がおるわけですよ。実は昔はそういうのはなかったわけですよ。馬が走って行って漏らすと、あるいは落とすというと、みんな喜んでそこに集まって行って足で踏んで、これで馬のように足が速くなるよと、馬のように元気になるよということで、みんな足で踏んで、喜んで馬のふんの周りに集まってきた、そういうのが歴史の背景にあるわけです。商店街へ行くときも、ああ、家の前でうんを落としてくれたと、運がうちに入ってくるんだということで、みんな大喜びで自分の家の前にあったふんを。ところが、今は本当にその係が一生懸命すくって行って、そして、ちょっと簡単に掃除をして、すぐ車に持っていくんですけれども、そういう中で、実は終わった後、責任者を出せと行ってよく電話がかかります。何かといたら、やっぱり私が責任者になって、何でしょうかと言ったら、どういうことですかと。馬のふんを片づけていないと言って、タクシーで飛ばしていかにかい。行ってみると、確かに掃除はしたんですけれども、馬のふんのわら切れか何かがちょこっと残っておるのを痕跡が残っているという指摘をされるわけですよ。そういう時代ですよ。本当は自分の家の前であれば自分たちで片づけてもらったらいいと思うんですけれども、主催する立場になると、なかなかそうはいかと。ことは馬場の中ではそういうことがありませんでしたが、馬場の中でもしあったときは、武雄高校の弓道部の生徒さんにその役をお願いしようと、馬場の中だけ。それくらい内々の話をしておった。そういう配慮をして行事があるわけです。ところが、なかなかお祭りの表舞台と、それから、その裏にある仕事というのがあることが、行事の華やかさに隠れて、そういうこともございます。

しかし、そういうものを積み重ねてきて、ああいう伝統的な歴史的な行事があるわけですが、実は一つだけうれしいことがあります。それは、市長はとにかくお祭りとか、そういう行事は市を挙げて、みんなが盛り上がってせにかいということのを常に申されますし、私もそう思っています。ところが、市役所は今、市民サービスということもあるでしょうけれども、くんちの日は午後休みじゃないわけですよ。昔、市役所は午前中だけして、午後からは地方祭について休みと行って、保安要員というのはおかしいですね、済みません。窓口の業務をする人だけ残して、あとは全部お祭りの行事を見に行けということであった

わけですよ。ところが、いつのころからか、実は市役所は――関係する学校は生徒を早引きさせて見学に行かせてくれます。そういうふうにやっています。ただ、銀行も今は休みでなくなりました。何で休みにせんのか不思議でたまらんですけれども、地方祭というのは大きな節目なわけですよ。ですから、自分たちのふるさとと思うならば、トンテントンにしても、それは確かに唐津の曳山にしても、博多のどんたくにしても、みんなが自分たちのまちの行事だということで喜んでやっているのに、そして、いや、まち全体でやりましょうと言いながら、なかなかそこの対応はできておりませんけれども、それについてはどうなんですか。

私、一つだけ事例を申し上げたいと思いますが、市長は目の前にいらっしゃいますからですけれども、副島整形外科ですね、副島病院、あそこはおくんちの日は全部張り紙して、どんな患者さんがいっぱいでも、本日はお休みしますと。担当の看護師さんだけ残して全部休みです、おくんちの日は。そして、流鏝馬の行列が来ます、馬が行きます、そうすると、理事長――院長さんがちゃんと待って、そして、ニンジン馬を馬に食べさせてくれます。それは馬にニンジンをやるといことの中にある、いわば自分たちのふるさとを大事にしようという思いで、そういうのがわずかに武雄に残っているのは副島病院ただ一つなんですよ。そういうことを考えたとき、本当にまちの行事を盛り立てるためには何らかのそういうアクションも必要じゃないかと。やっぱりこういうことはきちんと知らせてやるべきじゃなろうかという気がいたします。

実は今の理事長さんもその日はお休みで、馬のことをしてもらいました。流鏝馬も続けていくためには、やはりどうしても後継者の育成がありますし、武雄は歴史的に馬が1頭もないまちになってしまったんですよ。ですから、何とかして馬の準備をしたり、若い人たちが馬場を準備して、馬の練習を通常できるようにしたい。ところが、馬をどこから購入するかということになったときに、私は区長さん初め、若い連中と一緒に、実は副島病院の理事長は日本中央競馬会の理事をなさっています。そして、武雄にそういう伝承的なものをやるとするならば、中央競馬会から名のある馬、ハイセイコーとかスピードシンボリなんていうのは無理かもわかりませんが、とにかくそういう名のある馬を武雄に持ってきて、そうすると、武雄の観光資源にもなるし、人も来るわけですよ。馬好きの人は日本じゅうから見に来ますから、そういうことでもってやったらどうかと。市がそういうことに対して前向きであれば私も一肌脱いで、馬の5頭か10頭ぐらいはちゃんと馬運車に積んで持ってきて無償であげるとまで言っていたいたわけですよ。

そういう立場で、市長もまちづくりについては非常に前向きですから、それについては恐らく共感いただけるものだと思いますけれども、とにかくみんなでお祭りをつなげていかないと大変だということが、これは武雄市にとっても、あるいは武雄に来た人が楽しめる行事がないと人はやっぱり動いてきませんので、そういう意味では、そういう資源の取り扱い、そ

れから、行事等についてのお考えがあれば市長の所見を伺いたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も基本的な方向は一致しています。岸和田にだんじり祭というのがあります。私は実はあれの裏方に入って、一生懸命盛り上げた経験もあります。ほんなごてぶつけられて、吹っ飛ば一步手前まで行って、それぐらいやっぱり盛り上がります。あれはまち挙げてやっています。そのときに、実はあれは平日にしょんさったわけですね。これもずっと歴史がありますので、平日にしょんさった。そのときに市役所がどうなっていたかというぎ、やっぱり市役所は通常業務ばせんばいかんやったと。それは何ですかと私も聞いたわけですね。そいぎ、世の中、お祭りばかりの人はおらんと。物すごく困った人たちが行政の窓口に行ったときに行政が全部出ていった、あるいは大部分出ていったときに、果たしてどがん思いんさるですかというとは、その当時、私は聞いたわけですね。

だから、そういう意味での今の行政のかかわり方というのは私は実は非常に難しいと思っています。私個人的には、休みを全部とって、地域の祭りであるとか、あるいは流鏝馬であるとか行くべき。昔はそうやったと思います。しかし、今現代的に考えた場合に、本当に有権者、納税者の方々がそれで納得できるかといったときは、私はちょっと足踏みをします。

その上で、もし可能ならば、実は岸和田のだんじりは、ことし初めて土、日開催になりましたね。そうすると、一般の働きよんさる市民の皆さんであるとか、あるいは我々職員一同こぞって応援できるわけですね。私はあの祭りの魅力からするぎんた、3,000人が1万数千人に私はなると思います。しかし、やっぱり歴史の連続性であるですね。だから、あれをどっちをとるかというのは、今回議会で私もよく言いますけれども、それは選択の一つの問題かなというふうに思っています。もとより23日が絶対よか、これは外したらいかんというお気持ちもよくわかります。しかし、今現代の祭りの状況を考えた場合に、あの岸和田のだんじり、あるいは唐津くんちですね、あれもたしか週末にあるというふうに聞いております。だから、そういう意味で、そういった開催もできないかと。祭日にする分は神事でしていただいて、その直近の土、日にですね、ある意味、言い方は悪いかもしれませんが、イベントという形で持ち込むことができないか。そうやってきた場合には、我々はこぞって応援をしたいというふうに考えております。これは議論を呼ぶところだと思いますので、提案にとどめたいというふうに思います。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

今の市長のお祭りに対する考え方については、よくわかります。やっぱり流鏝馬の保存会

なり実行委員会でもいろんな検討をして、だんだん高齢化して、若い人たちの手が足りなくなる。本当にお年寄り元気ですけども、もし何かあったときには心配というぐらいに、やっぱり的を担いであるのは武雄高校の弓道部の人たちが、いわゆる流鏑馬の基本は弓ですから、そこから協力をさせていただいておりますけれども、なかなか進学校でもありますし、ことしは20何名が参加しています。そうすると、問題が出てきたわけですね。実はクラスが30人か40人のところに15名ぽつと減ると授業がなかなかという問題とか、ことしまではしてもらいましたけれども、そういう問題も出てくると。ちょうど土、日であれば、やはり御父兄の了解を受ければ学校はオーケーだという感じで、非常に協力的ではございますけれども、やはり主催をする側としても配慮して、八並の区長が全体の総括をさせていただいていますので、区長と一緒に高校に行くとか、そういうことで、いわゆる単に八並区の行事じゃなくて、市全体の流鏑馬の行事としての取り組みをやらせてもらっているわけです。

だから、山内の流鏑馬のこともいろいろお話がございましたけれども、実は財政負担は、例えば、武雄市内の流鏑馬関係は、旧武雄町の全区と、甘久、黒尾、繁昌、その3区は区民の方全部が年間200何十円かお金を出して、この行事を支えていただいているわけですよ。補助金ということじゃなくて、そういうものを出して、みんなで運営をしているという珍しいー珍しいというのはおかしいですね。歴史的に続いた行事なわけですから、何とかしたい。ところが、流鏑馬の23日というのが歴史的な形になっておるもんですから、そういうことで、土、日になるときが7年に1回ですから。ところが、12年に1回は、土曜日にしたら、今度は日曜日にできたら、とんとんと月曜日に飛んでみたりしますもんね。うるう年とか、何とか年とかいろいろあって苦労がありますけれども、今おっしゃったように、私たちもできれば神事ということはきちっと23日に歴史と伝統を守ると。それからまた、そういうふうな流鏑馬の市民とともに楽しむお祭りはということも、やっぱり今後検討課題にしていかなと、ずっと続けて、今、800年ですから、これば900年にするのは大変だろうという気がしております。でも、1,000年続いたら立派なもんだと思います。

ところで、実は1,270年続いた行事が武雄にあるわけですよ。天平年間からも実はあります。それは武雄神社が今の場所に移ったのが天平7年か10何年ですが、それから逆算すると大体1,200何十年になりますが、実は来年はいのしし年ですね。それがイノシシに関係ある行事なわけです。これはチャンスだなと。何とかチャンス、またあれが出てまいりますけれども、実は前に計画をして、古賀副市長あたりも御存じと思うですけども、実際はやりたいなと思って計画を進めたけど、O-157というですかね、食べ物が何とかという。あれが出てできなくなって、計画が中途半端になったことがあるんですが、実は歩射（びしゃ）祭りといいまして、実はそれが佐賀県で一番、九州でも古い行事なわけですよ。福岡では歩射（ふしゃ）祭りとか、そういう行事がありますけれども、その行事が2月17日にあります。その神社の行事のときに、必ずイノシシを2頭とウサギを2羽と、それから、何とかという

鳥ですが、これは著書はありませんけれども、それをお供えして、そして、直会を集まった人みんなで神様と一緒にイノシシを料理して食べるという行事があるわけですよ。ですから、1,270年たてば、多分市長であれば恐らく振る舞いは、1,270年たっていれば、ことしは1,270年だから1,270人には無償でシシ汁をごちそうするとか、そういうふうな発想になれると思いますけれども、そういったような行事をして、ただ、物産祭りのときに武雄競輪場でカニ汁をごちそうするのと同じように、武雄にああいうのがありますから、そういうやり方はできんだろうかという検討をして、やってみようかという話になって、そこに富永議員もいらっしゃいますけど、イノシシは私が持ってきていいというぐらいの話をしてもらった経過もあるわけですよ。そういうふうなところが、O-157で保健所がどうも許可されんごたるといようなことで、そういうふうな問題が出てきていますけれども、やり方としては、今、物産祭りのときにみんなごちそうしたりするじゃないですか。そういうことを考えたら、食べ物に関係すれば人がいっぱい集まってくるわけですよ。しかも、寒いときに、豚汁は食べても、シシ汁は余り食べたことがない人が多いですから、絶対に私はいいんじゃないかと。

例えば、そういう行事を何かの機会の一つの節目にできるんじゃないかというふうな構想とか、武雄にある歴史と文化、そういうふうないろんな行事の中に、今は一つの例として申し上げました。山内にも、北方にもいっぱいすばらしい行事があると思いますから、そういうのを何か連携させるものもあっていいんじゃないかと。例えば、同じシシ汁をするなら、どんぶりは全部黒牟田のどんぶりを使うとか、みんなで飛龍窯でつくったものを使うとか、そういういろんな発想もいいんじゃないかなろうかという気も一面しておるわけです。

そういうふうなことも、これはやっぱり年寄りの発想と思ってください。ここで年寄りが登場するわけです。

武雄市はお年寄りを元気にしているかどうか、大事にしているかどうかという話ですが、ちょっとこれを見ていただきたいと思いますけれども、（資料を示す）ちょっとこれを見てください。「情熱は年をとらない。年齢に縛られていては本当に必要な人材は見つからない」と、こういうことが――私は別に年だから言っておるわけやないですよ。これは三浦さんというてから世界的なスキーヤーがヒマラヤを制覇されたときの、これは厚生労働省が市役所に張ってくださいと持ってきてあって、掲載期限が過ぎたから、私が欲しいといってもらったんですよ。いいでしょう。これもせっかくするならば、裏の通りに張らんで玄関に張ってもらいたかったわけですよ。裏の通路に張ってあるもんですから、私ぐらいしか見らんわけです。見てください。いいでしょう。でも、私はポスターを出すときは皆さんに見えんから、資料としてコピーして出すように言われたから、議会事務局をお願いして全部配っています。いいでしょう。

ここを見てください。「年齢に縛られていては本当に必要な人材は見つからない」と。要

するに年寄りのパワーというものを大事にせんばいかんと。実はこれがまた「がばいばあちゃん」に関係あるわけですよ。

「がばいばあちゃん」のことを書いた島田洋七さんの対話が「毎日かあさん」200回記念ということで、12月10日日曜日の新聞に書いてありました。やはりどうしても武雄におると、「がばい」と書いてあると、つい見ろうとしますから、島田さんの話ですが、その中で、実はこう書いてあるんですよ。私は6月の定例議会でも取り上げましたけれども、この洋七さんが自分は余り勉強しよらんやったと。ですけれども、やっぱり通知表をもらったときに家の者には見せにくかけん、こそっとなおしたりしよるぎ、「おまえ、通知表は」というようなことで見せたところ、1点やったと。ところが、おばあちゃんは「ああ、よかった、1点で。五つあるぎ、5点になる」と、そういう教育の仕方をしてあったということで、教育長に6月議会で取り上げてお話ししたことがございますが、その中で、実はこう書いてあるんですよ。高齢化して眼鏡をかけますが、小さい字ですけど、「うちのばあさんだけじゃないと思うよ。明治とか大正のああいう昔の人の話を、今やから聞かなあかんと思う。もう行き詰まってるて。携帯、インターネット以上、何が要るの？もう要らないですよ。だから変になっていくんですよ、子どもも。まず明るい子どもをつくることですよ。そして体力、それから勉強やと思う」と。体力をつけさせると。そしてまた、お年寄りのことを聞きなさいと。「がばいばあちゃん」のPRをするときに、これも一緒に市長に言っていただきたいと、こう思うわけです。私ももちろん、これは「昔の人の話、聞かなあかん」といって大きい記事としてここにあるわけです。私は一般質問の準備をする中で、どういう展開でお訴えをしようかと、こういう気持ちでございましたけれども、次々に出てくるもので、資料というのはあるんですね。

私がかえって思うのは、この中で、「がばいばあちゃん」と同じぐらいに、もっと元気のいいおばあちゃんにお会いしました。先ほど本当に武雄市のために頑張ってもらっている副島病院の話が出ましたけれども、先週の土曜日に副島病院のリハビリに行きましたところが、あるおばあちゃまが「谷口さん、本当に市役所も一生懸命やってもらっていると思うけれども、北風の木枯らしが吹いて落ち葉がいっぱい散ってね、ちょっと用ば足せんやっただもんね」という話をされたわけです。何の話かということ、市役所の前の公衆便所、トイレに用足しにちょっと寄ったと。ところが、わっと落ち葉が入ってきて、そして、便器の中に落ち葉がいっぱい、つまりたまり場ですね、吹きだまりのような感じになっておった。ところが、構造上、あそこはやはり戸をあけておかんばいかんらしいですもんね。そういうことで、玄関の戸というのはおかしいですけど、トイレの中は閉まるんでしょうけれども、普通はあけてあるわけですね。安全対策とか、何かあったらいかんから、あけてある。そこに行ったところが、そしたら、用を足せんで、何人が行かれたんでしょうけれども、流せんで、そして、ちり紙が何枚か落ちておったと。ですから、それはいかんな、武雄市の観光の玄関先である

のに何かできないかなというって実は片づけてきましたと。「どうやって片づけたんですか、何か掃除道具があったんですか」と言ったら、「いや、手でトイレの中のものをもって捨てて、そして、ちゃんと水が流せるようにしてきました」とおっしゃったわけですよ。「ああ、ありがとうございます。手が汚れたでしょう」と言えば、「いや、手は洗えばいいですよ」と。昔の人はそうなんですよ。今は馬のふんも自分で拾ってくれんわけですよ。昔の人は手を洗えばいいからというって丁寧にしてもらった。

しかし、その方がおっしゃったのは、そのときに私が用を足しに行って、たまたまそうだったけれども、いつもはきれいにしてもらっているとおっしゃったから、その方は時々はおそこを病院の行き帰りに通っていかれるんでしょう。下西山のおばあちゃん、82歳です。まだ気分はつやつやしている。そのときにいみじくもおっしゃったことが、市役所も手が足りんさらん、私たちはまだ元気かと。ボランティアでよかけんが、トイレの掃除は老人クラブで私たちが加勢してあげてもよかねとおっしゃったわけですよ。うれしかったですもんね、その言葉を聞いたときに。すぐ担当課に連絡をいたしました。そしたら、わざわざ何回も行ってもらって、おばあちゃんはその後は旅行されておったようですけれども、お会いしてお礼を申し上げてきたという話をきょう聞いたわけです。

そういうふうな状況からして、武雄市内の公衆トイレは今何カ所あるか、その点を一応――これは報告だけじゃいけませんので、質問させてもらいますけれども、どういう管理をなされているかをまずお聞きしたいと思います。

そして、今のおばあちゃんについての感想をお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

藤崎市民環境部長

○藤崎市民環境部長〔登壇〕

お答えします。

我々の方で管理している便所が29カ所でございます。

清掃につきましては、5名の方だったと思いますけれども、職員じゃなくして、予算を組みまして一般の方をお願いしているところでございます。（「おばあちゃんの感想」と呼ぶ者あり）

私も先ほど聞きまして、おばあちゃんのそういうふうにしてされたことに対しては、大変ありがたく感謝しているところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

実はその後におばあちゃんが言われたことがもう一つあるわけですが、それについて、そういう方法があるかどうか。

そういう感謝を私が申し上げましたところ、私たちは時間のあるよと。暇やっけんー暇やっけんと言うとおかしいですけど、体も丈夫やし、何かそういうところでトイレの掃除でも何でんよかけんが、武雄にそういうところがあれば何かお手伝いをしたいと。だから、そういう指示をしてほしいという話をされたわけですよ。それは話しておきますからといって、具体的に一人の方をお願いして回るといわけいかんでしょうからですけども、問題は、そういうボランティアというか、そういう気持ちを持っていらっしゃるおばあちゃん、「がばいばあちゃん」のああいうふうにひたむきなことに対するほのぼのとした教育ですね、同時に、地域にもまさにそういう「がばいばあちゃん」もいらっしゃるんだということを感じたもんですから、この際、市長にその点についての受け入れというのですか、どういうふうにしたらいいかをお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私も大変ありがたい話で、自分ではなかなかできることではないなというふうに思っ、谷口議員の御質問を聞いておったところであります。

翻って、私は3世代の大家族に生まれ、そして、育ってきました。高校まで、その家庭にありました。そのときに、先ほどの谷口議員のお言葉を聞きよったときに、うちのじいちゃん、ばあちゃんも同じことば言いよったですね。やっぱり市の職員が忙しかろうとか、議員さんが忙しかけん自分たちでしてきたとかですね。そいけんが、ある意味、日本というのはそれが、特に、明治生まれの日本を本当につくった皆さんたちというのは残っておったと思いますね。だから、そういう意味で、日本人の遺伝子が先ほどのおばあちゃんに残っておんさったというふうに私は思っていますし、非常に大事にしたいと思います。

その上で、どういうふうにおばあちゃんたちに本当にがばい力を発揮していただくか。きのう私が答弁したとおり、やっぱりシルバー人材センターにその役割を担っていただくべきだというふうに思っておるわけですね。例えば、武雄に久留米のNPOとかあるわけじゃありません。だから、シルバー人材センターにまず登録をしてもらって、そこに押しつけというような形じゃなくて、一定の先ほどのサービスと言ったら語弊があるかもしれませんが、そういったところに登録をしていただいて、やりがいのある仕事をそこでしていただくことが、これは本当にいい形になるのかなというふうに思っています。

もとより武雄の場合、シルバー人材センターは一生懸命やっているといます。しかし、例えば、沖縄であったり、大阪であったり、私もシルバー人材センターにはかかわってきました。そのときと比べると、やっぱりPRがなかなかですね。そういう意味で、私はそのシルバー人材センターの活性化を強く期待したいと思いますし、ぜひ市民の皆さんにおかれても、私はこういうことができるよとか、こがんことばしたかばいといったことを福祉保

健部なり私なり、あるいはシルバー人材センターに投げかけていただければありがたいなというふうに思いました。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

じゃ、ちょっとポスターの話に戻りますけれども、今の市長のお考えなり、そういうのは、確かにシルバー人材センターは頑張ってもらっておりますし、私もシルバー人材センターに――メンバーじゃないですよ。メンバーじゃないですけれども、市の農林課が貸し出ししている市民農園を借りて、手に負えんで、ついシルバー人材センターをお願いして、どっちがシルバーかわからんようになった思い出もございますけれども、本当に頑張ってやっ

ていただいています。

その中で、年齢の問題があると思うんですよ。例えば、ボランティアです。シルバー人材センターは余り年の多かけんだめとは言わんかわからんですけれども、いろんな企業が、いわゆる何といいますか、労働をする人の募集、採用に当たっては、働きたい人の年齢を理由として募集、採用の対象から排除しないようにしなきゃいかんと、こうあります。敬老精神ということと排除するということと何かちゃんぽんになったような状況が世の中にあるような気がしますが、そういう点についての考えはどうでしょうか。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は人の能力、やる気というのは年齢とは関係ないと思っています。高齢者の方でも私よりも体力があったりとか、あるいは物すごいアイデアをお持ちの方がいらっしゃいます。かといって、例えば、20代以下でまだまだ半人前やろうもんと、武雄はその風潮もやっぱり強かですね。だから、そういう意味で、私は年齢とか性別とかと人の能力、やる気というのは全く関係ないと思っていますし、もしそういったことを理由にして、武雄にある企業の雇用者がそれを排除するといったら、それは私はけしからぬ話だというふうに思っております。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

今の市長のお考えを聞いて、ちょっとほっと安心をしたというのはおかしいですけど、私はわかるつもりでございましたけど、市長が提案されるわかもん会、グループですね、研究会、もちろん若い人だけに限らず、年齢関係なく、例えば、若い職員だけじゃなくて、部課長でも若い気持ちを持った人、やる気のある人はいいよということでしょうけれども、そうい

うことで、かなり若い連中が一生懸命やる気を起こして頑張っていることも事実だし、評価もしております。

ところが、人間いろいろあると思ひまして、やはり自分は若かと思つたっちゃ、年齢的に年をとっていると。私は自分で若いと思っていますよ。まだ75歳ですから、大したことないと思っています。今からだと思っているわけですよ。そういう気持ちの中ですけども、問題は、そういうことはあり得んと思うですけども、例えば、頑張ってきて課長になった、部長になったという方々の中に、やはりテンポについていけんと言うとおかしいですけども、やっぱりそれぞれの生活をしたリズムが違うわけですから、リズムが違って違和感を持った人があるんじゃないかと。それが市全体の役所の活力を阻害しているということになると、やはり心配があるんだなと思うんですけども、そういうことはないでしょうね。これは質問になるんでしょうかね。

という感じがします。でも、これは聞きません。ですけども、そういったようないろんな立場の考え方ですね、私はいわゆる高齢者だけではできない問題もたくさんあるような気がします。でも、全体に市民の中で市長はよう頑張るばいと、思い切ってどんどんやってもらっていると。ところが、やはりなかなかですね、いきなりついていけん人も世の中にはおるわけですから、そういう点については、できるだけ説明責任といいますか、私もパブリックコメントというのを選挙の公約にきっちり書いてやった議員の一人ですから、そういう点はいつも考えているわけですけども、やはりそういう問題を起こすときには、前もって相談したことがかえってマイナスになることがありますね。理解してもらえん場合もあるわけですよ。ですけども、そういう問題の取り組み方というのもたくさんの市政の中では、将来、ここをもっと大きくするためには必要ではなかろうかという気が一面するわけです。

この問題はここまでにいたしまして、次に、いじめの問題、心の教育の問題についてお尋ねをしたいと思います。

これは教育長にお尋ねしますけれども、きょうも少子・高齢化の問題と同時に、いろんな問題がございましたけれども、いじめの問題がありまして、いじめの問題は非常に深刻な問題でございますが、このいじめの問題の中で、実はきょうは金子みすゞの本を図書館から借りてまいりました。この中で「わたしと小鳥と鈴と」というテーマでございますけれども、「わたしが両手を広げても、お空はちっとも飛べないが、飛べる小鳥はわたしのよう、地べたを早くは走れない。わたしが体をゆすっても、きれいな音は出ないけれど、あの鳴る鈴はわたしのよう、たくさんの歌は知らないよ。鈴と小鳥と、それからわたし、みんな違って、みんないい」と。「みんな違って、みんないい」、この最後の1行ですね、これが私は心にじーんとくるものがありまして、金子みすゞのこの言葉を議長をさせてもらっているときに成人式で若い人に話をしました。その当時、ちょうどオンリーワンというですかね、ナ

ンバーワンじゃなくていいと、オンリーワンでいいから自分の生き方をという話題が出まして、私はそれと対比しながら話をした、みんな違っていい。

私はいじめの問題は、自分と違うものを排除しようとするときに起こるんじゃないかと、一面でそういう思いもするわけです。この言葉といじめとの関係ですね。教育長のきのうからの答弁では、武雄市においても今は件数は多くないんですけれども、ただ、表面上出てきたいじめと同時に、もう一つは、例えば、なぐられたとか、押されたとか、言葉でいろいろ言われたとか、ダサいとか、汚いとか、臭いとか、そういうふうな言葉以外の、例えば、無視することもいじめじゃないかと思うわけですよ。みんな違って、みんないいと、お互いがお互いを尊重し合う、そういう気持ちを持ったときにいじめはなくなるんじゃないかと思えますけれども、現実問題としては、いじめのために命を落とす若い人もいるし、子供もいます。そのたびにいろんなトラブルも起こっています。

それについては、教育長の考え方と現状ですね、武雄市におけるいじめ対策。そして、市長は今度若い子供たちにも話をしてもらおうということで、きのうも質問があっておりまして、お答えいただきました。単に５年生、６年生だけでなく、本当はもっと小さい低学年、いわゆるいじめは２年生、３年生から始まっているわけですよ。後で事例をお話ししますけれども、そういうことで考えているわけですが、まずは教育長から、それについての考え方を承りたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

今の質問に答える前に、一つだけ訂正をさせていただきます。

先ほど古川議員の質問の中で、大川小学校の現在の人数を120名ぐらいと言ったと思いますが、先ほど調べてみましたら146名でございまして、訂正をさせていただきます。

さて、いじめについてでございますが、非常に深刻な子供たちの世界が広がっているということは皆さん御承知のとおりでございます。今、金子みすゞの詩を朗読いただきましたが、そろえの教育というものを進めますというと、そこに排除という世界が生まれてまいります。ここが実はいじめの一番発生しやすい原点である。そうしますというと、やはりきのうも申させていただいたと思いますが、違いを認め合う、ここがやはり原点においた教育実践の場の展開でなければならないし、家庭教育におきましては親は違いを認める、違いに価値を意味づけをしていく、これが非常に大事だろうと、こういうふうに思います。

それで、これまでもいろいろといじめ問題等について、私どもの方に報告、相談等を受けますものを見てまいりますというと、やはりその違いというものの世界が弱いというものも結構ございました。そういう意味で、これから違いを認め合う学級集団づくりと、これが非常に大事であるし、一人一人の自尊感情を大事にする、そういう世界づくりも非常に大事で

あるということを現場職員ともども共有をしていかなければならないと思っています。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

今、いじめの問題が出てまいりましたけれども、めったにこういうことをお話しすることはなかったんですけれども、私の子供は3人いますが、上の双子、未熟児で生まれましたので、体は小さいし、なかなか学校でもいじめられておりました。それは知りませんでした。ですけれども、近所の子供が「礼史君はかわいそうに。いじめられて、毎日トイレに行って学校に行っている」という話をしたわけですよ。子供たちは友達のことは余り言いません。もちろん大きくなっていますから思い出という形になりますけれども、同じではあると思うんですよ。学校は好きだから行きたいんですよ。友達にも会いたい、勉強したい。でも、学校に行って教室に入ったらいじめられると。だから、その間、トイレに入って、授業が始まったら、ぱっと教室に入って勉強に入る。それで、終わったら、ぱっとまたトイレに隠れている、そういう状況が続きました。うちは双子ですから、そういう状況でした。高校に行っても、1人はいじめられました。

ですけれども、私は子供にこういうふうに言ったわけですよ。いじめられん方法が三つあると。しかし、その前に、本当はこれはいけなかったんですけれども、「あなたも何かいじめられるようなことをせんやったね」と、つい言うたわけですよ。もちろんかぶりを振りました。もちろん相手をいじめるようなことはうちの子はしないと、私はそう思っていました。でも、そう言いました。やはり先生方が「あなたが何かしたとやなかね」と仮に学校でいじめられている子供に言ったときに、いじめられている側が悪いように印象を受けるようなこともあるわけですから、いじめ対策については大事なことだと思います。ですけれども、そういうふうな問題がありました。

そのとき、私はこういうふう子供に教えました。いじめられん方法が三つあると。一つは、まず、相手よりけんかに強くなれと言いました。そうすると、相手はいじめられんですから、逆ですからね。要するに弱者になるなと。いわゆる弱い者いじめという言葉を使っちゃいかんと今は言われているわけです。弱い者いじめという言葉はいかんということをいつか教育長からお聞きしたことがありますけれども、とにかくそのときは私はそう言ったわけですよ。相手よりけんかが強くなれと。しかし、未熟児で小さい体ですし、それは無理かわからん。

そしたら、二つ目を教えてあげると。二つ目は、勉強でもスポーツでも何でもよかけん、人に一目、二目置かれるような人間になれということを言いました。あれは勉強できるけんなど、ちょっといじめを敬遠するような状況になるでしょうし、スポーツはかなわんもんなとか、いろいろあると思うんですよ。ですけれども、それじゃ、スポーツはできんもんです

から勉強しようと一生懸命勉強したら、かえっていじめられるようになったわけですよ。余り成績がーちょっとよ過ぎたと言えはおかしいですが、いじめられるようになったんですよ。そしたら、スポーツをやれと言いました。スポーツをやって、とうとう高校に行ったときは陸上部のキャプテンまでなって、長距離を走るようになったわけですよ。

ところが、もう一つ、2番目の子供に言いました。もう一つ方法がある。もう一つは、とにかく人より優れた者になるとまでは言い切らんなら、最後の手段が一つあると。それはなぐられたときによける練習をせろと言いました。なぐられても、なぐられても、ぱっとよけたら、相手はとうとうくたびれて最後はなぐらんごとなるじゃろうと。しかし、そのままをやめたら負け犬になると。だから、相手がくたびれたころ、やっつけろと、私は男親としてはそう言ったわけですよ。しかし、それが息子がボクシングをするようになるとは思わなかったわけですよ。あの2番目のボクシングは、そういういじめ体験の中から出てきたものが心の中にあったんじゃなかろうかと思います。でも、なぐられても、なぐられても、最後は相手を倒す、そういう気迫だけを持ってやれと、よう言いました。

しかし、この三つの教えと言うとおかしいですけども、これが必ずしもすべての子供に適用するとは思いません。ですけども、少なくともですね、よく言われます。「おたくの子供さん頑張ってるですね」と言われてうれしゅうございますけれども、そういういじめられた体験というのがあったわけですよ。

ところが、私は一番強かったのは家内だと思います。そういうことを聞いてから、実は私は学校には言いませんでしたけれども、学校に出向いて行って、相手の子供にも会って、親にも会って、いじめんようにしてほしいと言に行っておるわけですよ。一番下にもう1人おりますが、その子は柔道をやって元気でしたけれども、2人の兄貴がいじめられんように、一番下の子がまた頑張ってきたわけですよ。今、NPOをやっている子ですけども、とにかくですね、おまえはうちの兄ちゃんばいじめたらといって、けんかしに行くわけですよ。いじめた者とけんかしに行くと。本当にこれは笑い話じゃないですけども、それくらいに深刻な問題でした。ですけども、そういう問題を何とかクリアして成長してくれましたけれども、私は今そういう問題を抱えたときに、いじめの問題の深刻さというのを、たまたま私たちはそういうことを切り抜けたからですけども、今からの子供たちにとっては本当に生きるか死ぬかの問題ということになりますと大事なことですから、その問題について、私はあえて一つの経験としてお話ししましたけれども、私がお話したのは一つのストーリーとして聞いてもらって結構ですけども、現実には自分の子供がそうして立ち上がっていったという一つの経過。

もう一つは、実は学校の現場でいじめられたときの学年が3年、4年の学年でした。ですけども、そのときは新任の先生が来て、いじめられていることがわかって、どうしても対応ができなくて、その先生は本当に純粋な先生でしたから、つい自分までが泣き出してしま

うと。いじめを阻止、あるいは指導するというふうな立場以前に、自分が何でもかぶってしまうという本当につらい経験を先生はされました。ところが、5年になって担任が変わりました。かわったら、本当に生き生き勉強するようになってきたわけです。担任の先生のせいじゃないですよ。クラスがえとか、いろいろな問題もあるでしょうけれども、しかし、5年になったら、とにかく目標を達成するように頑張るようになったわけです。ですから、やはり先生の問題とか環境の問題が子供たちのいじめにとっても随分影響があるんだなということをしみじみと感じたわけです。

そういう意味で、やはり小さい学校というのはおかしいですけども、1クラスしかない学校、あるいは2クラスで人数が少ない学校はクラスをかわっても、とにかく1年生のときにいじめられた子は6年までずっといじめられるわけですよ。そういう問題はどういうふうにして学校としては対処してあるか、そういう点について、教育長、所見があれば聞かせていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

庭木教育長

○庭木教育長〔登壇〕

単学級の場合には、往々にして初期の対応を誤りますという、そういうことが起こりがちなんですね。ですから、このあたりは非常に現場教師としては気を引き締めていかなければならないわけですが、私が今、現場の方をお願いをしておりますことは、組織として常に動ける学校体制をつくってくれと。担任だけではわからんと。だから、小さい学校はとにかく組織として動ける、そういう体制強化を図っていただけないでしょうかと。そして、学校職員の中で心配であれば、やはり素早い情報を関係の皆さん方に共通に提供いただき、そして、客観的な視点での会議を持っていただきたいと。これが主観的な情報で、一方には流し、一方には流さないとなりますという、非常にこれは誤解を生むわけでございます。ですから、今申しましたようなことで現場の方には今お願いをしております。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

教育の審議会がいじめ対策について、いろいろと論議が出されて、今まではいじめられる側だけのことで対応をいろいろと言っていましたけれども、いじめる方の問題がなかなかきちんとした形で出てこない。だから、学級分離とか、あるいは指導とかと、いろいろな問題がございました。でも、本当にそういう問題等については、市長も今度子供たちと対話をされますので、どういうふうな点がポイントなんだろうかな。話の中身を先に言えというわけにいきませんけれども、例えば、いわゆる政府がいじめの問題に関する8項目の緊急提言をするとまとめてありますが、それに関する問題で市長がお感じのところをお話いただき

たいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私が市長と子どもと語る会で語ろうと思っているのは、私は30代後半になります。それでも、いじめられた方、いじめた方、どちらも心の傷になっておるわけですね。だから、今の自分の目線に立って、これは一生引きずる問題だということを私の言葉で語りたいというふうに思っています。

それと同時に、私はいじめられている子に対して、さっき谷口議員の言葉の中に二つ目の言葉がありました。何か1個でもいいじめよる方に比べて得意なところのあるぎんた、それは自信につながると思うとですね。実際私はいじめられたことはないです。いじめたことも多分ないです。しかし、私は一つ思い出があります。というのも、小学校2年生のときに、私はぼおとしておったとですね。でくの坊と言われよったです。がたいも大きかったけんですね。しかし、相撲大会で、あれよ、あれよと勝ったわけですね。それを境に、今、親と話したときに、あの日をきっかけに少し変わったかもしれないとやっぱり言われたわけですね。子供にとって自信というのは、言い方は悪かかもしれませんが、やっぱり相手よりもちょっと自分が上ばいというふうに思ってもらえるような話をぜひ私は取り入れたいというふうに率直に思いました。

そういう意味で、話は戻りますけれども、いじめる方、いじめられる側に対して、今の私の気持ち、そして、その年代の気持ちですよ、大人になっても響くけんがやめとけという気持ち、それと自信を持つようにと。そして、もう一つがやっぱりつながっているんだというメッセージを自分の言葉で率直に語りたいというふうに思っておりますし、教育長にも同席してもらいますので、教育のプロ、あるいは教育として私が足りない部分というのは教育の立場からきちんとフォローをしていただこうというふうに考えております。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

確かに今、市長の話がありましたように、そういう視点で子供たちに語りかけていただけたら、子供たちも胸を開いて、いろいろ感じるところがあるんだろうという期待をしておるわけです。

とにかくいじめ問題については、いろんな意見があります。こうしたらどうかとか、逆にいじめる子供をきちんと取り締まりはおかしいですけれども、厳しくやれとか、いろいろありますけれども、いわば実効性の問題があるわけですよ。本当に効果のある、そして、心の問題がいじめの問題ではありますので、そういう実効性を伴わないいろんな批判とかいうの

は、むしろマイナスになるような気も一面するわけです。私はとにかくいろいろと問題に取り組んでいる子供たちとも話をしますけれども、それこそ、まさに命がけでそういう問題に取り組んでいるような気がいたします。

このことについての最後に一言申し上げますけれども、実はいじめた子供がスポーツをやっていました。後になるとお互いがそこらを理解したと思いますけれども、本当にスポーツで頑張ったときに、うちの子供のいじめられた2人が一生懸命拍手を送っていたことを今思い出すわけです。そういうことを考えましたときに、やっぱりある時期にきちっとそういう関係を修復しておけば、それは大人の責任でもあるし、学校とも、あるいは地域の責任でもあろうかと思えますけれども、そういう問題があろうかと思えます。

一応この問題については、やっぱりお互いがいじめの問題を他人のことと考えないで、本当に身近な問題としてともに考えてあげる必要があるんじゃないかと。今、子供たちが何かやっていると、やっぱり途中でも注意します。帰っていると、「用心してね」と必ずどこの子供にも私は声をかけてあげますけれども、なかなか今の世の中は変に声をかけると変なふう言われまして、難しい問題があります。ですけれども、基本ですから、やっぱり少子・高齢化といっても、今ある子供たちは元気で育ってもらわんと意味もないわけですから、そういうことを感じるわけでございます。

続きまして、いわゆる弱い人に対する問題、先ほど元気なお年寄りを紹介しましたけれども、お年寄りはずしも元気な人ばかりじゃないわけですよ。本当にお年寄りの方はいたわってあげにやいかん。今までのことに感謝しながら、いたわってあげにやいかん問題があります。あと残りがちょっとございまして、その間にお話ししたいと思います。とにかく現在、武雄市における高齢者対策ですね、きのうからの話も出てまいりましたけれども、例えば、高齢者の課税の仕組みですね、高齢者控除とか、いろんな問題が税法上も非常にマイナスになっているし、病院代、治療費にいたしましても2割負担から3割負担まで、本当にお年寄りの受難な年になろうと。少子化の問題もそうですけれども、国は第1子、第2子、今まで5千円ずつやっていたね。第3子は10千円だったわけですよ。ところが、それじゃ効果がないと。本当に子供を育てるのにいかにお金がかかるかといって、結局きょう付でですか、第1子は10千円やると。第2子も10千円だと。第3子は10千円やっているけん、本当に毎月そういう対応をして、少しでも子供たちが健やかに伸びていくような対応をし、子育ての苦労もわかったというふうな形で、きょう朝、出かける前にニュースでも言っていました。ところが、お年寄りについては、なかなかそういうわけいかんわけですよ。

そういう点について、高齢者対策について、武雄市として取り組んでいることについてお話をいただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

○ 中原福祉保健部長〔登壇〕

武雄市の高齢者対策ということでございますが、武雄市のために大いに貢献していただいた高齢者の方が豊かな人生、生きがいのある人生を送っていただくように、いろんな事業をしているところでございます。

一つとしては、いわゆる介護が必要になった場合は介護保険事業で介護支援を行っておりますし、元気な方については、生きがい対策として就労支援の場としてシルバー人材センターの活動に参画をしていただくということ等に取り組んでおります。

また、高齢者の健康づくりのため健康増進課の方で事業を推進いたしておりますし、いつまでも達者が高齢者であられるように、平成12年にたっしゃかプランというのをつくりました。実は合併をして、本年度からたっしゃかプランの見直しに取りかかっているところでございます。高齢化社会を迎え、ますます元気に暮らしていただけるよう、たっしゃかプランの充実を進めたいというふうに考えているところでございます。

○ 議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○ 樋渡市長〔登壇〕

今後、武雄市では予防医学に力を入れていかなければいけないというふうに思っております。その中で一つ、私、具約、公約にも入れておりますけれども、予防接種の見直しを私はせんばいかんというふうに実は思っております。というのも、ちょっとこれはまだ詳しく精査したわけじゃありません。しかし、予防接種の中身が充実しているところは結果的に医療費がかからないという相関関係がどうもあるようです。これは厚生労働省と今後詰めていきますけれども、そういう意味で、病気にならないとか、あるいは病院にかからない。それは日々の健康を維持していくための健康講座もあるかもしれませんけれども、それと同時に、それと並ぶものとして予防接種の見直しができないか。これは医師会から内々に私の方に話も来ております。そういう意味で、どういう予防接種の仕方があるか。インフルエンザにもいっぱいあるらしかですね。今、ストマックフルというともあるらしかですね。胃がインフルエンザにかかる。それで命を落とされる方々とか、それが肺炎につながっていくとか、それを防止するための防波堤になるようなものを今後検討していきたいというふうに考えております。

○ 議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○ 30番（谷口攝久君）〔登壇〕

今、市長がお年寄りが病気する前に予防接種の問題ですね、予防の問題を取り上げてもらって取り組むということでございますので、確かに必要なことだと思って期待をしておるわけです。最近、予防接種となると、インフルエンザは別として、子供たちのBCGとか、あ

るいはポリオとかなんとか、要するに予防接種でかえって病気したとかといろいろ言われたために、何か予防接種をちゅうちょしているというふうなことまでの時代ですから、それは確かにそういうことはあったかもわからんけれども、本当に健康であるためには、病気する前が健康でなきゃいかんわけですから、そういう意味で大事なことだと思います。

同時に、例えば、健康増進課にいたしましても、お年寄りの健康づくりは、かなり高齢化して治療費だって高くなっていると。あるいはまた、介護保険だって料金が上がっていると。きょうは時間があと15分しかありませんので、介護保険の問題についてはなかなか述べる時間がありませんけれども、そういったような健康づくりについて、どういう取り組みをしてあるか、そういう点をお尋ねしたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

中原福祉保健部長

○中原福祉保健部長〔登壇〕

健康づくりについてお答えいたします。

まず、全体的な健康づくりといたしまして住民基本健診がございます。その他、肝疾患、結核疾患、動脈硬化検診、各種がん検診、それから、これはお年寄りを中心となろうかと思いますが、骨粗鬆症の検診等を行っております。その他、健康づくり教室、介護予防教室、老人クラブの出前講座の中で軽運動の推進とか、そういう病気にならないための予防事業に取り組んでいるところでございます。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

前段で出てまいりました元気な武雄のがばいばあちゃんですかね、そういう方は、私はちょっと名前を申し上げませんでしたけれども、これは公にしてもいい方ですけど、井上ナミさんとおっしゃいまして、下西山の方だそうです。本当に下西山には心の優しいお年寄りがたくさんいらっしゃるなと思います。

そういうことで、本当にボランティア活動でもどんどんやっていくというふうな気持ちをお持ちでございまして、そういう元気なお年寄りと同時に、やっぱり市役所の階段を上にしても用心しながら上っていく方もいらっしゃいます。早速、いわゆる裏の階段には手すりをつけてもらって、きょうもまた上がってきましたけど、非常にありがたく思いました。

同時に、ただもう一つ、これもせっかくなつくってもらってから、こう言っては申しわけないんですけど、もう一声心を込めてほしいのは、実は通常の階段は、市役所の中央階段はあれでいいんですよ、傾斜が緩いですから。傾斜が強いところは、場合によっては握ったら体の重い人はつるっと滑る可能性があるんですよ。つるっとします。そうすると、玄関の入り口にあるのは、そういう滑りを予防するための措置がしてある心の込められた手すりなんです

よ。ところが、せっかくしてもらったのにぜいたく言っては悪いですけども、行ってみてください。自分が手すりを握りこうしたら、つるっと滑ります。そうすると、かえって事故が起こる可能性があるような気がするわけですよ。（笑声）いや、本当の話ですよ。これは健康な人にはわかりませんけれども、せっかくお金をかけてつくったんですよ。立派なもんですよ。（発言する者あり）いやいや、それは今つけよるとは私が言ってきました、そういう問題についてちゃんとしてほしいと。要するに問題は、テープをつけるというよりも、そういうものをするときに前もって、今、少し穴のあいているのがあるんですよ。それをつければコストも安いわけですよ。ですけども、そういうことは別として、そういう取り組みをしてもらったらいいですよ。するんだということを言ってもらえば、それで結構ですよ。どうぞ。考え方を申し上げたんです。

○議長（杉原豊喜君）

大庭総務部長

○大庭総務部長〔登壇〕

今、谷口議員がおっしゃった東側の階段ですけども、これについては、滑りどめをきのうつけさせていただきました。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

早速していただいたとすれば、したと言ってもらえば私は質問せんでもよかったんですが。

私が申し上げたいのは、そういう大事なことは、いきなりここで申し上げるんじゃなくて、前もって申し上げた上でしか私は言いません。少なくともその時点までは、私がきのう帰るときまでの時点ではきちっとでき上がっていなかったから、そういう問題は、同じつくるならば、そういう心を込めたものをしてほしいということなんですよ。しかも、コストが安くできるとすれば、そうだと思います。

次に移りますけれども、今、実は障害を持つ方々にとっていろんな問題がございます。順序は逆になっておりますけれども、心の福祉、私は福祉のいじめも心の福祉の問題があるような気がいたします。

今、武雄市の観光問題にしても、いろんな方々が武雄に見えたときに一番大事な問題は何かということ、武雄にせっかく来てもらったら、武雄のことを知ってもらいたいことだと思います。知って来る人も、来てから知る人もいらっしゃるわけですよ。そのときに最前線に立っているのが、いつか申し上げましたように、はりとか、きゅうとか、マッサージとか、あんまをしてもらう、そういう方々が観光客の最前線に、おふろ上がりに肩をもんでもらう、腰をもんでもらう。その中で、よもやま話で出てくるのは武雄はどがんところですかという話なわけですよ。そしたら、武雄のことをその方々にまず知ってもらえば何よりもということで、

ここにちょっと資料がありますけれども、歴史資料館では武雄に列車が来た日ということで、そのときは実際に目が見えない方でも展覧会に行って、さわってみて初めて、実感としてあって、その中で話をしてもらいました。

そのときの話が出てきて、実は読み聞かせの会というのがありまして、その会がいわゆる市報を読んでもらっていると。テープに吹き込んでもらっていると。それを聞くと随分と武雄のことに詳しいわけですよ。そしたら、武雄の歴史と文化、伝統、山内、北方を含めて話をしてほしいと。それを今、読み聞かせの会が録音テープに吹き込んで、それを進呈してもらおうような努力をしてもらっています。

それを受けて市長にお尋ねしたいことがーお尋ねしたいというか、報告をせんといかんことがあるんですけども、例えば今、市長は武雄に学校をつくりたいと、大学をつくりたいという話等もしてあります。その皆さんがこういったように安心・安全・信頼ということの中で、手技療法士、要するにはり、きゅう、マッサージの方々が自分たちの学校をつくらうじゃないかと。そして、武雄に九州いっぱいこの不自由な方々に集まってもらって、今は目の不自由な方々の仕事まで健常者がとってしまう時代ですよ。それを自分たちが学校というとおかしいですけども、大学と言えるかわかりませんが、そういう専門的なものを、自分たちが持っているノウハウを生かした学習塾的な大きいものをつくって、武雄をそういうもののメッカにしたらどうかというぐあいで今検討しているということで資料をいただきました。

この資料を執行部の方にもお渡ししておきましたので、今後そういったようなものに取り組みたい、中身はまだお読みになっていないかわかりませんが、そういう取り組みをするということがありますので、本当に自分たちもそういう努力をしたいと。そして、武雄市にお世話になっているからという話でございましたので、あえてそういう取り組みをしていますので、そういうときはぜひひとつ力をかしていただきたいと、こういう気がするわけです。

それについて、市長、お考えを聞かせていただきたいと思います。

○議長（杉原豊喜君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

ちょっと中身を見てから慎重に判断したいと思いますけれども、御質問の中身からすれば非常にいい話だというふうに思っておりますので、市として支援ができることがあるような気がしますので、またちょっと資料をきょう議会が終わったら読まさせていただければと思います。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員

○30番（谷口攝久君）〔登壇〕

あと3分ですが、2分は余裕を残します。あと1分で申し上げますけれども、実はきのうから山内のことがいっぱい出てきまして、山内は大変なところばいねと思っていました。しかし、きょう手にした新聞には、本には「山内町の手前みそ」ということで、山内というのは武雄よりもはるかにすばらしいところですねということを感じるような資料が出てまいったわけですが、これについては別として、要するにこういう問題の中で、今、武雄市の市立図書館では本当に子供の童話の世界をいろんなもので見事に再現した展覧会がやっているわけです。ところが、せっかくの企画が広報にはことし載っていない。1月号に載るというと、もう終わってしまうわけですよ。そういうふうな取り組み、それからもう1点は、本当に苦口ですけれども、武雄市の文化財の広報12月号を見ても、さっき言いました流鏑馬、本当に心がけて一生懸命長く続いた流鏑馬の記事が間違っているわけですよ。武雄がきちっとした伝承をしたいと思うなら、きちんとしたやり方をしてほしいということを申し上げて、終わりたいと思います。

終わります。

○議長（杉原豊喜君）

30番谷口議員の質問を終了させていただきます。

以上で本日の日程は全部終了いたしました。

本日はこれにて散会いたします。どうもお疲れさまでした。

散 会 16時16分